

七 雜件

一 東北（滿蒙）鐵道懸案関係

本件ニ關シテハ客年七月十一日附機密公第二五九號ヲ以テ
大野事務代理ヨリ大要報告ノ次第モアル處其後種々變更ヲ
生シ殆ト前報ノ影ヲ留メサルコトトナレルカ元來此ノ鐵道
ハ鄧作華將軍ヲ督辦トセル興安屯懇區ノ積極開發策ト支那
ノ懸案力漸ク同十八年ニ至リ再ヒ擡頭シタルモノニシテ當初
鄧督辦ノ計畫タル（一）純内國資本（二）洮安起點（三）

洮索鐵道の敷設狀況について

機密公第一九號

1 昭和5年1月9日 在鄭家屯遠山（峻）領事代理より
幣原（喜重郎）外務大臣宛

（1月17日接受）

昭和五年一月九日

在鄭家屯

領事代理 遠山 峻〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

洮索鐵道敷設狀況ニ關スル件

本件ニ關シテハ客年七月十一日附機密公第二五九號ヲ以テ

大野事務代理ヨリ大要報告ノ次第モアル處其後種々變更ヲ

生シ殆ト前報ノ影ヲ留メサルコトトナレルカ元來此ノ鐵道

ハ鄧作華將軍ヲ督辦トセル興安屯懇區ノ積極開發策ト支那

ノ懸案力漸ク同十八年ニ至リ再ヒ擡頭シタルモノニシテ當初

鄧督辦ノ計畫タル（一）純内國資本（二）洮安起點（三）

手ニ委スルコト（6）枕木其ノ他ノ木材ハ主トシテ吉林材

日本外交文書 昭和期I第一部第四卷 日付索引

1 治外法権問題	1066
2 領事裁判権管轄問題	1046
3 中国沿海漁業・密輸問題	1041
4 中国国号改称問題	1015
5 義和団賠償金問題	957
6 霧社事件関係	933

一 東北（滿蒙）鐵道懸案関係

索倫終點ニ對シ洮南市民側ヨリ反対ヲ唱ヘ洮南起點說ヲ主張シ之カ實現方法トシテ洮索鐵道敷設費中三十萬元及從業員用宿舍百五十間房子ヲ提供スル條件ヲ付シ百方運動ノ結果一時ハ稍ヤ可能性ヲ認ムル程度ニ進捗ヲ見タルモ其ノ後洮南市力奉天邊業銀行ヨリ三十萬元借款ニ關シ相談纏マラス結局鄧督辦當初ノ計畫ニ還元シ民國十八年八月上旬（1）

鐵道敷設總經費ヲ銀四百萬元トシ内二百萬元ハ京奉鐵路局長高紀毅氏殘二百萬元ハ鄧督辦ニ於テ各調達スルコト（2）洮安^{（起）}記點驛ヲ白城子北門トシ及平安、葛根廟、王爺廟、奈公以下一驛未定、索倫（終點）ノ七驛ヲ設置スルコト（3）鐵路ノ延長ヲ百八十杆（百三十一哩）トシ（4）土工一平方米ノ工費ヲ大洋銀一元五角トシ線路土工總面積二十万平方米ニ對スル總費三十萬元ヲ四平街支那人請負業榮生土木建築公司經理人孔廣生ヲシテ施行セシムルコト（5）軌道敷設工事ハ洮索鐵路局ノ直營トシ邦人經營東亞土木會社ノ

1 敷設工事ハ洮索鐵路局ノ直營トシ邦人經營東亞土木會社ノ

ヲ使用スルコト（7）軌道約三万噸ハ全部米國ニ注文スルコト等ヲ決定シ次テ鐵道從業員五十名工夫三百名ヲ募集洮安ニ輸送シ同年八月十五日工事ニ着手シ同月下旬ニハ無電ノ開通ヲ見タリ越ヘテ九月中旬ニハ實際土工ニ從事セル苦力數三千名ノ多キニ達シ平均一日ノ土工進捗率ハ六支里ノ割合ト查定サレ結冰期迄ニハ全部ノ土工ヲ竣工セシメ白城子驛ヨリ八十八杆ノ地點葛根廟迄軌道ヲ敷設シ同時ニ其ノ區間建築車ヲ運轉セシムル豫定トナレリ而シテ同年十月一 日ニハ吉林產京都帝大工科出身工學士張魁恩氏ヲ正式ニ洮索鐵路局長ニ任命シ更ニ索倫驛ヨリ二龍索口ニ至ル炭礦探掘支線ヲ延長併設スルコトヲ決定シタリ同炭礦ハ未タ實地視察シタルコトナキモ各關係支那人ノ言ニ依レハ其ノ炭層、炭質等恰モ我撫順炭ニ匹適^(値)スル良炭ニシテ目下二百名ノ屯墾兵ニヨリ坑道掘鑿^(掘)中ノ趣ニテ前同年冬期迄ニハ少ナクトモ興安屯墾區丈ケノ需要供給ヲ滿スニ足ルヘキ出炭ヲ見ル筈ナリソニカ同炭ハ將來洮索線ノ完成ト共ニ四洮、洮昂沿線各地ニ出廻リ一般ノ需要ニ應スルコトナルヘク然スレハ勢我撫順炭トノ競爭ハ免レサルヘシト見ラレ居レリ尙洮安驛ヨリ現在ノ市街ニ至ル間ノ空地ヲ新市街豫定地トシ長サ

コトニ決定シタルモ目下洮索鐵路局ニハ現金ナク之カ調達金策ノ爲メ客臘二十七日同局長張魁恩氏ヲ天津ニ派遣シタリト謂フ尙線路用枕木モ吉林材ヲ使用スル計畫ナリシモ是又資金ノ關係上軌道ト前後シ同シク滿鐵會社ヨリ數量價格不明ナルモ借款形式ニ依リ購入スルコトニ決シタル由ニテ客年末既三十万本ノ輸送方ニ關シ滿鐵會社ヨリ吉敦、洮昂ノ各鐵路局關係ニ夫々手配アリタルモノノ如シ更ニ昭和四年十月下旬洮索鐵路局長ハ鐵道建設資金調達策トシテ洮索沿線各地ニ於ケル屯墾公署ノ調査完了地域ニ限リ一方地ニ對シ等地三百元、二等地二百七元^(十次)、三等地二百五十元、等外二百元ノ地價ヲ以テ希望者ニ土地ノ賣却ヲ爲ス旨ノ布告ヲ發シ同時ニ興安屯墾區測量隊六十名ヲ組織シ沿線各地ニ於ケル土地ノ測量ニ從事セシメタルカ右ハ主トシテ從來索倫地方ハ索倫設治局ヲ置キ其ノ治下ニアリシニ索倫縣ヲ置クコトヲ東北政治委員會ニ申請シ其ノ認可ヲ得タル趣ニテ洮安ニ興安市政籌備處ヲ置キ處長ニ李峰氏ヲ

一東北（満蒙）鉄道懸案関係

百尺幅百八十尺ヲ一區劃トシ現洋銀四百元トシ三ヶ年間年賦償還法ニ依リ住宅建築地ニ拂下實施中ナルヲ以テ現在洮安戶口數千三百戸七千七百人ナルモ將來線路完成ト共ニ一大發展ヲ豫想セラル

興安屯墾督辦公署ハ市内北門外ニ在リ黒煉瓦平家建ニシテ一棟十間房子七棟ヲ有シ其ノ内ニ職員住宅、事務室、試驗室、倉庫、應接室、發電所、無線電信所等アリ自動車十臺ヲ備ヘ洮安、索倫間ヲ盛ニ往來活動シツツアリ

元來米國ニ注文スヘキ筈ナリシ軌道約三万噸ハ一應米國商人ニ價格ノ問合セヲ爲シタルニ高價ニシテ豫定價格トノ開キ多ク到底購入不能トナリ十月月中旬全部我滿鐵會社ヨリ一頓金百圓ニテ供給ニ應スルコトナリ内二万噸ハ昭和四年中ニ他ノ一万噸ハ昭和五年中各完納スルコトニ交渉纏マリタル趣ナリシカ之ニ對シ洮索鐵路局ト東北交通委員會トノ間ニ意見ヲ異ニシ容易ニ契約締結ノ運ニ至ラサリシ處漸ク昭和四年十二月中右双方ノ諒解成リ愈正式ニ我滿鐵會社ヨリ古軌道百二十噸（一噸五十圓ノ價格）ヲ百七十萬圓ニテ買賣契約成立シ昭和五年六月迄ニ完納スルコトナリ代金ハ金額ノ半金八十五萬圓ヲ即時拂込ミ他ノ一半ハ借款スル

任命シ是ニ前記測量隊ヲ附屬セシメ專ラ之力區劃及賣下地域ノ實測ニ當ランマルモノナリト云フ

然ルニ興安區札賚特旗下ノ蒙古人等ハ屯墾區設置以來蒙人唯一ノ傳來的生業タル放牧事業ヲ侵食縮少セラルニ鑑ミ屯墾事業ニ反對ヲ唱ヘ動モスレハ同地方匪賊等ト結託シ不穩ノ行動ニ出テ屯墾區ニ於ケル諸種ノ事業進捗上ニ妨碍セントスルコト往々アルニヨリ鄒督辦ハ最近區内有力蒙人數名ヲ顧問ニ傭聘シ之力懷柔ニ努メ一面屯墾區軍務處清鄉隊ヲ以テ警備隊ヲ組織シ同族蒙人等ノ取締ニ當ラシメツツアリ又沿線中心地ナル王爺廟ヲ中堅ニ將來洮安、索倫ノ兩方面ニ涉ル開發並ニ警備ニ資セん爲メ同地ニ一大市街地ヲ建設スルト共ニ前記興安屯墾區警備司令部ヲ此ノ地ニ移駐セシムルノ計畫ヲ進メツツアルヲ以テ現在支蒙人ノ居住者六、七戸ニ過キサル一寒村モ鐵道開通後ハ異常ノ發展振ヲ示スニ至ルナルヘシト豫想セラル

屯墾區内ニ於ケル墾民ハ昨年十二月末現在四万三千五百名ト稱セラレ是ニ依リ耕耘セラレタル熟地ハ約三千万畝ニ達シ主トシテ包米、紅糧粟等ノ食糧雜穀類ヲ試作シ何レモ相當ノ収穫ヲ得越年シタル由ナレハ將來熟地ノ擴大、墾民增

加、增收工風等ニ依リ彼ノ地方ニ於ケル雜穀類ノ出廻リ夥シキモノアルニ至ラン

結氷期迄ニ竣工ノ豫定ナリシ鐵道土工ハ洮安ヲ距ル八十杆即チ王爺廟附近迄進捗シタルモ結氷期ニ入り工事全ク不能トナリ客年十二月六日限り工事中止ノ已ムナキニ至リ其ノ後休止シ居レルカ殘工事ハ本春解氷期ヲ待チ着手施行ノ筈ナリト

右御参考迄報告申進ス
本信寫付先
在支公使 奉天總領事

機密公第二四號

2 昭和5年1月15日 在長春田代(重徳)領事より

幣原外務大臣宛

中國國有鐵道貨物等級表の改訂により外國資

本による中國国内生産品にも運賃差別実施について

機密公第二四號

昭和五年一月十五日

在長春

(1月22日接受)

3 昭和5年1月15日 在長春田代(重徳)領事より

幣原外務大臣宛

今般南京政府鐵道部ニ於テハ全國貨物等級表ヲ別添印刷物ノ如ク改正シ本年一月一日ヨリ實施方東北交通委員會ヲ通シ吉長鐵路局ニ對シ指令アリ本月十一日同鐵路局長ヨリ滿鐵代表ニ對シ右改訂等級表ヲ移牒シ來リタルヲ以テ同代表ハ右ニ對シ本件ハ既ニ實施期ヲ經過シ居ルノミナラス貨物等級ノ改正ハ地方の二重大ナル利害アルヲ以テ本路ニ於テ詳細研究ノ必要アリ今直ニ此儘實施スルコト不可能ナル旨不敢回答シ且下引續キ研究中ナル趣ナル處右改訂等級表中特ニ注意ヲ要スル點ハ外國製品ト支那製品トヲ差別シ等級ヲ異ニセルハ從來ト雖モ多數アリタルモ今回ハ特ニ外國製品ナルモノノ説明ヲ改訂等級表第十七頁ノ如ク明瞭ニ指示セル結果外國ニテ製造セラルモノニシテ支那ニ輸入セラルモノハ勿論支那ノ土地ニ於テ生産セラルモノニテモ苟モ資本經營力外國人關係ナルニ於テハ一律ニ外國品ノ内ニ包含セシメタル點ニアリ

從來吉長鐵路ニ於テハ輸送貨物力外國品ナリヤ中國品ナリ

本信寫付先
在支公使 在奉天 吉林 哈爾賓 上海 南京各總領事領事

3 昭和5年1月20日 全滿地方委員連合會議長より
幣原外務大臣宛(電報)

満鉄地方行政權のみの關東厅移管に反対する旨の全滿地方委員連合会決議

付記 一月十七日付 三浦(和一)領事稿

「關東州外鐵道沿線ノ警察權ニ關スル件」

奉天 1月20日後発
本省 1月20日後着

滿洲ニ於ケル多頭政治統一機關ノ確立ハ在滿同胞ノ一致シタル希望ナリ故ニ統一機關確立前ニ於テ行政權ノミノ移管ハ全滿地方委員聯合會ノ決議ニ依リ反対ス

今同ノ改訂實施ニ依リ當方面邦人ノ蒙ムル影響甚大ナルノミナラス支那ノ鐵道力外國品ニ對シテ差別待遇ヲナスハ支那ニ關スル九國條約第五條支那ニ於ケル全鐵道ノ公平ナル待遇ニ關スル約定ニ違反スルモノナリト認メラル處右改訂ハ吉長鐵路ノミニ止マラス支那全國々有鐵道ニ適用セラ

ルモノナルヲ以テ本件ニ對スル措置振ニ付何等心得置クヘキ事アラハ折返シ御回訓ヲ仰キ度シ

(付記)

關東州外鐵道沿線ノ警察權ニ關スル件

(五、一、一七 三浦領事稿)

外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿

支那國有鐵道貨物等級表改訂ニ關スル件

(省略)

領事 田代 重徳 [印]

支那國有鐵道貨物等級表改訂ニ關スル件

(省略)

一 東北(滿蒙)鐵道懸案關係

満洲ニ於ケル行政機關統一ノ問題ヲ解決シ或ハ尠クトモ州外警察權ヲ外務省ノ手ニ收ムルコトハ帝國ノ對支政策乃至

對滿政策遂行上緊喫ノ要務タルコト言ヲ俟タサル所ニシテ機ニ臨ミ之力實現ヲ圖ルヘキハ勿論昭和四年春以來關東廳

ニ於テ計畫シツツアル滿鐵ノ州外行政權回収ノ問題力政府

ノ具体的考慮ニ上ルカ如キ場合ニハ外務省ハ進ムテ積極的

態度ニ出テ指導的地位ニ立チ以テ此ノ多年ノ懸案解決ニ努

ムルコト必要ナリト思料セラル處諸般ノ關係上結局ニ於

テ之力實現困難ナリトセハ次善ノ策トシテ州外警察權ノ運

用ニ關シ現行制度ニ適當ノ改正ヲ加ヘ出來得ル限り從來ノ

弊害芟除ニ努ムルノ外ナカルヘク差當リ其ノ方法トシテ考

慮シ得ヘキモノ左ノ如シ

(一)兼任事務官事務分掌規程並事務取扱規程ノ主旨勵行ノ途

ヲ講スルコト

昭和二年四月關東廳ハ外務省ト協議ノ上領事官タル關東廳

事務官事務分掌規程(省略)（別紙甲號）並領事官タル關東廳

事務官事務取扱規程（別紙乙號）ヲ内訓ノ形式ヲ以テ制定

發布シタルカ右ニ依レハ

(1)左ノ事務ハ別段ノ定アルヲ除ク外領事官タル事務官之

リ、其ノ他重要事項

(4)警察署長タル警視又ハ警部ノ進退身分ニ關スル事項及
警察職員ノ敍位敍勳並褒賞ニ關スル事項等ニ付キテハ
事務官之ヲ内申スルコト（取扱規程第二條）

トナリ居リ兼任事務官ノ權限ハ相當廣汎ニ亘リ居ル次第
ナルモ實際上ニ於テハ規程ノ主旨徹底ヲ欠キ奉天總領事
稟申ノ如ク幾多ノ欠陷アルヲ免レサルモノナリ
故ニ之力勵行ヲ期スルニハ州外ニ於ケル警察事務ハ關東
長官ノ專掌スル所ニ非スシテ事實上外務省側ト協力遂行
スルモノナリトノ主義ヲ確立シ之ヲ關東廳當局ニ徹底セ
ンムルノ要アリ

而シテ之力具體的方法トシテハ關東廳官制ヲ改正シ州外
事務官ハ關東長官ノ命ヲ承ケ州外ノ警察官ヲ指揮監督ス
ルノ規定ヲ設ケ又別ニ之カ任免黜陟ハ必ス兼任事務官ノ
内申又ハ關東廳側ヨリノ事前協議ヲ要ストノ原則ヲ樹立
遵守セシムルコト可然

然レトモ若シ右官制改正ヲ困難トスル事情アルニ於テハ
前記規程（内訓）ヲ正式ノ訓令ヲ以テ發布セシメ事實上
州外警察官ハ第一次的ニハ州外事務官ノ指揮監督ノ下ニ

ヲ掌ルコト（分掌規程第一條）

イ、警察署長タル警視又ハ警部ノ進退及身分ニ關スル
事項

ハ、警察ニ關スル重要事項

二、外國軍隊及軍需品ノ輸送承認ニ關スル事項

（内務行政ニ關スル事項ハ省略）

(2)警察署長タル警視又ハ警部ハ前項ノ事務ニ付事務官官
補佐スルコト（分掌規程第二條）

(3)左記事項ノ處理ニ付キテハ警察署長ハ領事官タル事務
官ノ指示ヲ受クルコト（取扱規程第一條第一號）

イ、警察官吏派出所ノ設置及廢止ニ關スル事項

ロ、出兵要求ニ關スル事項

ハ、新聞紙、雑誌發行ニ關スル事項

二、朝鮮人ノ保護取締ニ關スル重要事項
ホ、在留禁止ニ關スル事項

ヘ、外國人ノ退去ニ關スル事項

ト、協同防疫ニ關スル事項

チ、涉外事項

アルコトヲ闡明シ之ヲ徹底セシムルコト可然蓋シ現在ノ
如キ内訓ノ形式ニテハ執務用法規類集ニモ輯錄セラルル
コトナキヲ以テ一般警察官ノ注意ヲ惹カサルハ勿論該規
程ノ存在ヲ熟知シ居ルモノニ對シテモ右ハ領事側ニ對ス
ル義理立ノ内訓ニ過キストノ感觸ヲ与ヘ其ノ拘束力稀弱
ナルヲ免レス從テ關東廳側ヲシテ領事力關東廳ノ警察事
務ニ容喙シ五月蠅シト云フカ如キ誤リタル印象ヲサヘ懷
カシムルニ至ルヤノ虞アレハナリ
尙右ト同時ニ領事官タル兼任事務官ニ於テモ州外警察行
政ハ自己ノ責任ニ於テ行フモノナルコトヲ充分ニ認識シ
警察署内ニ事務室ヲ設ケシメ毎日執務時間ノ若干ヲ割キ
署内ニ於テ實務ヲ見ルノ建前ヲ取ルコト必要ナリ現在ノ
態度ハ消極的ニ過クルノ嫌アリ

(二)關東廳本廳ニ外務省出身者ヲ增遣スルコト

外務省カ關東廳ニ對シ深キ因縁ヲ有スルコトハ贅言ヲ俟
タサル所ナルカ現在ニ於テハ外務省ハ全然内地ノ地方役
人ニ關東廳ヲ明ケ渡シタル形トナリ居ル爲警察行政ハ勿
論其ノ他一般行政上關東州及鐵道附屬地特殊ノ事態ヲ辨
ヘサル施政ヲ見ル次第ナリ故ニ關東廳内ニ今少シク外務

省ノ空氣ヲ濃厚ナラシメ或程度迄内部ヨリ之ヲ「コントロール」スルノ要アリ往年外務省老先輩關東長官タリシコトアルモ制度トシテ常ニ之ヲ望ムコト不可能ナリトセハ幹部級ニ外務省出身者ヲ常置スルノ制度又ハ慣行ヲ作ルコト最モ有效ナリ例ヘハ關東廳ニ事務總長無キハ廳内ノ事務不統一ヲ來シ其ノ弊相當大ナルモノアリ事務總長設置ノ必要ハ廳内ニ於テモ等シク之ヲ認ムル所ニシテ朝鮮、臺灣トノ權衡上ヨリ見ルモ敢テ不當ニ非サルヲ以テ此際事務總長ノ職ヲ復活シ同時ニ關東廳及鐵道沿線特殊ノ事態ニ顧ミ事務總長ニハ必ス外務省出身者ヲ任命スルコトトナスカ如キハ外務省トシテ策ノ得タルモノナルヘク又警務局長ニ外務省出身者ヲ任命スルコトモ必シシモ不可能ニ非サルヘシ前記ノ諸案何レモ實現困難ナリトスレハ現在ノ外事課ヲ局ニ昇格シ關東廳内ニ於ケル外務省側ノ「ヴォイス」ヲ大且力アルモノストルコト最少限度ニ於テ必要ナリ（外事局ニ昇格ノ理由ハ事務ノ性質ト其ノ重要性、廳内ノ權衡、軍部滿鐵奉天總領事其他一般ニ對スル權衡等ニ求メ得ヘク事務ノ範囲ハ啓發事務、調查事務等ニ於テ擴張シ得ヘシ）

（昭和五年一月三浦私見）~~~~~

4 昭和5年1月22日 在奉天林（久治郎）總領事より
幣原外務大臣宛
エドガー・スノウとの会談において東北から
日本勢力駆逐には交通路建設が必須と張學良
ナルヘシ

度ヲ持續スルニ於テハ當然紛糾ヲ免レサルヘシト述ヘタル等注意スヘキ點アリ「キニー」ノ報告ハ直接既ニ御接到ノ事トハ存スルモ別紙寫相添ヘ右爲念報告ス

日本勢力駆逐には交通路建設が必須と張學良

本信寫送付先 北京、上海總領事、南京領事
~~~~~

5 昭和5年2月5日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛  
機密公第一〇二號  
（2月10日接受）

機密公第五四號  
（1月27日接受）

機密公第五四號  
昭和五年一月廿一日

在奉天

總領事 林 久治郎 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

米人記者ニ對スル張學良ノ會見談報告ノ件

滿鐵囑託「ヘハリー、キニー」ノ報告ニ據レハ客年十二月

十五日 New York Herald-Tribune 日曜版ハ China

Weekly Review 副主筆「エドガー、スノウ」ノ張學良ト

ノ會見談ヲ載セタル趣ニシテ談中張ハ滿洲ヨリ日本ノ勢力

ヲ驅逐スルニハ滿洲ニ於ケル支那人人口ノ増殖ヲ圖ル事緊

要ニシテ是年々數百万金ヲ費シテ山東其他ヨリ移民ヲ招致

スル所以ナリト述ヘ又日本ハ東支鐵道ヲ除キ滿洲ニ於ケル

鐵道二、二〇〇哩中七割ニ對シ利害關係ヲ有シ居ルカ故ニ

日本ノ帝國主義ト鬪フニハ別ノ交通路ヲ建設スルノ外ナク

此ノ計畫ハ葫蘆島築港ヲ含ミ居タルモ計畫ノ實現ニハ支那

側ノ所有シ且經營スル滿洲横斷鐵道ヲ必要トスルモノナル

處日本力條約ヲ盾トシ將來競爭鐵道ノ建設ヲ阻害スルノ態

現行制度ニ於テハ警務以外ノ州外行政ハ滿鐵ニ於テ行ヒ居ルヲ以テ州外ニ民政署ヲ設置スルコト差當リ困難ナルモ現ニ關東廳ニ於テ希望且計畫シ居レル如ク滿鐵ノ行政關東廳ニ移管セラルルカ如キ場合ニハ民政署ヲ置キ兼任事務官ヲシテ署長タランムルコト可然（關東廳側ニ於テモ此點ニハ異存ナシ）

尤モ關東廳官制中民政署長力管下警察官ヲ指導監督スルノ規定ハ殆ト空文ニ等シキヲ以テ此ノ制度ニ依ル場合指揮監督ノ實ヲ舉ケ得ル様更ニ特別ノ規定ヲ設クト同時ニ實際上ノ運用ニ關シ徹底的ニ諒解ヲ遂ケ置クコト肝要ナルヘシ

ル旨回答アリタルニ付右要領別記ノ通御参考迄報告ス  
本信寫送付先 北平 鄭家屯

昭和5年2月8日 在中国重光（葵）臨時代理公使宛

6 昭和5年2月8日 币原外務大臣より  
在中国重光（葵）臨時代理公使宛

中國國有鐵道貨物等級表の改訂は九カ国條約違

反に付中国政府に同表実施手控え勧告方訓令

亞一機密第一一號

昭和五年二月八日

外務大臣男爵 币原 喜重郎

在中国

臨時代理公使 重光 葵殿

支那國有鐵道貨物等級表改訂ニ関スル件

最近国民政府鐵道部ニ於テ支那國有鐵道貨物等級表改訂ノ次第ハ一月十五日附田代長春領事發本大臣宛機密公第二四号寫ニテ御承知ノ通ナルガ右ハ支那ニ於ケル列國ノ通商上ノ利益ヲ阻害スヘキハ勿論支那ニ關スル九國條約第五条ノ違反ナルニ付全條約第七条ノ規定ニモ顧ミ自然關係諸國間ニ討議セラルコトナリ場合ニ依リテハ列國共同抗議ノ

原因トモナルヘキ問題ト思考セラルニ付テハ貴官ハ支那政府当局ニ対シ以上ノ次第ヲ注意シ本件等級表実施ヲ手控ユル様好意的ニ勧告方可然御取計相成度シ  
本信寫送付先 在北平堀内參事官、在奉天、吉林、哈爾賓各總領事 在南京長春各領事

7 昭和5年3月20日 币原外務大臣宛（電報）

在中國重光臨時代理公使より

鐵道運賃差別問題等につき王外交部長に申し入れについて

上海 發

本省 3月20日後着

公第三三〇號

從來關稅協定ノ爲久シク常務的ノ交渉ヲ行フ暇充分ナカリシカ十九日王部長ト會見ノ機會ニ於テ左ノ諸件ヲ取計ヒ置キタリ

一、第七東豫丸武器密輸ノ件ニ付テハ王ニ對シ適宜説明ヲ爲シ置キタリ

二、二月八日附亞一機密第一一號鐵道運賃差別待遇ノ問題ハ適宜申入レ置キタル處王部長ハ之ヲ諒承シ當局者ニ對シ可然移牒シ置クヘシト答ヘタリ

三、三月四日附亞一機密第二〇號支那郵便局職員ノ問題ニ付テモ適宜申入レ置ケル處王部長ハ之モ當局者ニ可然移牒シ置クヘシト答ヘタリ

以上三件ニ付テハ當方ニ於テ適宜説明書ヲ作成シ之ヲ交付シ置キタルカ右寫ハ郵送ス

四、二月十三日附北平宛人機密第二三號貴信外交官及領事官用品關稅免除ノ件ニ付テハ十九日附公文ヲ以テ申入レ置キタリ（公文寫郵送ス）

五、二月八日附南京發本官宛機密第六三號公信青島鹽二關

スル支那側申出ニ對シテハ不敢我方從來ノ主張ノ正當ナルコトヲ繰返スト共ニ右支那側申出ノ趣旨ハ一應本國政府ニ報告シ置キタル旨公文ヲ以テ回答シ置キタリ委細公信

在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛

共的性質ニ鑑ミ支那側ヲシテ無條件ニ本工事ニ着手セシム  
ルコトヲ穩富ト認メ神原ノ同意ヲモ徵シテ折返シ別紙乙號  
ノ通り照覆シ置キタリ尙支那側ハ兩三日前已ニ橋梁擴張工  
事ニ着手セリ

右報告ス

9 昭和5年3月31日

在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

王正廷より吉会線強行敷設説の真偽取り調べ

方電訓に対する張學良の回答について

奉天 3月31日後発  
本省 4月1日前着

信スヘキ情報ニ依ルニ南方動亂ニ關聯シ最近南京方面ニ日本力此ノ際強行的ニ吉會線ヲ築造セムトストノ謠言行ハル趣ニテ數日前王正廷ヨリ張學良宛眞相取調方電訓セルニ對シ學良ハ廿八日附ヲ以テ右ハ今日迄ノ處事實無根ナルモノ今後日本側ニ斯ル行動アル時ハ東北民衆ハ死ヲ誓ツテ反抗シ外交ノ後援ヲ爲スヘキ旨返電セリト言フ

第一二七號

上海、北平、吉林、南京へ轉電セリ

10 昭和5年4月26日

在中國重光臨時代理公使宛（電報）

中國内生産貨物の鐵道運賃差別待遇につき王

外交部長に交渉方訓令

本省 4月26日後5時40分発

公第二二九號

天津発本大臣宛電報第一二三号ニ閲シ

支那鐵道運賃差別待遇ニ對シテハ不取敢二月八日附往信機密第一号ヲ以テ訓令シ置キタルトコロ本件ハ支那ノ鐵道全部ニ亘ル問題ニシテ且ツ単ニ輸入品ノミナラズ支那内地ニ於テ製造セラレタル貨物ニテモ其ノ製造工場ノ經營又ハ資本ニ外国人關係アル以上盡ク等級上ノ差別待遇ヲ爲サムトルモノナルガ（青島ノ如キハ更ニ本件差別運賃ヲ基礎トシテ貨捐稅ノ如キ不当課稅ヲ課シ居ル爲外支人ノ負擔ノ差ハ益々多額ニ上リ居ル状況ナリ）

斯ノ如キハ啻ニ九國條約違反タルノミニラズ其ノ外支貿易關係ニ及ボストコロ極メテ重大ニシテ列国トシテハ關稅自

## 別電

五月九日發在中国重光臨時代理公使より幣

原外務大臣宛公第四六九號

## 別電

五月九日發在中国重光臨時代理公使より幣

原外務大臣宛公第四六九號

## 別電

五月九日發在中国重光臨時代理公使より幣

原外務大臣宛公第四六九號

公第四六八號

貴電公第二二九號ニ關シ

王外交部長へ手交の鐵道運賃差別に関する

## 覚書

上海 5月8日後発  
本省 5月9日後着

猶本件ハ關係國共通ノ問題ニシテ事茲ニ至リテハ關係國トシテモ不問ニ附シ得ザルコト思考スルニ付在北平矢野書記官ヲシテ華府九國條約ノ問題トシテ關係國代表者ノ注意ヲ喚起シ之等代表者ヲシテ協同ノ措置ニ出ヅル様取計ハシメラレ度

南京へ轉電アリタシ

北平天津青島奉天吉林哈爾賓長春ニ轉電セリ

シテモ不問ニ附シ得ザルコト思考スルニ付在北平矢野書記官ヲシテ華府九國條約ノ問題トシテ關係國代表者ノ注意ヲ喚起シ之等代表者ヲシテ協同ノ措置ニ出ヅル様取計ハシメラレ度

11 昭和5年5月8日

在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）鐵道運賃差別について王外交部長も行き過ぎ  
の措置と談話について

リ

(別電)

上 海 5月9日後発  
本省 5月9日後着

公第四六九號

本年一月公布鐵道部貨物等級表ハ多數ノ物品ニ付輸入品又

ハ外國ノ資本經營ニ依リ支那ニ於テ生産セラレタル物品ト

支那品トノ間ニ運賃ノ差別ヲ設ケ(一七%乃至七〇%ニ亘

ル)殊ニ北寧鐵道ニ於テハ支那燐寸ノ等級ヲ右運賃率ヨリ更ニ一級低クシテ前記ノ差別待遇ヲ甚タシカラシメ居リ(右等級表ニ依レハ燐寸ハ支那品三級輸入品及外國關係品共三級)是等差別待遇ハ全國鐵道ニ實施セラレ居ルカ如ク各地本邦商人ヨリ之力匡正方ヲ請願シ來レリ斯ノ如キハ九國條約第五條ニ反スルノミナラス他國ニ於テモ前例無ク又聯盟規約通商衡平待遇ノ精神ニ反シ且近世各國間ノ通商條約カ採用スル商工業從事者内國民待遇ノ原則ヲ無視スルモノニシテ各國力支那ノ條約改正ニ向テ銳意進捗中ノ今日支那自身力スノ如キ經濟的排外主義ヲ實行スルハ極メテ遺憾點アルモ聞込ノ儘不取敢

立場ニ困ルコトナルヘシ但シ請願ノ趣旨ハ自分ニ於テモ異議ナキ旨語リタル由ナルモ約一ヶ月以前當館諜報者ニ於テ間島方面各團體ヨリ省政府ニ對シ本鐵道ノ自主的敷設ニ關スル請願書ヲ提出シ省政府ヨリ之ヲ東北交通委員會ニ取次キタル旨ノ情報ヲ齎シタルコトアリ前後聊カ符合セサル點アルモ聞込ノ儘不取敢

奉天、北平、南京、上海、間島へ轉電セリ

~~~~~

13 昭和5年5月14日 西(春彦) 通商局第一課長より
谷(正之) 亞細亞局第一課長宛

在滿領事會議開催について

昭和五年五月十四日

西 通商局第一課長

谷亞細亞局第一課長殿

在滿領事會議開催方ノ件

在滿領事會議開催方ニ關スル在奉天林總領事ヨリノ稟請(別紙甲號)ニ對シ今般別紙乙號ノ通り同訓相成リタルニ付左記ニ依リ關係部局課ヨリ本省諮詢及指示事項案ヲ持寄

リ打合ヲ行ヒ度ニ付右御諒承ノ上係員參列方適宜御配意相

ナレハ速ニ之力匡正ヲ圖ラレタシ

12 昭和5年5月9日 在吉林石射(猪太郎)總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

間島方面中國側各團體の国民政府に対する吉

敦鐵道敷設請願の結果について

吉 林 5月9日後発

本省 5月10日後着

第二六號(極秘)

前省議會議長林鶴皋ノ内話トシテ峰旗ノ報告スル處ニ依レハ延吉選出ノ元省議會議員李仲珊ナルモノ過般來間島方面支那側各團體ヲ代表シ敦化延吉間鐵道敷設方請願ノ爲南京ニ赴キ居リタル由ニテ歸間ノ途去ル五日來吉シ林ニ對シ右請願ニ對シ國民政府ヨリ「東北政務委員會ニ命シ法ヲ設ケテ進行セシムヘシ」トノ指令ヲ取付ケ得タリト語リタルヲ以テ林ヨリ張作相ノ意嚮ヲ叩キタル處張ハ南京ヨリノ消息ハ未タ何等接到セサルモ事實トセハ右請願ハ當省政府ヲ差措キタルモノニテ其ノ事情外間ニ洩ルルコトトモナラハ今日迄ノ敷設反對ハ省政府側ノ仕業ナリシカ如ク取ラレ甚タ

煩度 打合會 場所 第一會議室 時日 五月二十二日(木曜日)午後二時ヨリ
本件ニ關シテハ先般本官歸朝ノ際及内申置キタル次第有之處大体左記要項ニ基キ開催スルコト致度キニ付テハ關係各館ニ對シ可然御示達相成度本省ノ御諮詢事項並各館ヨリ提出ノ協議事項等ニ付テハ關係各館ニ於テ豫メ充分ノ考究ヲ遂ケ置クコト必要ト存セラルルニ付右御含ノ上御取計相成ル様致度此段稟請ス

左 記

一、期日 五月下旬又ハ六月上旬

二、會議期間 四日間（在満各機關ヲ交ヘサル領事限りノ會議二日在満各機關トノ聯合會議一日）

三、參加領事館 東北四省所在各領事館並各分館

四、聯合會議ニ参加ノ諸機關

滿鐵、朝鮮總督府、關東廳、關東軍

（別紙乙號）

發電昭和五年五月十二日

在満領事會議開催方ノ件

在奉天 林總領事

幣原大臣

第五〇號

三月二十九日附機密公第二三八號貴信ニ關シ

前記貴信御請訓ノ要項ニ依リ在満領事會議開催方異議ナキニ付關係各領事館ニ對シテハ貴官ヨリ右本大臣訓令トシテ轉達セラルト共ニ關東廳其他ノ諸機關ノ參加招請方ニ付テモ可然御取計アリ度シ尤モ會議開催期日ハ準備ノ都合モアリ七月上旬頃ト致度ニ付貴官ノ御裁量ニ依リ適當ノ日取決定ノ上御回示アリ度シ

尙從來ニ於ケル此種會議ノ實績ニ顧ミ今回ハ議題ノ範圍ヲ成ルヘク必要緊切ノモノニ局限シ十分ノ審議ヲ遂クルコトニ努メ度ニ付右御含ノ上準備方御手配相成度當方ヨリノ諮詢事項ハ追テ申進スヘシ

（参考）

在満領事會議開催ニ關スル要領

一、從來ノ在満領事會議議題ヲ見ルニ（別紙^{省略}參照）本省諮詢事項ノ外各館ノ思付ニ依リ持寄レル事項相當多岐廣

汎ニ亘リ短時日ノ會議ニ於テ充分審議ヲ盡シ得タルヘキヤ疑ナキ能ハス實質アル效果ヲ收ムル爲ニハ寧ロ議題ノ範圍ヲ必要緊切ノモノニ局限シ以テ充分討議ヲ遂クルコトスルト共ニ一方會議ノ成果ニ付テハ之ヲ尊重シテ可及的實行ニ移スニ努ムルコト可然

二、右様見地ヨリ今回ノ會議ノ議事ハ事務打合ト本省諮詢事項トニ大別シ前者ニハ（一）本省ヨリ各館ニ示達スヘキ事項（二）各館ヨリ本省ニ具申スヘキ事項（三）奉天總領事ヲ中心トシテ各館相互ニ申合スヘキ事項（四）外務部以外ノ出席者トノ打合事項等ヲ包含セシムヘキモ之ニ附議ス

ル事項ハ各方面共事務ノ實際ニ當リ切實ニ必要ヲ感シ居ルモノニ局限スルコトシ次ニ本省諮詢事項亦同様ノ方針ニテ少數緊要ノモノニ局限スルコト致度

三、本省諮詢事項ハ豫メ相當期間ヲ設ケテ關係各館ニ通報シ出席者ハ充分攻究ヲ遂ケタル上會議ニ臨マシムルコトトシ又事務打合事項中本省以外各方面ヨリ附議ノ分ハ豫メ奉天總領事迄提出セシメ同總領事ニ於テ之ヲ研究整理セシメ置クラ適當トスヘシ

四、本省諮詢事項ハ各部局課ニ於テ前記一及二ノ方針ヲ充分顧慮ノ上至急立案シ省内打合會ニ於テ協議決定ノコトトシ事務打合事項中本省ヨリノ示達事項ニ關シテモ同様各部局課ニ於テ準備ヲ進ムルコト致度

五、イ、會議ハ奉天總領事ヲ司會者トシテ同地ニ開催ス會議開催期ハ大体七月上旬ノ豫定ナルモ日取ハ奉天總領事ニ於テ決定ノ上申越アル筈

尙會議期間ハ四日トス

ロ、參加範圍ハ奉天總領事申請ノ通トシ各館長ハ館務ニ支障ナキ限り出席ノコトシ外務部以外ノ参加者ニ對シテハ奉天總領事ヨリ連絡ヲ取ラシム

14 昭和5年5月(15)日

在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

中国側の吉会、吉長兩鐵道接続問題善処方要

請に対する我が方対処法につき請訓

吉林

本省 5月15日後着

吉長鐵道中川代表十一日本官ヲ來訪シ
第二九號

一、八日瀋海鐵道車務段長郭續潤ハ吉會側ノ意ヲ受ケテ中川ヲ訪ネ吉長吉會ノ接續問題ハ久シキニ亘リ解決セサル力支那側各機關ニ於テハ何トカ圓滿解決方ヲ希望シ居レリ御考慮ヲ願ヒタシト申出テ之ニ對シ中川ハ瀋海及吉會力極端

ナル運賃割引（五割引、機密公第八八號往信参照）ニ依リ
吉長ヲ窮地ニ陥レントシツタル政策ヲ改メサル限り線路
接續ノ如キハ思ヒモ依ラスト答ヘタルニ郭ハ吉會側ノ立場
ニ付種々陳辯スル處アリタルカ中川ヨリ吉長、吉會滿鐵藩
海ノ運轉協定方「サジエスト」シ結果線路接續ノ前提條件
トシテ吉長、吉會間ニ運賃協定ヲ爲ス事右協定ノ商議ニハ

⁽²⁾ 滿鐵力藩海側ヲ招待臨席セシムル事ニ意見ノ一致ヲ見タリ
二、翌九日吉會李總辨^(註)ハ各處長ヲ帶同シテ中川ヲ來訪シ中
川郭間前日ノ話ヲ確認シ張作相ニモ報告ノ上前記商議ヲ至
急開催シタシト申出タルニ付中川ハ線路接續問題ニ付テハ

吉林總領事ヲ經テ日本政府ノ承認取付ノ要アル旨答ヘテ引
キ取ランメタリ

トテ政府ノ意向確メ方依頼アリタル處吉會側カ從來中川ニ
對シ示シ居タル無條件接續主張ノ態度ヲ改メ右ノ如ク軟化
シタルハ畢竟郭ノ吉長トノ對抗政策ニ拘ハラス營業成績振
ハサルニ弱リ切り局面打開ノ必要ニ迫ラレタル結果ナリト
認メラレ我方カ接續問題ヲ此ノ上永ク引キ延スニ於テハ遂
ニハ客年往電第四九號支那側ノ企ヲ刺戟スル惧モアリ此ノ
機運ニ乗スレハ東北交通委員會ヲシテ相當吉長ニ有利ナル

紙ノ通リナルニ付テハ何等御意見アラハ折返シ當課ニ御申
出相成度
尙訓示案及事務打合事項案ハ別ニ作成ノ筈ニ付右ニ御承
知相成度シ

在滿領事會議本省諮詢事項及同說明案

度シ

一、満洲ニ於ケル日支感情融合ノ方途如何
日支感情融合ノ必要ハ獨リ満洲ノミノ問題ニ非サルモ
満洲ニ於テハ彼我接壤ノ關係ニ加ヘテ各種利害關係錯
綜セル結果支那ノ他地方ニ比シ對日惡感情殊ニ甚シキ
嫌アリ之カ融和ノ方途ニ關シテハ一般對支政策上考慮
ヲ要スヘキモノアルハ勿論ナルモ(イ)満洲特殊ノ事情ニ
キヤ
適應スヘキ特殊ノ方法ヲ講スルノ餘地ナキヤ又(ロ)同地
方ニハ外務部外各種重要ナル機關存在シ其ノ態度ハ夫々
支那側感情ニ反響ヲ及ホスコト少カラスト思考セラル
ルニ付テハ此ノ方面ニ於テモ改善ヲ必要トスル事項ナ
キヤ

二、治外法權撤廢ニ付考慮ヲ必要トスル事項如何

治外法權撤廢問題ニ關シ特ニ満洲ニ付テハ考慮ヲ要ス
ヘキ事項多々アルヘキモ就中左記諸點ニ付意見承知致

聯絡協定ヲ承諾セシメ得ヘシト思考ス本問題ニ關シテハ過
般滿鐵總裁歸任前本省ニ於テモ何等御協議アリタルヤニ傳
聞シ居ル處中川ヘノ回示振リニ付何分ノ御回電ヲ請フ尙右
會見ノ次第ハ中川ヨリ滿鐵へ報告済ミノ由爲念
奉天、長春へ轉電セリ

編注 本書採錄文書では、「辦」と「辨」の混同が度々見
られるが、以下、特に編注を加えることなく全て
原文通り採録した。

15 昭和5年5月27日 西通商局第一課長より
谷亞細亞局第一課長宛

昭和五年五月二十七日

谷亞細亞局第一課長宛

在滿領事會議提出の本省諮詢事項および説明案
昭和五年五月二十七日
西通商局第一課長
谷亞細亞局第一課長殿

五月二十二日開催ノ在滿領事會議ニ關スル打合會ノ決定ニ
基キ關係各課ヨリ提出アリタル本省諮詢事項及同説明案別
度シ

在滿領事會議開催方ノ件

西通商局第一課長

- (イ) 一九二六年治外法權委員會會議以後支那司法制度改
善ノ程度及治外法權撤廢問題ニ關スル支那側準備如何
(ロ) 治外法權撤廢ニ對スル保障及條件トシテ満洲ニ付特
度シ
- (ハ) 治外法權撤廢後撤廢地域内支那裁判所ト滿鐵附屬地
トノ間ノ司法共助ヲ如何ニスヘキヤ
- (二) 右(ハ)ニ關聯シ満洲各地ニ於ケル司法共助ニ關スル現
況如何(別紙各項ニ分チ回答アリ度シ)
- (ホ) 内地開放問題ニ關聯シ支那側ニ要求スヘキ内地開放
ノ範圍如何

例ヘハ支那側ハ農業ノ目的ノ爲ノ土地所有權ヲ外國
人ニ賦與スル意向ナキモノノ如クナル處農業用土地ニ
付テモ借地權ノミナラス土地所有權ヲモ必要トスルヤ

三、大連、安東、營口等ヲ中心トスル本邦船舶ノ支那沿岸
及内水航行並ニ松花江航行權問題ニ付條約改訂ノ際考
慮スヘキ事項如何

支那ノ沿岸貿易及内水航行問題ハ日支通商條約改訂問
題中最重要ナル事項ノ一ナル處(イ)大連、營口、安東等

ヲ中心トスル本邦船舶ノ支那沿岸及内水航行並ニ(口)松花江航行権問題ヲ如何ニ處理スヘキカ條約改訂上特ニ考慮スヘキ事項承知シ度ク、尙此方面ニ於ケル本邦及支那其ノ他關係會社ノ資金、營業成績、使用船舶（船舶名、隻數、噸數）航路、主要輸送貨物ノ現狀ヲ詳細ニ承知致度シ

四、鮮滿陸境特惠關稅廢止ニ伴フ善後措置如何
(口)在滿邦人經濟進出ニ至大ノ關係アル金融方面ノ實状ノ施設ニ係ル金融組合並滿鐵ノ後援ニ係ル輸入組合アリ然ルニ前記組合ハ何レモ開設日尙淺ク其ノ業績不明ナル力右銀行會社等ノ營業振ニ關シテハ從來在滿邦人間ニ往々改善要望アリ又在滿邦人全般ノ金融制度ニ關シテモ諸般ノ改善意見等アリ右在滿邦人金融ノ實狀並今後ノ金融方策等如何

五、對滿經濟進出ニ關シ從來ノ方法ニ代ル有效ナル方法如何
輓近滿蒙ニ於テハ人口ノ增加民力ノ向上國際關係ノ推移等各般ノ事情ニ亘リ變遷ノ著敷モノアリ我對滿蒙貿易乃至經濟的活動モ此新タナル事態ニ適應シテ改善振興ノ方法ヲ講シ以テ行詰レル現狀ヲ打開スルコト緊要ナリト認メラルニ付テハ左記諸點ニ付意見ヲ承知シ度シ(1)現在滿蒙ニ於ケル邦人ノ企業投資ハ其ノ直接企業經

分ナラサルニ因ルモノト思料セラルニ付テハ之力改善及統制ニ關スル最善ノ方策ニ付答申アリタシ
七、「ソヴィエト」聯邦ノ滿蒙ニ對スル所謂赤化運動ノ實相如何

「ソヴィエト」聯邦共產黨及共產主義「インターナシヨナル」（コミニンテルン）ハ滿蒙ニ於テ職業組合支部、各種商業機關等ヲ通シ盛ニ赤化運動ヲ行ヒ居レリトハ從來屢々支那側ニ於テ聲明セルトコロナルモ其具體的根據ニ至リテハ多クノ場合漠トシテ捕捉スヘキモノナシ就テハ滿蒙ニ於ケル「ソヴィエト」聯邦共產黨及「コミニンテルン」ノ赤化運動ノ實相特ニ中國共產黨、高麗共產黨、青年蒙古黨等ニ對スル策動ノ真相並該運動ノ在支鮮人ニ對スル思想的影響等ニ付答申ヲ求ム

八、在滿領事館ノ配置分合ニ付整理改善ヲ要スルモノアリヤ

在滿領事官ノ配置ニ付テハ最近同地方ニ於ケル交通機

關ノ發達其ノ他政治經濟各般ノ事情ノ推移變遷ニ伴ヒ改善ヲ加フルノ要アルヤニ認メラル處新ナル經費ヲ

以テ領事館ヲ増設スルコトハ政府ノ財政方針ニ鑑ミ困

營ニ當ル場合ト間接ニ企業經營ニ關與スル場合トヲ問ハス殆ント行詰リノ狀態ニ在ルヤニ認メラル處從來ノ投資方法ニ關シ此ノ際改善ヲ加フルノ餘地又ハ此等投資方法ニ代ハルヘキ新ナル有效方法如何
(口)在滿邦人銀行及特殊金融會社ノ外囊ニ關東廳ニ付テハ本邦人銀行及特殊金融會社ノ外囊ニ關東廳ノ施設ニ係ル金融組合並滿鐵ノ後援ニ係ル輸入組合アリ然ルニ前記組合ハ何レモ開設日尙淺ク其ノ業績不明ナル力右銀行會社等ノ營業振ニ關シテハ從來在滿邦人間ニ往々改善要望アリ又在滿邦人全般ノ金融制度ニ關シテモ諸般ノ改善意見等アリ右在滿邦人金融ノ實狀並今後ノ金融方策等如何

(ハ)我對滿輸出貿易ヲ一層助長スル爲執ルヘキ方策施設如何

六、在滿朝鮮人（間島ヲ除ク）ニ對スル金融機關ノ改善並統制ニ關スル方策如何
在滿朝鮮人ニ對スル現存金融機關ノ機能充分ナラス從テ其ノ成績面白カラサルノ憾アリト認メラル處右ハ當事者ノ經營方針宜シキヲ得サルト監督官憲ノ統制充

難ナル事情アリ旁々現在ノ經費ノ範圍内ニ於テ其ノ配置分合等ニ付（例ハ位置ノ變更、昇格、格下ヶ、合併、分離、館員ノ增減等）整理改善ヲ要スルモノアラハ其ノ理由ト共ニ具體的方案承知致度シ

九、對滿新聞政策ニ關スル意見如何

日支關係ノ現狀ニ顧ミ我滿洲在留民ニ對シ外務省ノ方針ヲ徹底セシムルト共ニ支那側ニ對シ滿洲ニ於ケル日本ノ地位及滿洲問題ニ關スル我決意ヲ理解セシムル爲滿洲各地ニ於ケル我方新聞及通信ニ對シ今後適當ナル指導及統制ヲ行フノ必要アリト認メラル處此見地ヨリ滿洲ニ於ケル我方新聞及通信ニ關シ此際何等カノ改善ヲ加ヘ又ハ何等新シキ施設ヲ爲スノ要ナキヤ
右ニ關スル各領事ノ意見ヲ聽キタシ

チチハル領事の在滿領事會議議題提出について

昭和5年5月31日 在チチハル清水（八百一）領事より
幣原外務大臣宛

本機密第一六二號

昭和五年五月三十一日

一 東北（満蒙）鉄道懸案関係

在齊々哈爾

領事 淸水 八百一

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

林總領事宛五月三十一日附公領機密第二號左記件名公信
寫送附ス

在滿領事會議ニ於ケル議題提出ノ件

公領機密第二一號

昭和五年五月三十一日

在齊々哈爾領事 淸水 八百一

在奉天總領事 林 久治郎殿

在滿領事會議ニ於ケル議題提出ノ件

本件ニ關シ合第一七〇號貴電ヲ以テ御申聞ノ次第了承依テ

當館ヨリ左記議題提出ス可然御取計相成度シ

記

一、在滿鮮人歸化許可ノ件

説明

滿洲ニ移住シ來ル鮮人ハ日本ノ滿洲侵略ノ手先ナリトノ

支那側ノ誤解ヲ解キ之ニヨリ支那側ノ鮮人ニ對スル壓迫

機密第六六二號

昭和五年六月十二日

在哈爾賓總領事 八木 元八

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

在滿領事會議ニ於ケル議題提出ノ件

17 昭和5年6月12日 在ハルビン八木（元八）總領事より

幣原外務大臣宛

ハルビン總領事の在滿領事會議議題提出について

本件ニ關スル六月十一日附在奉天林總領事宛拙信公領機密第一七六號寫何等御参考迄茲ニ送付ス

本件ニ關スル六月十一日附在奉天林總領事宛拙信公領機密第一七六號寫何等御参考迄茲ニ送付ス

公領機密第一七六號

昭和五年六月十一日

在哈爾賓總領事 八木 元八

在奉天總領事 林 久治郎殿

在滿領事會議ニ於ケル議題提出ノ件

本件ニ關シ左記ノ通り議題提出ス可然御取計相成度シ

記

(一)諜報機關統一ニ關スル件

當地ノ如キ領事館ノ外陸軍特務機關、内務省派遣員（關東廳事務官兼任）朝鮮總督府派遣員、滿鐵事務所等諜報任務ニ從事スルモノ併設サレアリ、陸軍滿鐵ハ暫ク措キ内務省派遣員ト朝鮮總督府派遣員ハ之ヲ撤廢シ其經費ノ十分ノーフ領事館ニ増額スレハ同様ノ任務ヲ盡シ效果ヲ舉クルヲ得ヘシ政府ノ財政緊縮策ニ照シ考量ヲ邀へ度シ

(二)綏芬河ニ出張員常置ノ件

東支鐵道ノ東西蘇支國境狀況ハ赤化宣傳及貿易關係上常

北滿ニ於ケル鮮農ニ對シテハ一方其土着ヲ獎勵シ確實ノ方法ヲ以テ農業資金ノ融通ヲ與フル方策ヲ講スルコト必要ナルト共ニ冬季間衣食ニ窮シ都會地ニ集マル貧農ハ人道上一時的ノ救濟ヲナス必要アリ哈爾賓ニ於テハ既ニ篤志家ノ企ニヨリ少規模ナカラスノ如キ貧民ノ收容所ヲ設ケ相當成績ヲ擧ケ居ル處本省朝鮮總督府及滿鐵ニ於テ相當補助ヲ與ヘ同様ノ設備ヲ他地ニ増加スルニ付他館ノ意見如何

本信寫送付先 外務大臣

以上

寫送付先 外務大臣
(別紙)

新民府分館主任の在満領事會議議題提出について
機密公第八八號

昭和五年六月十三日

在新民府分館主任 福井 保光

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和五年六月十三日附
機密公領第一九號奉天總領事宛信寫送付

領事會議協議事項ニ關スル件

件 名

機密公領第一九號

昭和五年六月十三日

在新民府分館主任 福井 保光

在奉天總領事 林 久治郎殿

領事會議協議事項ニ關スル件

本件ニ關シ當館協議事項別紙ノ通提出セルニ付御查閱相成
度此段申進ス

一、満鐵沿線外奥地居住本邦人ノ素質向上並經濟發展策ニ
關スル件

(理由)

奥地現住邦人ハ特殊企業會社從業員竝小數商工業者ヲ除キ其大部分力不正營業者若クハ搆取ヲ之レ事トスル高利貸、質商ナリト謂フモ過言ニ非ラス而シテ其原因中ニハ幾多不可避ト認ムヘキモノアリテ獨リ之ヲ在留邦人ノ不眞面目不都合ニノミ歸セシムルハ當ラサルモ刻下支那力漸ク法權回収ノ機運ニ向ヒツツアル折柄事前ニ之力取締並善導ニ關スル適當ノ措置ヲ講シ以テ將來邦人ノ満蒙奥地發展ノ地歩ヲ確保シ置クニ非サレハ人口、食料問題解決ヲ基調トセル我國對滿蒙移植民政策ハ遂ニ收拾スヘカラサル窮境ニ逢着スルニ至ルヘシ

二、在満鮮人保護統治事宜劃一方ニ關スル件

(理由)

對スル農業指導ヲ第一義トシ農耕資金低利貸付ヲ兼營スル農業組合ノ如キモノノ設置ヲ必要トスル次第ナリ

四、朝鮮人戶籍令適用方ニ關スル件

(理由)

現行朝鮮人戶籍令ヲ在満鮮人ニ遵據セシムルコトハ居出期限ノ過短或ハ手續ノ煩瑣等ヨリ種々困難ナル事情アリ惹ヒテハ法ノ制裁ヲ怖レ故意ニ居出ヲ怠ルモノナシトセサル處何等暫行的措置ヲ考慮スル餘地ナキヤ

五、僻険地駐在本省兼勤關東廳警察官吏優遇方ニ關スル件

(理由)

着スルモノト思考セラル處此意味ニ於テ支那側官民ノ壓迫少ク比較的自由ニ耕地ヲ年租シ得ルニ拘ハラス未タ金融組合等ノ施設ナキ爲(事實此種機關ヲ設クルコト不可能ト思料セラル)已ムナク支那人地主ノ搆取ニ甘ンシツツ困窮苦鬪ノ生活ヲ續ケ居ル奥地鮮農ニ對シ何等融資ノ途ヲ講シ安居樂業ノ氣運ヲ促進セシムルノ見地ヨリ此際是等特定地域居住者ニ

19 昭和5年6月14日 在中国矢野（眞）公使館書記官より
幣原外務大臣宛（電報）

外交團會議で鐵道運賃差別に対する共同覺書
を送付することに一応意見一致について

北平 6月14日後発
本省 6月14日後着

第四二七號

本官發上海宛電報

第三九號

機密第二七號拙信ニ關シ

十三日外交團會議開催

(一)先ツ首席公使ヨリ一九二二乃至二四年ノ事件ノ經緯ヲ説明シ次テ本官ヨリ我方要求ニ一應ノ説明ヲ加ヘタル後討議ニ入りタル處本件ハ主義上ノ問題トシテ支那ノ態度誤レル事ハ明カナルモ此ノ際抗議等ヲナス事ハ時局ノ關係上外交團ニ於テ南京側ヲ壓迫スル様ノ氣分ヲ釀成スル虞ナキニ非セヤトノ意見モ出テタルニ付本官ハ本件ハ各國共同ノ問題ニシテ此ノ際此ノ儘ニ放置センカ各國ニ於テ假令現在實害ヲ感シ居ラストスルモ何レハ困却スルニ至ルヘシ現ニ青島

來電ニ依レハ差別運賃ヲ課セラルル貨物ハ燐寸ノミナラス三十余種ニ亘リ居ル次第ナリ
之ニ加フルニ重光代理公使ハ既ニ王正廷等ニ談合シタルニ王等ニ於テモ本件鐵道部ノ取扱ハ行過キ居レリト認メ居ルヤモ知レストテ説得ニ努メタル結果種々ノ論議ヲ經タル末首席公使ノ發議ニ依リ外交部ニ共同覺書ヲ送ルコトトン案文ハ首席公使ニ於テ起草次第回覽ニ附スルコトニ決定セリ（本案文ニハ一九二三年當時ノ申入レニハ「レフア」セス差當リ新ナル問題トシテ取扱フコトニ意見一致セリ）但シ米國代理公使ハ右様ノ措置ヲ執ル前豫メ國務省ニ請訓ノ要アリト述ヘタリ

(二)尙本官ハ京奉京綏等ハ事實上南京ノ勢力下ニアラサル現狀ニ鑑ミ實際的解決ヲ計ル爲ニハ閻錫山側ニ談合スルコト然ルヘシト認メ過般來非公式ニ閻側ニモ申入ヲナシタルコトアル次第ヲ告ケ此ノ際南京ニ對スル共同覺書ノ寫ヲ閻ニ送付シテハ如何ナルヘキヤト諮リタルニ斯ノ如クスルニ於テハ外交團ニ於テ余り時局ヲ「エキスプロイト」スル様ニ見ラルヘク旁慎重ノ考慮ヲ要スヘシトノ意見多ク結局閻ニ

寫ヲ送付スルコトハ將來ノ問題トシテ殘シ置クニ決セリ

外務大臣、奉天、青島、天津、濟南、南京へ轉電シ吉林、長春へ暗送セリ

20 昭和5年6月16日 在安東森岡（正平）領事より

幣原外務大臣宛

在安東領事 森岡 正平
在奉天總領事 林 久治郎殿
在滿領事會議提出議案ニ關スル件

本月二十八日附合機密領第九七號貴信ニ關シ本官ヨリ在満領事會議ニ提出スヘキ議案及理由左記ノ通り通報ス

記

(一)密輸入取締規則制定ノ件

理由 安東ニ於ケル密輸入問題ハ昨年來特ニ支那側ノ注

意スル處トナリ延テ滿洲各地本邦貿易ニ種々惡影響ヲ及シタル事情アリテ之レカ嚴重取締方ニ關シテハ已ニ政府ノ方針一定シ居レルモ實際上ノ取引ハ極メテ困難ニシテ安義兩地ニ於テ密輸入ニ從事スル日支鮮人ノ總數千人以上ニ上リ之カ爲ニ特ニ兩地ニ部落ヲ形成セル力如キ狀態ナリ右ニ關シ取締上最モ有效ナリトシテ支那稅關側カ非公式ニ提議スル所ハ一、新義州日本稅關内ニ支那稅關吏ヲ出張セシムルコト二、安東日本附屬地ニ支那稅關區域ノ設定ヲ認ムルコト三、日本側ニ於テ密輸入取締規則ヲ發布スルコトナルカ一、及二ハ我方トシテ之ヲ承認シ得サル事情アリト考ヘラルルモ三

一、在滿領事會議提出議案ニ關スル件
件名

紙茲ニ送付ス

（別紙）

機奉領第八九號
昭和五年六月十六日

ニ關シテハ充分考量ヲ要スヘク本官トシテモ國際信義
上是非之力實現ヲ希望スル次第ナリ

(一) 満鐵附屬地域内支那人阿片及賣淫窟取締ニ關スル件

理由 安東ニ於ケル鐵道附屬地内七道溝ニ於ケル本邦人個人ノ權利地域内ニ阿片吸食及密賣淫ヲ營ム支那人街アリ戸數約三千人口約一萬四千ニ達シ右ニ關シテハ今回發刊ニ係ル在上海支那拒毒會寫眞入り「パンフレット」ニモ大々的ニ引用宣傳セラレタル事情モアリ對外關係上放置シ難キ問題ト認メラル處右地域ハ大正十二年滿鐵力軍用地ヲ附屬地ニ編入スル以前ニ於テ本邦人個人力直接安東官有財產管理會ヨリ借地シタルモノニ係リ賣價ノ折合ハサル爲滿鐵ニテ今日迄買收手續未濟ナル結果道路水道下水等何等ノ設備ナク地權者ヨリ支那人ニ轉貸シ純然タル支那人特種部落ヲ形成セル關係上警察側ニ於テモ人員不足ノ爲取締極メテ困難ニシテ從來久シク放任勝ナル事情アリ就テハ此際滿鐵ヲンテ地價ノ高低ニ拘ラス斷然地面ヲ買上ケシメ他ノ部分ト同様一定規則ノ下ニ經營ヲナサシメタキト同時ニ關東廳側ニ於テモ出來得ル限り警察人員ヲ増加シ右特種

地域ノ取締ヲ嚴ニセラレ度希望ナリ

(二) 較安偵緝隊給與金停止ニ關スル善後措置ニ關スル件

理由 過日韓義濟輯安ヨリ奉天ニ出張シ歸途當館ニ立寄リ陳情セル所ニ依レハ曾テ在奉天福島朝鮮總督府通譯官ノ發案ニ基キ同地不逞鮮人取締ノ爲表面在住鮮人ヨリ寄附ノ名ヲ以テ政府筋ヨリ資金ノ御支出ヲ乞ヒ同地縣長ニ小洋四千元ヲ支給スル約束ノ下ニ警察偵緝隊ヲ編成セシメタルカ其後資金ノ支出困難トナリ小洋二千四百元程支給シタル儘殘額ノ支拂未了ノ事實アル處若シ此約束不履行トナルニ於テハ甚タシク支那官憲ノ感情ヲ害シ且下組織進行中ニ係ル良民團体タル自治會ヲ破壞セラル廣アルノミナラス同地鮮人良民力事毎ニ後日ノ反動ヲ氣支ヒ居ルニ付何ト力善後措置ヲ考案セラレタシトノコトナリ右特ニ奉天總領事ノ御配慮ヲ乞フ

(四) 鮮人取締ニ關シ支那官憲督勵ノ手段トシテ平素務メテ不逞鮮人ニ關スル情報ヲ地方官憲ニ供給スルコト

理由 鮮人取締ニ關シ主トシテ支那官憲ヲ督勵スルコトハ既ニ本省ヨリ御來訓ノ次第モアリ至極尤モノ次第ナ

ル處右手段トシテ支那官憲ノ参考ニ供シ且ツ注意ヲ喚起スル爲メ平素務メテ不逞鮮人ニ關スル情報ヲ現地支那側文武官憲ニ供給スルコト致度

本信寫送付先 大臣

21 昭和5年6月18日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛

吉林總領事の在滿領事會議議題提出について

(別紙)
議案

在吉林總領事館

在奉天總領事 林久次郎殿
在滿領事會議議案提出ノ件
五月二十八日付合機密領第九七號貴信御來示ニ係ル領事會議案別紙ノ通り送附ス御查閱相成度
本信寫送附先 外務大臣 在滿各公館長(分館ヲ含ム)
及赤峰

機密公領第四五一號

昭和五年六月十八日

在吉林總領事 石射 猪太郎
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
在滿領事會議議案提出ノ件

本件ニ關シ六月十八日附機密公領第八號ヲ以テ奉天總領事宛報告シタルニ付右寫御參考迄茲ニ送附ス

機密公領第八號

昭和五年六月十八日

在吉林總領事 石射 猪太郎

一、 支那側ノ國權乃至利權回收策並ニ之ニ基因スル措置ニ對スル支那側ノ所謂國權、利權ノ回收ハ宣傳時代ヨリ既ニ實行ノ時代ニ入り急激ニハ非ラサルモ次第二回收ノ實ヲ擧クルニ努メツツアリ此際彼ノ措置方法ヲ檢討シ之力對策ヲ論究スルコト有益ナルヘシ
(理由) 易幟ト共ニ省政府委員制度ノ採用ニ依リ先ツ

形式的ニ國民政府勢力ノ侵入ヲ認メタル滿洲ハ未タ黨部ノ設立ヲ許ササルモ至ル處國民黨色彩ノ濃度ヲ増シ殊ニ對外的方面ニ於テ其著シキヲ覺ユルモノアリ各地ニ於ケル實況ヲ知リ之カ對策又ハ方針ニ付各自ノ所見ヲ綜合統一一致シ度シ

三、滿洲ニ於ケル鐵道問題及其對策

（理由）葫蘆島ノ築港ニ依リ支那側ハ愈々其鐵道政策ヲ完成セントスルモノノ如ク我方ニ及ホス影響亦鮮少

ナラサルヘシ、支那側鐵道ノ現況ト之ニ對スル我方對策如何ニ付研究セントス

四、不當課稅及不當規則ニ對スル措置方法

（理由）各地ニ於ケル不當課稅及不當規則ノ實際ト之ニ對スル方策ト講究セント欲ス

五、外國資本ニ「コントロール」セラル在外日本法人ニ對スル保護

（理由）本邦法人ニシテ其資本的內容ヨリシテ實質的ニハ外國法人ト異ラサルモノニ對シ如何ナル程度ノ保護ヲ與フヘキ力殊ニ在滿瑞典系本邦籍燐寸會社ト支那側トノ間ニ問題發生シタル場合現地領事ハ純日本會社ニ付

機密公領第九號

昭和五年六月十八日

昭和五年六月十八日

在長春
領事 田代 重徳

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和五年六月十八日附機密公領第九號林奉天總領事宛寫送

機密公領第二五八號

昭和五年六月十八日

22 昭和5年6月18日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛
長春領事の在滿領事會議議題提出について
情況及之カ對策

（理由）省略

在奉天
在長春領事 田代 重徳
總領事 林 久次郎^君殿
在滿領事會議ニ於ケル議題ニ關スル件
本件ニ關シ當館ヨリ提出スヘキ議題左記ノ如シ可然御取計相成度シ

一、滿洲燐寸問題ニ關スル件
説明

近來滿洲ニ駐屯スル帝國軍隊ノ附屬地外演習問題ニ對シ支那側ニ於テ漸次注目シ來リツツアル處本件ニ關シ軍隊駐屯各地ニ於ケル支那側ノ態度如何又演習實施ニ依リ農作物等ニ對シ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル措置如何

一、新聞雜誌等ニ對スル補助金ニ關スル件

滿洲ニ於ケル新聞雜誌社等ニ於テ廣告其他ノ名義ノ下ニ屢々補助金ヲ要求スルモノアル處當館ニ於テハ本年ヨリ斯種申出ニ對シ一律拒絕シ來レル處各地領事館ノ取扱區々タルモノアルハ面白カラサルニ付此際各館ノ取扱振ヲ統一スルコトト致度シ

本信寫送付先

外務大臣、吉林、哈爾賓、鐵嶺、遼陽、安東、牛莊

一 吉林、大連ノ三會社ハ日本會社タルニ拘ハラス瑞典燐寸^{トラスト}ノ傀儡トナリテ其ノ不當ナル商策ヲ遂行シ來

吉海、吉敦兩鐵道連絡対応策につき請訓

吉林省 6月19日後発

本省 6月19日後着

往電第三四號ニ關シ
其ノ後吉長側ノ調査ニ依レハ「クロス」點測量ハ矢張リ吉

五豫定地ト吉海車站トヲ結付ケントスルモノナルモ此ノ地
點ヨリ吉海ヲ吉敦ニ連結スルコトモ自由自在ナルコト一見
明カナリト言フ尙往電第三七號會議開催方ニ關シ其ノ後中

川ハ吉海當局ヨリ重ネテ催促ヲ受ケ（近日中公文ヲ以テ正
式ニ照會シ來ル筈ノ由）タル趣ニテ再ヒ滿鐵本社ニ指圖ヲ
請ヒ且先ツ會議ヲ開催進行シ假ニ議定シタル事項ニ對シ外

務省ノ事後承認ヲ求ムルコトシテハ如何トノ私見ヲ申送
リタル趣ニ付中川ニ對シ事後承認云々ハ支那側ヲンテ線路
聯絡ヲ當然ノ歸結ト思ハシムヘク甚タ面白カラス本官ニ於

テ不同意ナル旨ヲ告ケ先ツ其ノ旨滿鐵側へ傳達セシムル事
トナシ置キタルカ一方往信機密公第四一三號報告ノ如ク吉

聯絡ヲ當然ノ歸結ト思ハシムヘク甚タ面白カラス本官ニ於
テ不同意ナル旨ヲ告ケ先ツ其ノ旨滿鐵側へ傳達セシムル事
トナシ置キタルカ一方往信機密公第四一三號報告ノ如ク吉

24 昭和5年6月19日 在鐵嶺近藤（信一）領事より
幣原外務大臣宛

奉天、長春へ轉電セリ

~~~~~

尚吉海、吉長聯絡ハ省政府ニ於テ最モ希望シ居ルコト諸般  
ノ情報ニ依リ明カナルカ從來政府當局ト會見ノ機會ニ於テ  
モ本官ハ故意ト本問題ニ言及スルヲ避ケ居ル次第ナリ御含  
ミ迄ニ

尙吉海、吉長聯絡ハ省政府ニ於テ最モ希望シ居ルコト諸般  
ノ情報ニ依リ明カナルカ從來政府當局ト會見ノ機會ニ於テ  
モ本官ハ故意ト本問題ニ言及スルヲ避ケ居ル次第ナリ御含  
ミ迄ニ

林、北平間直通列車ハ七月一日ヨリ運轉開始ノ豫定トナリ  
居ル處右直通列車ハ明治四十四年京奉線延長ニ關スル協約  
第六條ノ適用ヲ受クヘキモノナリヤ受クルトセハ我方ハ問  
接ニ吉海ノ滿鐵聯絡ヲ認ムルカ如キ變態的結果トナラスヤ  
等ノ問題モ生シ得ヘク任意調査ニ關スル我方ノ態度ハ此ノ  
際決定アルコト然ルヘク政府ノ御意嚮飽ク迄否定的ナラハ  
省政府ニ其ノ旨ヲ強硬ニ申入置キ不穩當ノ行動ヲ封スル事  
得策ナリト思考ス何分ノ儀御回訓ヲ請フ

尙右第六條ノ適用問題ハ本官ニ於テ深ク研究シタルニ非ス  
疑義ノ儘御参考迄ニ申進メタル次第ナリ本官心得ノ爲本省  
ノ御解釋併セテ御回示ヲ請フ

尚吉海、吉長聯絡ハ省政府ニ於テ最モ希望シ居ルコト諸般  
ノ情報ニ依リ明カナルカ從來政府當局ト會見ノ機會ニ於テ  
モ本官ハ故意ト本問題ニ言及スルヲ避ケ居ル次第ナリ御含  
ミ迄ニ

機密第二一九號  
昭和五年六月十九日  
在鐵嶺領事 近藤 信一

(別紙)

議案

一、邦人禁制品密賣取締ニ關スル件

近來本邦人（朝鮮人ヲ含ム）ノ魔藥、銃砲彈藥等ノ密

賣ニ對シ支那側ニ於テ從來ニ比シ嚴密ナル態度ヲ採リ  
直接檢舉ノ手段ニ出テツツアル處之ニ對スル我方措置二、支那側鐵道ニ於ケル自國產貨物ニ對スル運賃割引問題  
ニ對スル我方ノ措置ニ關スル件支那側經營ノ鐵道ニ於テハ國貨提唱、鐵道政策上自國  
產貨物ニ對シテノミ運賃割引ヲ行ヒ輸送順亦外國品トノ間ニ公平ヲ缺クカ如キ事實アルヤノ聞込アリ之ニ  
依リ蒙ル邦商ノ不利亦輕少ナラス之ニ對スル我方ノ措  
置

三、我軍隊ノ附屬地外行軍演習ニ關スル件

我軍隊ノ附屬地外行軍乃至演習ニ際シ軍側ノ豫告期間  
ノ勵行狀況及支那側ノ演習地々方官憲ヘノ通達遲延ノ  
結果軍隊ト支那地方官憲乃至人民トノ間ニ面白カラサ  
紙ノ通り提出ス可然御取計相成タシ

五月二十八日付合機密領第九七號御來旨ノ領事會議々案別  
本信寫送附先

外務大臣、哈爾賓、吉林、長春、鄭家屯、遼陽、

本信寫送附先

一 東北（満蒙）鉄道懸案関係  
 就テハ當館及局子街、百草溝兩分館分取纏メ別紙送付セル  
 二付可然御取計相成度此段申進ス

在奉天 總領事林久治郎殿

在滿領事會議提出議案送付ノ件

一 在間島 總領事岡田 兼一  
 奉領機密第四號  
 昭和五年六月十九日

一 在滿領事會議提出議案送付ノ件  
 奉領機密第六一一號  
 昭和五年六月二十日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
 昭和五年六月十九日奉領機密第四號寫送付  
 奉天總領事宛

26 昭和5年6月20日 在間島岡田（兼一） 総領事より  
 問島總領事の在満領事會議議題提出について  
 機密第六一一號  
 昭和五年六月二十日

（別紙）

在満領事會議提出議案

追テ琿春及頭道溝兩分館ハ提議案無之趣ニ付爲念申添ユ  
 本信寫送付先 本省 四分館  
 一、對鮮人政策等ニ關シテハ之力確立前當局者側ヨリ新聞  
 其他ニ漏洩セサル様關係筋ニ注意方ノ件  
 最近支那ニ於ケル我治外法權撤廢並鮮人歸化權承認  
 問題等内地新聞ニ掲載セラレ右ハ拓務省側ヨリ發表  
 セラレタルヤニ傳ヘラルル處右報道ハ在留内鮮人間  
 ニ多大ノ衝動ヲ供ヘタルノミナラス一方支那側ハ之  
 ヲ以テ好個ノ宣傳材料トシ種々論議セラレ爲メニ出  
 先官憲ハ勿論在留邦人ノ蒙ル不利鮮少ナラス殊ニ鮮  
 人ハ其去就ニ迷ヒ思想惡化ヲ誘導スルノ虞アル處此  
 セサル限り無雜作ニ關係當局ヨリ新聞等ニ漏洩スヘ  
 キ性質ノモノニアラス故ニ將來慎重ナル態度ヲ以テ  
 是ニ處セサルヘカラス宜シク其筋ニ於テ協議ノ上夫々  
 訓令セラル様上申ノ必要アルモノト認ム

四、不逞鮮人取締ニ關スル件  
 奧地ニ跳梁シツツアル各種鮮匪ノ鮮農ニ加ヘツツアル  
 行動及損害狀況及之力取締方策如何  
 近來或種ノ不逞團ハ我方取締消極的ナルニ馴レ奥地ハ  
 臆ト彼等ノ支配下ニアルノ感アリテ最近ニ於テハ附屬  
 地附近ニ出沒シ進テ附屬地内ニマテ行動セム狀勢ニア  
 リ奥地方面ハ取締ヲ支那側ニ一任スルトスルモ沿線附  
 近地方ニ犯罪搜查ノ爲メ出張セシムル警察官ノ旅費增  
 額ヲ希望ス

25 昭和5年6月20日 在吉林石射總領事より  
 幣原外務大臣宛（電報）  
 中國側と運賃協定並びに連絡運輸會議開催を  
 希望するとの満鉄側の意向について  
 吉林 6月20日後発  
 本省 6月20日後着

奉天、長春ニ轉電セリ

ル事端ヲ發生セシメタル類例アルニヨリ我軍ノ豫告期  
 間豫告勵行ト共ニ支那側ノ通達敏速勵行ヲ警告シ置  
 キタシ

第四二号

往電第四一號ニ關シ

其ノ後中川ハ運賃協定並ニ聯絡運輸會議開催方ノ件打合ノ  
 為満鐵本社ニ赴キタル處本社當局ニテハ今回總裁出發前本  
 件ニ付其ノ指揮ヲ仰キタルニ

（一）右ハ外務省ノ承認ヲ待ツ必要ナク支那側ノ申出ニ應シ差  
 支ナキ旨指令アリタルニ付本社トシテハ此ノ際直ニ會議  
 ノ開催ニ應スル意向ナリ

（二）但シ外務省ヨリ本官ニ對シ未タ回訓ナキ次第ナラハ右總  
 裁ノ指令ニ基キ措置シ差支ナキヤ否ヤニ付爲念本官ヨリ  
 本省へ確カメ方取計ヲ得度

（三）總裁ノ意向ニテハ本件ノ如キハ三月十八日閣下トノ御協  
 議ニ於テ大体自分ニ一任サレタルモノト思考シ居ラル  
 趣ナリトノコトナリシ由ニテ中川ヨリ報告ノ次第アリタ  
 リ就テハ同人ヘ回答ノ必要モアルニ付右満鐵ノ取計ニテ  
 差支ナキヤ總裁ヘ一任云々ノ實否ト共ニ至急御回電アリ  
 タシ尙満鐵側ニテハ本官ヘノ御回電ヲ待ツ爲支那側ヘノ  
 回答ヲ一週間程延期セシメ置ク由ナリ

## 二、情報交換ヲ一層密接ニシタキ件

共産主義關係ノ各種事件ハ將來續發ノ虞アルモノト思料セラルヲ以テ取締上常ニ之カ對策ヲ攻究シ置

力サルヘカラス故ニ苟モ思想問題ニ關スル限り内鮮度ク露西亞、西比利亞方面トモ本省ヲ通シテ情報ヲ交換シタシ

支人タルヲ問ハス一般情報ハ勿論豫審終結決定並判決等ニ至ルマテ各館互ニ通報シ充分ナル連絡ヲ取り

度ク露西亞、西比利亞方面トモ本省ヲ通シテ情報ヲ交換シタシ

## 三、領事館事務ノ刷新

外務省令等ヲ以テ領事館内ニ主任又ハ科長制度ヲ設ケ同時ニ書類及參考書籍ノ引繼ニ關スル規定ヲ設ケ之カ散逸紛失ヲ防クコトニ努メ度シ

四、在支公館官舍設計ノ場合支那係擔當者ノ官舍ハ支那人來客ニ接スル關係上特ニ洋式應接室ヲ設計セラレ度件

五、商埠地區劃撤廢方ニ關スル件

支那ハ滿洲各開放地内ノ一小區域ヲ劃シ之ヲ商埠地ト自稱シ外國人ノ居住營業ヲ該區域内ニ局限シツツ

アリ爲ニ我方ノ法權行使上常ニ支那側ト爭鬭ヲ惹起シ税金濫課ノ弊ヲ馴致セントスルノミナラス自由通

商ノ權利ヲ著シク縮減セラレ邦人ノ發展上障害アリ斯ル制度ハ未タ我方トノ商定ヲ經テ施行セラレタルモノニアラス條約ニ於ケル開放ノ意義ニ反スルモノナレハ之カ撤廢ニ關シ支那政府ト交渉ノ要アリト認ム

六、領事館間ノ連絡ヲ一層緊密ニスルト共ニ朝鮮總督府、關東廳、滿鐵會社、東拓會社等ノ關係官廳竝特殊機關トノ連絡協調ヲ尙更ニ緊密圓滑ヲ圖ルコトシ度シ

從來領事館間ニ本館分館間ニ於テ其連絡充分ナラサルタメ意外ノ不都合ヲ來シタル事例渺ナカラス殊ニ關係他官廳竝特殊機關ト連絡緊密ナラサルタメ各其ノ分擔セル事務竝事業ノ遂行上鮮ナカラサル損失ヲ來シ居ルヤニ觀察セラルヲ以テ相互ノ文書竝出張及會合等ニヨリ充分ナル連絡ヲ執リ當否ヲ是正シ過不足相補ヒ各其ノ責任ヲ果スタメ其ノ有スル豫算乃至資金、經費等ヲ充分ニ活用スル様ニシ度シトノ趣旨ナリ

## 27 昭和5年6月21日

幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使他宛

鉄道運賃差別には九力国條約を開示して交渉方訓令

## 亞一機密合第八三一號

昭和五年六月二十日

外務大臣男爵 壁原 喜重郎

在中国臨時代理公使、在奉天、在吉林、在哈爾賓、在青

島、在天津、在濟南、各總領事又ハ總領事代理、在南京

領事、在長春領事、在中国矢野公使館書記官宛

支那鐵道運貨差別待遇二關スル件

支那鐵道運貨差別待遇問題ニ關シテハ豫テ訓令ノ次第モアリ差別待遇力千九百二十二年ノ「支那ニ關スル九國條約」

第五條ノ規定ニ違反セルハ極メテ明瞭ノコトナルカ華府會議太洋洋及極東委員會第二十一回會合ニ於テ本條討議ノ際

支那國委員會基ハ鐵道運貨ヲ classify スルノ権利ヲ留保シテ将来ノ誤解ヲ避ケント欲シタルカ右ニ對シ日本國委員會ハ支那國力運貨ヲ classify スルモ之ニ由ツテ諸政府又ハ其

ノ人民ノ利益若ハ損失ヲ招來スルカ如キコトナルカヘシト就テハ貴官御参考迄ニ前記支那側ノ主張別紙大正十三年一月九日附及同年四月九日附在支公使來信機密第四五號及公第一四二號寫送致スニ付委曲右ニテ御了承ノ上支那側ニ對シ此上トモ差別待遇實施阻止方盡力セラシ度シ

（注意、濟南へハ特ニ昭和五年二月八日附並、一、機密  
第一号写取添附ノコト、）

吉林省政府による城内満鉄公所敷地回収計画

28 昭和5年7月3日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

吉林省政府による城内満鉄公所敷地回収計画

について

吉 林 7月3日後発  
本 省 7月3日後着

第四三號

間島總領事發閣下宛電報第九二號ニ關シ

最近當省政府ニ於テ當地城内ニアル満鐵公所事務所敷地ハ  
鐵側ノ右土地入手迄ノ事情ニ付外交部特派員辦事處ヲシテ  
密ニ調査セシメ居ル旨諜報者ヨリ報告アリタリ所謂大満鐵  
ノ背景ヲ有スル土地ヲ云々スルニ至リタルコトハ或ハ支那  
側力滿洲ニ於ケル本邦人ノ土地權問題ニ關シ積極的態度ニ  
出テ來ル前兆ニアラスヤトモ考ヘラレタルヲ以テ領事會議  
胡宗瀛ヨリ買取りタルモノノ由ナルカ右ハ條約違反ナルヲ

以テ回收シテ吉林省ノ省有財產ト爲スヘキモノナリトテ満  
鐵側ノ右土地入手迄ノ事情ニ付外交部特派員辦事處ヲシテ  
密ニ調査セシメ居ル旨諜報者ヨリ報告アリタリ所謂大満鐵  
ノ背景ヲ有スル土地ヲ云々スルニ至リタルコトハ或ハ支那  
側力滿洲ニ於ケル本邦人ノ土地權問題ニ關シ積極的態度ニ  
出テ來ル前兆ニアラスヤトモ考ヘラレタルヲ以テ領事會議  
送セリ

30 昭和5年7月5日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

吉敦鐵道では鐵道部および東北交通委員会の  
訓令に基づきマッチについて運賃差別を実施  
について

吉 林 7月5日後発  
本 省 7月6日前着

本官發奉天宛電報第五號

第四五號

31 昭和5年7月8日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

吉敦鐵道ハ燐寸ノ運賃ニ付從來外國品ヲ一級支那内地製品  
ヲ三級トル規定アリタルモ支那ニ於ケル外國工場ノ製品

滿鉄沿線では協定運賃により差別待遇を受け  
ざるも北寧鐵道では差別運賃導入に付即時中  
止方交渉員に申し入れについて

等ノ機會ニ各地ノ情報ヲ綜合シ對策考究ノ必要アルヘシト  
思考シ居リタル次第ニテ間島總領事ノ得タル商租權撤回  
行情報ハ相當根據アルモノナルヘント存セラル  
奉天、間島、上海、南京、北平へ轉電セリ

29 昭和5年7月5日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

東北交通委員会で差別運賃實施準備中につき  
九力國條約違反たるを指摘して実施阻止に努  
めている旨について

吉 林 7月5日後発  
本 省 7月5日後着

第二九一號

當地關係ノ支那鐵道ニテハ未タ差別運賃ヲ實施シ居ラサル  
モ（四洮線ニ於テモ實施シ居ラサル旨遠山ヨリ回電アリ又  
北寧線モ當地ニテハ實施シ居ラス）東北交通委員會ニ於テ  
本件實施方準備中ノ旨豫テノ聞込モアリタルニ付四日館員  
ヲシテ交渉員ヲ往訪セシメ覺書ヲ手交ノ上口頭ヲ以テ本件  
鐵道運賃ノ差別待遇カ九國條約違反ナルコトヲ指摘シ萬一

一 東北（満蒙）鉄道懸案関係

第二九八號  
往電第二九一號ニ關シ

奉天 7月8日後発  
本省 7月9日前着  
膠濟鐵道以外でも運賃差別撤廃交渉方訓令  
昭和5年7月9日 在中國重光臨時代理公使宛（電報）

32 公第二八九號  
膠濟鐵路ノ件ハ実施延期ヲ見タルモ天津發本大臣宛電報第  
二八四號ニ依レハ北寧鐵路局ニハ未タ通知ナク又長春來電  
合第六號ニ依レハ四洮線ニテハ差別運賃ヲ実施シ居リ其ノ  
他ニテモ差別待遇ヲ実施シ居ルヤニ思ハル處元來本件ハ  
上海宛訓令公第二二九號ノ通支那ニ於ケル鐵道全般ニ亘ル  
問題ナルニ付テハ此ノ上トモ一般的ニ差別待遇ノ撤廃方御  
交渉相成ルト共ニ地方的事情ノ如何ニ應シ少クトモ右待遇  
中止又ハ延期方御努力アリ度シ

南京へ轉電アリ度シ  
北平、天津、奉天、吉林、長春へ轉電セリ  
上海、南京、北平、天津、長春、吉林、鄭家屯へ轉電セリ  
十五仙ニ低下實施中ナルコト判明シタルニ付東北交通委員  
會ノ關係モアリ右事實並吉林總領事通報ノ事實ニ基キ支那  
側ニ改メテ差別待遇即時中止方申入置キタリ尙本件ニ付テ  
ハ本日館員ヲシテ交渉員ニ交渉セシムル筈ナルモ不取敢  
題ニ手ヲ着クル所存ナリト認メラル不取敢

上海、南京、北平、天津、長春、吉林、鄭家屯へ轉電セリ  
十五仙ニ低下實施中ナルコト判明シタルニ付東北交通委員  
會ノ關係モアリ右事實並吉林總領事通報ノ事實ニ基キ支那  
側ニ改メテ差別待遇即時中止方申入置キタリ尙本件ニ付テ  
ハ本日館員ヲシテ交渉員ニ交渉セシムル筈ナルモ不取敢  
題ニ手ヲ着クル所存ナリト認メラル不取敢

の撤退方要求について

吉林 7月10日後発  
本省 7月11日前着

第四八號

往電第四三號ニ關シ

外國人力内地ニ於テ土地家屋ヲ購入シ又ハ借入ルコトハ  
條約違反ナリトシ當地城内ニ在ル滿鐵公所事務所ヲ商埠地  
内ニ撤退セシメラレタキ旨七月五日附ヲ以テ鍾特派員ヨリ  
公文照會アリタリ支那側ハ愈本邦人ノ土地權乃至居住權問  
題ニ手ヲ着クル所存ナリト認メラル不取敢  
上海、南京、北平、奉天、間島へ轉電シ哈爾賓、齊々哈爾、  
長春へ暗送セリ

34 昭和5年7月10日 在南京上村（伸一）領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

鉄道差別運賃は膠濟鐵道以外一月より実施し  
てあるため延期の訓令をなさずとの胡世沢回  
答について

十日胡世澤ハ本官ニ對シ其ノ後鐵道部側ト交渉シタル處鐵  
道部側ノ云フ所ニ依レハ鐵道運賃ノ差別待遇ハ既ニ本年一  
月ヨリ支那全体ノ鐵道ニ於テ實施セラレ唯膠濟鐵道ノミハ  
七月一日ヨリ實施スルコトナリ居リ其ノ間偶々日本側ノ  
抗議アリタル爲膠濟鐵道ノ差別運賃實施ハ之レヲ延期スル  
コトトシタルモ爾余ノ鐵道ハ總テ一月ヨリ實施シ居ル爲實  
施延期ノ訓令ヲ發シ得ス將又既ニ實施中ノ運賃ヲ中止セン  
ムルコトハ事實上本件ニ關スル支那側ノ主張ヲ放棄スルコ  
トトナルニ依リ到底實行シ得ストノコトニテ從來自分（胡  
ニ誤解アリシコトヲ知リタルニ依リ此ノ上ハ自分トシテハ  
出來得ル丈ヶ速ニ本件ノ根本問題タル九國條約ニ關スル論  
爭ヲ解決スルコトニ努力スル積ナリト述ヘタルニ依リ本官  
ハ我方抗議ハ單ニ膠濟鐵道ノミニ限ラス鐵道部カ一般的ニ  
定メタル差別的改訂運賃其ノモノニ對スルモノナルコトハ  
三月十九日重光代理公使ヨリ王部長ニ手交セル説明書（三

33 吉林省政府の吉林省城内滿鐵公所の商埠地へ  
昭和5年7月10日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

月廿四日附重光代理公使發閣下宛機密公第三九號）及右ニ  
對スル外交部ノ回答（五月廿四日附本官發代理公使宛機密  
第八二號）ニ依ルモ明カニシテ假令貴官ニ於テ何等誤解ア  
リタルトスルモ右ハ我方ノ關スル所ニアラス外交部トシテ  
ハ責任ヲ負ヒ曩ニ貴官ヨリ本官ニ對シ口頭ヲ以テ述ヘ（閣  
下（宛）拙電第五一七號）

又王部長ヨリ重光代理公使ニ對シ書簡ヲ以テ回答シタルナ  
リ（上海發閣下宛電報公第六九八號）本件交渉解決スル迄  
一律ニ差別運貨ノ實施ヲ阻止スル様飽迄モ鐵道部側說得ニ  
努力スル義務アルヘシ尙膠濟鐵道以外ノ總テノ鐵道ニ於テ  
ハ本年一月ヨリ差別運貨ヲ實施シ居ル旨述ヘラレタルカ自  
分ノ有スル情報ニ依レハ例へハ四洮鐵道ノ如キハ未タ實施  
シ居ラサルモ何時實施スルヤ計ラレサル狀況ニアリトノコ  
トナルニ付此ノ際中央ヨリ全國ノ鐵道ニ對シ膠濟鐵道ニ對  
スルト同様ノ訓令ヲ發スルコト極メテ必要ナリト述ヘタル  
ニ胡ハ四洮線ニ付テハ曩ニ貴官ヨリ話アリタルニ依リ特ニ  
鐵道部ニ對シ念ヲ押シタル力同部ニ於テモ確カニ本年一月  
ヨリ實施シ居ル旨ノ回答アリタルニ付貴方ニ於テモ今一應  
現地ノ領事館ニ付御確カメノ上若シ鐵道部側ノ回答ニ誤リ

アルコト明白トナリタル際ハ更ニ自分（胡）ヨリ鐵道部ニ  
交渉スルコトトスヘシト答へ更ニ種々押問答ヲナシタルカ  
結局當日ハ纏リタル結果ヲ得ス尙其ノ際本官ハ本件交渉成  
立迄差別運貨ノ實施ヲ阻止スルコト差當リ我方ノ最モ重キ  
ヲ置ク所ナルカ同時ニ出來得ル丈ケ速ニ本件論爭ヲ根本的  
ニ解決スルコトモ我方ノ最モ希望スル所ナリ而シテ九國條  
約ノ解釋問題ニ付テハ曩ニ外交團ヨリ支那側ニ宛テタル書  
面中ニ委曲ヲ盡シ居タルニ付貴官ノ參考ノ爲其ノ寫ヲ差上  
クヘシトテ一九二四年四月八日附顧維鈞宛書簡寫（六月廿  
四日附北平發上海宛機密第三九號附屬英文）ヲ手交シ置キ  
タリ

上海、北平、奉天、天津、吉林、長春へ轉電セリ

35 昭和5年7月10日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

鐵道運貨差別問題に對し外交團に交渉權限な  
しとして外交部としては回答しない旨胡世沢  
内話について

上海、北平、奉天、天津、吉林、長春へ轉電セリ

ノ南 京 7月10日後発  
本 省 7月11日前着

#### 第五四二號

往電第五四一號胡世澤ト會談ノ際胡ハ本官ニ對シ鐵道運貨  
ノ問題ニ付テハ北平外交團首席ヨリモ抗議シ來レルカ國民  
政府ハ外交團ニ斯ル交渉ヲナス權限ナシト認メ外交團ノ抗  
議ニ對シテハ回答セサルコトニ決定セル旨内話セリ右ハ往  
電第五三六號王正廷ノ聲明ヲ具體化シタルモノト認メラル  
北平、上海、奉天ニ轉電セリ

36 昭和5年7月12日 在長春田代領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

四洮鐵道の東北交通委員会命による国内品優  
遇運賃策実施について

長 春 7月12日後発  
本 省 7月13日後着

第一六號  
往電合第六號ニ關シ

37 昭和5年7月14日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛

通化分館主任および赤峰領事館事務代理の在  
滿領事會議議題提出について  
(7月26日接受)

昭和五年七月十四日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

在滿領事會議諮詢事項答申案三關シ報告ノ件

事務代理牟田書記生ハ在満領事會議一時延期方御訓令以前

ニ任地出發來奉シタルニ付御諮詢事項中關係事項ニ關スル

答申案ヲ徵シタル處左記ノ通回答アリタリ尙右ニ關スル本

官所見別途申進ス

右報告ス

記

件

一、鄭家屯領事館ニ開魯地方鮮人ノ保護取締依頼ノ  
開魯地方ニハ從來鮮人ノ水田事業ニ從事スル者相當アル由  
ナルカ同地方ハ赤峰トノ距離遠隔ニシテ何等ノ交通ナク當  
館ニテハ其ノ事情全然不明ナリ然ルニ鄭家屯領事館管内ノ  
通遼ト開魯間ハ日々自動車ノ交通アリ通遼ニハ鄭家屯領事  
館ノ警察官モ駐在シ居リ同地方ノ事情比較的分明シ居ルヘ  
ク又鮮人事情ヲ取調フルニモ便宜多キコト信ス故ニ該地  
方ニ於ケル鮮人ノ保護取締上緊急ヲ要スルモノハ便宜鄭家  
屯領事館ニテ取扱ヒ其ノ取扱振リヲ當館ニ通報スル方却テ  
效果多キコトト被存尙熱河省政府ニ向ヒ交渉スルカ如キ場  
合ハ支那行政區域ノ關係モアリ依然當館ニテ取扱フコトト

二、鮮匪國民府側ノ動靜並支那側官憲ノ鮮匪取締振  
等ニ關スル件

鮮匪取締ニ關シテハ其ノ後專ラ支那側當局ヲ督勵シ臨機ノ  
措置ヲ執リ來リタル處旺清門ニ亞ク國民府ノ重要地盤ニシ  
テ而カモ多年亘リ唯一財源地タル柳河縣三源浦ニ設置シ  
アリタル國民府地方公所モ通化韓僑同鄉會及磐石縣ヨリ進  
出シ來リタル住中青年同盟中心ニ地方鮮農ノ加入セル反動  
團体ノ爲客年十月根底ヨリ覆ヘサレ爾來國民府側ハ財政難  
ニ陥レリ之カ挽回策トシテ反動團体ノ撲滅ニ所有努力ヲ拂  
ヒ去ル三月十四日夜暗ニ乘シ三源浦ニ潛入シ同地鮮人經營  
東明學校ヲ襲擊シ教員韓清玉外一名ヲ射殺シ支那人一名ニ  
銃創ヲ負ハシメタル顛末ハ當時ノ報告ニ依リ御承悉ノ通ナ  
リ

越エテ五月初旬頃ヨリハ臨江縣内ノ取締緩ナルヲ奇貨トン  
八道江方面ニ入込ミ隣接地帶タル通化縣東部（四、五道江）  
地方ニ魔手ヲ延ハシ同地方鮮農ノ表面中立ヲ標榜シ組織セ  
ル通東農友會ニ對シ日本側ノ走狗ナリト高壓的ニ解散ヲ命  
シ之ニ應セサルニ於テハ最後ノ手段ヲモ厭ハス云々ト脅迫

シタリ元來中立ヲ聲明セル農友會員モ後難ヲ恐レ去就ニ迷  
ヒ日夜暴威ノ身邊ニ及ハント之力對策モ苦心セル始末ナリ  
他面國民府側ハ又地方支那人間ニ日本ハ朝鮮總督府ヲシテ  
支那官憲ヲ買收セシメ吾國民府ヲ剿討シ以テ滿蒙侵略ノ毒  
手ヲ擅<sup>(擅)</sup>ニセントスル野望アリト巧ミニ逆宣傳ヲ流布セリ然  
レトモ反動團体ノ活動ト稍々覺醒シタル地方鮮支人間ニハ  
左シタル效果ナカリシ斯クテ國民府側ノ義務金徵收意ノ如  
クナラス今ヤ極度ノ財政難ニ遭遇シ此ノ儘推移セハ軽テ自  
滅ノ外ナキ趨勢トナリ内幕暴落ニ焦リ國民府側ヨリ陰ニ住  
中青盟側ニ密使ヲ送リ接近ヲ計リタル處青盟側之ヲ暗殺ス  
ル等計畫水泡ニ歸セル情勢ナリ差シ迫レル窮境打開策トシ  
テ最近旺清門及興京ニ於テ決死隊ヲ募リ鮮内侵入ノ苦肉策  
(拙電第二八、三〇、三一、三二號御參照)ヲ案出スル等  
財源捻出ニ全力ヲ注ギツツアリ

通東農友會ニ對スル脅迫前述ノ通ニシテ之力對策ニ關シ支  
那側トモ交渉中ノ折柄客月二十二日農友會代表トシテ吳錫

詠外二名當館へ出頭シ臨江縣八道江板石溝ニ國民府中央執  
行委員朴在勳同林炳武（林基弘）等武裝隊ヲ引率シ來リ通  
東ニ國民府支部組織スト稱シ義務金徵收方強要セラレ之ヲ

拒マン乎最後ノ手段ニ出テラルル虞アリ部落民ハ何レモ恐  
怖ノ念ニ驅ラレ事態容易ナラス此ノ際相當保護取締アリタ  
キ旨請願ノ次第アリ仍テ本官ハ實情調查スルト共ニ支那側  
當局ニ交渉ヲ遂ケ公安隊員ノ派出ヲ要求シ同月廿四日館員  
ヲ現地及臨江縣八道江ヨリ板石溝方面へ急派出張セシメタ  
リ果セル哉朴及林ハ數名ノ武裝隊ヲ引連レ潛在ス仍テ八道  
江區官其他ヲ買收利用シ廿五日未明朴在勳外八名ヲ難ナク  
逮捕シ小形拳銃二挺同彈丸二十五發並不穩文書等押收セリ  
取調ノ結果朴在勳外五ハ別添略歷及犯罪事實概要ノ通ナル  
ニ付身柄及押收品ハ一件書類ト共ニ奉天檢事々務取扱ニ送  
致シ三名ハ證據不充分ナルヲ以テ將來ヲ訓戒シ放還セリ  
敍上ノ如ク國民府側ハ財資捻出ト反動團體撲滅ノ爲武裝隊  
ヲ密派シ地方鮮農ヲ脅迫シツツアルモ鮮農ノ疲弊是亦豫想  
外ニテ進退谷マリ居ル狀態ナリ此等武裝隊ノ侵入ニ對シテ  
ハ其ノ都度支那側ニ交渉シ搜索檢舉方嚴重申入レ督勵シツ  
ツアリ

通化、桓仁縣當局ハ比較的我方ノ要求ニ應スルト雖モ朝鮮  
人事情ニ通セス唯々清鄉法一點張リニシテ一時ヲ糊塗スル  
ニ過キサルノ慨アリ交渉圓滑ニ進捗スルニ不拘所期ノ成績

ヲ擧ケ得サル所以蓋シ故ナキニアラサルナリ

新賓縣當局ノ鮮匪取締振世既ニ定評アリ本年四月初旬衣  
長自ラ旺清門ニ出張シ容疑者逮捕ノ舉ニ出テタルモ這ハ上  
司ヨリノ命モアリ批難ノ聲高マリタルニ動キ一時世間態ヲ  
胡魔化ス兒戲ニ類スル狂言ヲ演シタルニ過キサリシコトハ  
衣縣長其ノ後ノ措置振りニ照シ推察セラレ（當時避難シ身  
ヲ隠シタル國民府幹部ノ搜索ハ勿論逮捕シタル容疑者ハ名  
モナキ雜輩ニシテ一應形式的取調ヲ爲シタルノミニテ數日  
ナラス之ヲ放還セリ）何等ノ手配ヲナササル旺清門ニ於ケ  
ル國民府ハ舊態依然タル次第ナリ由是觀之該縣内ノ鮮匪取  
締ハ現下ノ處地方の交渉ノミニテ徹底スヘキ見込立タル實  
情ニ鑑ミ辦法ヲ講スルノ要ヲ痛感ス

前陳ノ通化、桓仁、柳河ノ三縣ニ於ケル當局自体ハ比較的  
ニ了解シ居レハ一步ヲ譲リ鮮匪剿討ニ利用スルトスルモ地  
方派出ノ區官其ノ他下級巡警等ハ前身馬賊ニアラサレハ無  
智蒙味<sup>〔味カ〕</sup>ノ無賴漢ト言フヘク此等ハ悉ク金錢慾ニ執着スルコ  
トトテ鮮匪側ハ此ノ弱點ニ附入り常時贈賄スルト共ニ酒食  
ヲ供シテ操縱ニ努ム上司ノ命令撤底<sup>〔撤〕</sup>セサルハ怪シムニ足ラ  
サルナリ客月十四日柳河縣拉子溝ニ武裝鮮匪潛入シ支那側

然ノ歸結ナリト思料セラル  
殊ニ最近ニ於ケル問島龍井及頭道溝襲撃事件ハ當地方一般  
ニ衝動ヲ與ヘ就中思想團體タル住中青盟側ニハ共通的色彩  
アリ間島方面ノ餘波ハ異常ナル動搖ヲ惹キ起サルルヤ保證  
シ難ク日本内地及鮮内ニ於テモ頻々トシテ起ル共產事件ノ  
物騒ナル索圍氣ニ包マル現下ノ情勢ニ鑑ミ住中青盟ノ言動  
ハ嚴重警戒ヲ要スヘク支那側當局ノ取締如何ニ依リテハ急  
轉惡化ノ虞アリ殊ニ支那側官憲ニ對シ遺憾ニ堪ヘサルハ東  
邊一帶ニ於ケル各樣當局ニ共通的聯絡ナク各縣各様ノ取締  
振りハ徒ラニ時機ヲ逸スルノミナリ過般臨江縣八道江ニ踏  
込ミ鮮匪逮捕ノ際當館員力通化縣内ヨリ追跡シ來リタル形  
式ヲ以テ現地支那官憲ノ面目ヲ保持セシメタル次第ナリ  
從來支那官憲ノ鮮匪取締振リナルモノヲ綜合スルニ領事館  
乃至領事分館所在地ハ比較的勵行セラルルト雖モ爾餘ノ地  
方官憲ニ在テハ幾多ノ交渉モ結局有耶無耶ニ終ル嫌アリ支  
川、清源等ノ各縣ニ夫々支那語ヲ解スル副領事若クハ書記  
生級ヲ臨時配置駐在セシメ當時支那側ヲ督勵セハ相當效果  
ヲ擧ケ得ヘシト思考セラルル付特別御審議相仰度御参考迄

胡魔化ス兒戲ニ類スル狂言ヲ演シタルニ過キサリシコトハ  
衣縣長其ノ後ノ措置振りニ照シ推察セラレ（當時避難シ身  
ヲ隠シタル國民府幹部ノ搜索ハ勿論逮捕シタル容疑者ハ名  
モナキ雜輩ニシテ一應形式的取調ヲ爲シタルノミニテ數日  
ナラス之ヲ放還セリ）何等ノ手配ヲナササル旺清門ニ於ケ  
ル國民府ハ舊態依然タル次第ナリ由是觀之該縣内ノ鮮匪取  
締ハ現下ノ處地方の交渉ノミニテ徹底スヘキ見込立タル實  
情ニ鑑ミ辦法ヲ講スルノ要ヲ痛感ス

前陳ノ通化、桓仁、柳河ノ三縣ニ於ケル當局自体ハ比較的  
ニ了解シ居レハ一步ヲ譲リ鮮匪剿討ニ利用スルトスルモ地  
方派出ノ區官其ノ他下級巡警等ハ前身馬賊ニアラサレハ無  
智蒙味<sup>〔味カ〕</sup>ノ無賴漢ト言フヘク此等ハ悉ク金錢慾ニ執着スルコ  
トトテ鮮匪側ハ此ノ弱點ニ附入り常時贈賄スルト共ニ酒食  
ヲ供シテ操縱ニ努ム上司ノ命令撤底<sup>〔撤〕</sup>セサルハ怪シムニ足ラ  
サルナリ客月十四日柳河縣拉子溝ニ武裝鮮匪潛入シ支那側

討伐隊ト衝突シ鮮匪側一名ヲ射殺シ長銃一挺ヲ押収シタル  
處討伐隊側ハ隊長外四名ノ死傷者ヲ出セリ當時鮮匪側ハ死  
体ヲ遺棄シ安口嶺山中ニ逃竄シタルヲ以テ討伐隊ハ三日間  
ニ亘リテ之ヲ包围シ鮮匪首領白雲斑（以前三源浦地方總管）  
外六名ヲ射殺シ更ニ長銃七挺「モーゼル」拳銃（五挺ト云  
フモ員數不詳）押收セリト

附記押収銃ニ關スル情報區々ニシテ支那側ハ發表セサル  
爲精確ナル員數知ルニ由ナシ

斯ル事件直後ノコトトテ最近ニ於ケル柳河縣當局ノ縣内鮮  
匪取締振リハ相當緊張味ヲ帶ヒ居ルハ本官這次在滿領事會  
議出席ノ爲出奉るノ途次柳河縣通過ノ際目擊シタル所ナルモ  
翻テ過去ヲ追想セハ思ヒ半ニ過クルモノアリ三源浦ニハ多  
年國民府ヨリ地方公所ナルモノアリテ學校ヲ設ケ武裝隊ヲ  
編成訓練シ鮮匪等ノ自由行動ヲ默認シタルノミニナラス寧ロ  
政治犯者トシテ庇護シ居リタルハ今尙記憶ニ新ナル周知ノ  
事實ナリ由來一定シタル方針ナキ支那側ノ鮮匪取締振リハ  
當局裁量將又更迭其ノ他ノ事由ニ依リテ變化スルヲ常トス  
今日ヲ以テ明日ヲ豫測シ得サル次第ナリ支那側官憲ヲ利用  
シ鮮匪ノ取締ヲ爲スニハ一段ノ考慮ト研究トヲ要スルハ當  
署訪問ノ際羅縣長ヨリ右犯人ニ對シ一應ノ取調ヲ了シ身柄  
ハ當館ヘ引渡スヘシト語リタリ

尙時節柄馬賊跳梁期ニ入り各縣共支那側當局ハ清鄉ニ忙殺  
セラレ居ルノ狀態ナリ例年夏季ニ於ケル鮮匪取締ハ弛緩ス  
ルヲ常トス仍テ本官ハ此ノ點通化縣長ニ對シ豫メ注意ヲ促  
シ置キタル次第ニ付茲ニ申添フ

本信寫送付先、赤峰、通化、鄭家屯

~~~~~

38 昭和5年7月22日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉長、吉海両鐵道連絡協定の効果的実施に必
要な取決め事項につき請訓

吉林省 7月23日前着

第五〇號

貴電第一七號ニ關シ（吉長海吉兩線連絡問題）
滿鐵側ノ吉長吉海協定案ハ客年五月作成ノ案（當時滿鐵ヨリ本省へ提出シアル筈）ノ儘ナル趣ノ處吉長吉海間ノ運賃及聯絡協定ヲシテ效果的ナラシムルニハ（一）瀋海及滿鐵ヲモ含メ四鐵道間ノ協定トナス必要ナキヤ（二）吉敦線其ノ將來ノ支線ヲ右協定ニ適合スル様拘束スル爲ニハ右吉長吉海間又ハ（一）ノ協定外ニ於テ少クトモ東北交通委員會ト滿鐵乃至奉天總領事間ニ別ニ取極ヲ爲スヘシト思考シタルヲ以テ中川代表ヨリ吉海へ回答前ニ同人ト篤ト談合ノ必要ヲ認メ同人ノ回答ヲ差止メ置キタル處其ノ後中川本官共ニ病氣ノ爲漸ク二十日本官中川及滿鐵本部ヨリ特ニ出張ノ久保田社員長春ニ於テ會合シ意見交換ノ結果右（一）及（二）共ニ其ノ必要アリトノコトニ一致ヲ見此ノ點ニ付本官ヨリ重ネテ請訓シ本省ノ御方針ニ付回訓ヲ得ル迄中川ノ吉海ニ對スル回答ヲ更ニ差控ヘルコトニ打合セタルニ付テハ右二點ニ關シ從來ノ御方針至急御決定ノ上御回示ヲ仰ク（右會合ノ結果ニ付テハ滿鐵本社ヨリ在滿仙石總裁ニ電報シタル筈）

春ニ於テ會合シ意見交換ノ結果右（一）及（二）共ニ其ノ必要アリトノコトニ一致ヲ見此ノ點ニ付本官ヨリ重ネテ請訓シ本省ノ御方針ニ付回訓ヲ得ル迄中川ノ吉海ニ對スル回答ヲ更ニ差控ヘルコトニ打合セタルニ付テハ右二點ニ關シ從來ノ御方針至急御決定ノ上御回示ヲ仰ク（右會合ノ結果ニ付テハ滿鐵本社ヨリ在滿仙石總裁ニ電報シタル筈）

貴電第一七號ニ關シ（吉長海吉兩線連絡問題）
滿鐵側ノ吉長吉海協定案ハ客年五月作成ノ案（當時滿鐵ヨリ本省へ提出シアル筈）ノ儘ナル趣ノ處吉長吉海間ノ運賃及聯絡協定ヲシテ效果的ナラシムルニハ（一）瀋海及滿鐵ヲモ含メ四鐵道間ノ協定トナス必要ナキヤ（二）吉敦線其ノ將來ノ支線ヲ右協定ニ適合スル様拘束スル爲ニハ右吉長吉海間又ハ（一）ノ協定外ニ於テ少クトモ東北交通委員會ト滿鐵乃至奉天總領事間ニ別ニ取極ヲ爲スヘシト思考シタルヲ以テ中川代表ヨリ吉海へ回答前ニ同人ト篤ト談合ノ必要ヲ認メ同人ノ回答ヲ差止メ置キタル處其ノ後中川本官共ニ病氣ノ爲漸ク二十日本官中川及滿鐵本部ヨリ特ニ出張ノ久保田社員長春ニ於テ會合シ意見交換ノ結果右（一）及（二）共ニ其ノ必要アリトノコトニ一致ヲ見此ノ點ニ付本官ヨリ重ネテ請訓シ本省ノ御方針ニ付回訓ヲ得ル迄中川ノ吉海ニ對スル回答ヲ更ニ差控ヘルコトニ打合セタルニ付テハ右二點ニ關シ從來ノ御方針至急御決定ノ上御回示ヲ仰ク（右會合ノ結果ニ付テハ滿鐵本社ヨリ在滿仙石總裁ニ電報シタル筈）

尙久保田ハ我方ノ希望スル協定力成立セヌ物別レトナリタル場合夫レニモ拘ラス支那側ハ勝手ニ鐵路聯絡ヲ試ミルヤモ知レス之ニ對スル政府ノ御決心モ滿鐵トシテ承知シ置キタシトノ希望ヲ述ヘ居タルカ右ハ尤ノ次第ト存セラルルニ付此ノ點ニ付テモ豫メ御研究置キヲ得タシ

前述ノ次第ニテ貴電第一七號第三項本官ヨリ省政府ヘノ申入モ控ヘタル譯ナル處吉林北平間直通列車ニ關シテハ我方ノ抗議的意思ヲ何レカノ方面ヨリ支那側ニ對シ既ニ表示セラレ居ル次第ナルヘキヤ省政府ヘノ申入ノ参考上承知致度併セテ御回示ヲ請フ、尙貴大臣御申越ノ三月十八日滿鐵總裁トノ御協議ニ關スル貴信ハ未着ナリ

奉天、長春へ轉電セリ

奉天、長春へ轉電セリ

39 昭和5年8月2日 在牛莊荒川（充雄）領事より
幣原外務大臣宛

機密第二五二號
昭和五年八月二日
（8月11日接受）

機密第二五二號
昭和五年九月二日
（9月9日接受）

銀価暴落による營口駅取扱い貨物の増加につ
いて

左記ノ通リニシテ前月ニ比シ到着ニ於テ二万七十一噸激増シ發送ニ一千六百四十噸ノ減少ヲ示シ又年同期ト対照スル時ハ到着ニ於テ一万三千二十八噸發送ニ於テ三千四百十九噸ヲ增加シ從来未タ見サルノ好成績ヲ觀ケ居レル力は是ハ全ク銀安ノ為支那側鐵道利用有利ナルニ基因スルモノニテ今後モ益々增加スルモノト觀測セラレゾヽアリ

在牛莊
領事 荒川 充雄〔印〕

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿

銀安ト營口（河北）駅ノ發着貨物増加ニ關スル件

北寧線河北駅ニ於ケル六月中ノ發着荷物數量ヲ内査スルニ左記（續）ノ通リニシテ前月ニ比シ到着ニ於テ二万七十一噸激増

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿

公使館一等書記官 矢野 真〔印〕

北寧鐵道機關車購入借款ニ關スル件

八月九日附公第七三九號拙信ニ關シ今般鐵道省北京辦公處ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付右茲ニ送附ス

本信寫送附先
上海 奉天 天津 南京
(別紙)

北京鐵辦第三九九號
昭和五年八月三十日
鐵道省北京辦公處

編注 「左記」として「北寧線河北駅六月中到着貨物數量」および「北寧線河北駅六月中發送貨物數量」の表があつたが省略した。

40 昭和5年9月2日 在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛

北寧鐵道の機関車購入借款計画について

公使館
矢野書記官殿
北寧鐵道ノ機関車購入ノ件

北寧鐵道ノ車輛購入ノ件ニ關シテハ不取敢八月二十三日附
北京鐵辦第三九三號ヲ以テ御報告申上ケタル所今般鐵道公
報ヲ以テ發表セラレタル所ニ據レハ右ハ全ク機關車四〇輛
ノ購入計畫テアル

即チ北寧鐵道ハ豫テヨリ機關車ノ不足ニ苦シミ機關車購入
委員會ヲ設置シテ詳細ナル研究ヲ行ハシメタル結果最低限
度更ニ旅客列車用機關車一二輛貨物列車用二六輛入換用二
輛計四〇輛ヲ購入スル必要アリト言フ結論ニ到達シ之カ爲
ニハ鐵路局ニ於テ毎月公債發行準備金ヲ積立ツル外短期公
債五百萬元ヲ二回（第一回一百八十萬元、第二回三百二十
萬元）ニ分ツテ發行シ金城、鹽業、中南ノ三行ヲシテ夫々
之ヲ引受ケシムルコトニ決定ヲ見タ

而シテ北寧鐵路局ハ其第一着手トシテ先ツ機關車二〇輛ヲ
購入スルコトソシ之ニ要スル資金三百六十萬元中一百八十
萬元ハ毎月鐵路局ノ積立ツル準備金ヲ以テシ他ノ一百八十
萬元ハ第一回發行ノ短期債券（第一期發行ノ九十萬元、第
二期發行ノ九十萬元）ヲ以テシ尙殘餘債券三百二十萬元ハ
第二回ノ機關車購入ノ用ニ充テムトスルモノテアル本案ハ
目下立法院ニ於テ審査中ニテ其裁決後遠カラス實際車輛購

41 昭和5年9月17日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛

東北交通委員会の四洮鐵道日本人從業員淘汰
策について

機密公第四一八號

昭和五年九月十七日

在長春 領事 田代 重徳〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

四洮鐵路管理局傭聘邦人ノ更迭及交通委員會ノ邦人

從業員淘汰ニ關スル件

本件ニ關シ四平街警察ノ報告スル處ニ依レハ四洮鐵路管理

局事務處轉運課長伊藤正夫ハ家事上ノ都合ニ依リ近ク辭任
シ其後任ニハ洮昂鐵路管理局顧問矢口健男就任シ同顧問ノ

後任ニハ滿鐵哈爾賓事務所運輸課職員和田宗雄就任ノコト
ニ内定セル趣ナルカ右ニ關聯シテ四洮鐵路管理局足立車務

處長ノ語リタル處ニ依レハ從來東北交通委員會ハ同管理局
長ニ對シ借款契約ニ於テ承認セル會計、車務及工務三處長

以下ノ外人從業員ハ今後傭聘ヲ禁止シ既ニ傭聘中ノ者ノ辭
職

入ノ運ヒトナルヘク御参考迄本件ニ關スル別紙鐵道部發行
政院宛呈文及既ニ鐵道部ノ修正ヲ經タル短期債券條例供貴
覽

追テ鐵道部ハ北寧鐵路局ニ對シ國民政府ニ依リ債券條例ノ
公布セラレタル後車輛購入契約ヲ取結フヘキ旨指令セルノ
ミニテ購入契約草案ハ之ヲ發表セス又一般ニ右車輛ハ米國
ヨリ購入セラルモノテアルト報セラレテ居ルノミテ果シ
テ何レノ國ヨリ購入セラルモノナルヤ未タ不明テアル
滿州ニ於ケル支那鐵道ノ經營ハ之ヲ滿鐵ノ經營ニ比スレハ
遙ニ及ハサルモ目下銀價甚シク低落ノ爲金建運賃ノ滿鐵ニ
比スレハ數割ノ割引ト同様ノ結果トナリ從ツテ「サービス」
ノ惡イ點ヲ補フテモ餘リアリ此爲ニ今冬ノ穀物出廻期ニハ
多量ノ貨物ヲ吸收シ得ル豫想ヲ以テ車輛ノ增加ヲ計畫シツ
ツアルモノト觀測セラル

（修繕シ得ル數十輛ノ機關車アルニ拘ラス態々新ニ購入
案ヲ立テタルハ支那一流ノ利益ノ伴フ爲ニアラサルカト
思ハルル點ハ前回報告ノ通テアル）

任シタル場合ニハ之カ補充ヲ支那國民中ニ求メ漸次邦人從
業員ヲ淘汰スヘキ旨ノ密令ヲ發シ居レル模様ナレハ今回ノ
交迭ニ際シテモ同委員會ハ右密令通りノ方針ヲ實現セント
シテ管理局長トノ間ニ接衡^{（衡）}中ナル趣ナリ

右報告申進ス

代理人使 北平 奉天 吉林 哈爾賓 鄭家屯 齊々哈

爾

42 昭和5年9月23日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

四洮鐵道借款利子引下げ問題など東北問題に
關する王家楨との会談について

別電 九月二十三日發在中國重光臨時代理公使よ

り幣原外務大臣宛公第九三〇号

四洮鐵道借款利子引下げ要請について

上海 9月23日後発

本省 9月23日後着

號四洮鐵道借款利子引下問題及別電公第九三一號朝鮮人歸

(別電)

上 海 9月23日後発

本 省 9月23日後着

化權問題等種々滿洲問題ヲ話出シタルニ付本官ハ此等ニ對シ然ルヘク應酬シ置キタルカ其ノ際本官ヨリ特ニ滿洲問題ノ全般的取扱方ニ關シ私見ヲ述へ貴下ノ深甚ナル考慮ヲ願

度キコトアリト前提シ「現ニ日支兩國間ニハ速ニ解決ヲ要スル各種ノ案件多々アル處此等案件モ片付カサル今日妄リニ滿洲ニ關スル重要問題ヲ持出スコトハ日支何レヨリスルニセヨ得策ニアラス蓋シ日支ノ當局者ハ前述ノ如キ先ツ以テ急速解決ヲ要スル問題ヲ一ツ一ツ互讓妥結シ行キ斯クンテ兩國間ノ空氣ヲ改善シ以テ滿洲ノ諸問題ヲモ自然ニ解決シ得ラルルカ如キ機運ノ誘導ニ努ムヘキモノニシテ右ノ如キ良好ナル空氣釀成前ニ妄リニ滿洲問題ニ手ヲ觸ルルカ如キハ寧ロ問題ノ解決ニ逆行スル遣リ方ト言フヘク其ノ結果ハ双方ニトリ問題ヲ益々困難ナラシムルニ止マルヘシ」ト

ノ趣旨ヲ述へ置キタルニ王ハ之ヲ肯定シ居タリ

別電ト共ニ北平、奉天へ轉電シ南京へ暗送セリ

編注 別電公九三一號見当らず。

43 昭和5年10月7日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

東北交通委員會が獨國實業團に対し東北三大
鐵道敷設のための借款申込みについて

當地滿鐵公所ノ調査ニ依レハ東北交通委員會ニ於テハ本年五月中旬頃滿洲ニ於ケル三大鐵道即チ

第一幹線通遼洮南ヲ連結シ齊々哈爾ヨリ黑河ニ達スルモノ

第二幹線吉林ヨリ穆稜ニ至リ依蘭、富錦、同江ヲ經テ綏遠ニ達スルモノ

第三幹線胡蘆島ヨリ熱河ヲ經テ庫倫ニ達スルモノ並ニ之ニ

伴フ幾多ノ支線敷設ヲ計畫立案シ同月末獨逸實業團ノ來奉

ニ際シ極力建設費銀五千萬元ノ借款ヲ申込ミ獨逸實業團ニ

於テモ斡旋ヲ約シテ歸國シタル趣ナル處其ノ後本件借款交渉ハ引續キ非公式ニ進捲シ居ルモノノ如ク右ニ關シ本月一日國民政府鐵道部ハ張學良ニ對シ獨逸實業團ノ滿洲鐵道投資ハ政治的意味ヲ含マサルヤ慎重研究ヲ要スルヲ以テ交通委員會ニ命シ此ノ點充分調查考量セシムル様電報シ來レル趣ナリ

右鐵道敷設計畫ニ關シテハ最近斷片的情報新聞紙上ニ散見スルヲ以テ御參考迄ニ電報ス

一 東北(滿蒙)鐵道懸案關係

奉 天 10月7日後発
本 省 10月7日後着

第四六八號

上海、北平、南京、吉林、哈爾賓へ轉電セリ

44 昭和5年10月9日 在吉林石射總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

吉海・吉長兩線連絡運転開始に伴う奉天クロ

ス問題につき熙省主席代理に抗議について

吉 林 10月9日後発

本 省 10月10日前着

第七七號

貴電第一七號ニ關シ

北平、吉林間列車ハ幾度力運轉開始ヲ傳ヘラレタルモ其ノ都度延期トナリ實施ヲ見サリシヲ以テ前記貴電第三項支那側ヘノ申入ハ海吉、吉長聯絡問題ノ進捲ヲ待ツ事トシ居リタル處(尤モ中川吉長代表ヨリ海吉鐵路局總辨ヘハ七月三十日申入濟ノ由)十月十日双十節ヲ期シ愈運轉開始ノ趣ナルニ付昨八日本官熙省主席代理往訪ノ際奉天ニ於ケル「クロス」問題ヲ説明シ右直通列車ノ強行運轉ニ依リ事態ヲ紛糾セシムル事ナキ様注意方抗議的勸告ヲ爲シタルニ熙ハ右ハ東北交通委員會ノ計畫シタルモノニテ自分ハ與リ知

ラスト答へタルヲ以テ事力省有鐵道タル海吉線ニ關スル以上省政府ニ於テモ當然考慮スヘキ問題ナラスヤト説示シタル處申入ノ趣旨ヲ海吉鐵路當局へ通知スヘキ旨答へタルカ本件ハ東北交通委員會ニ對シ正式申入レ置ク必要アルニ非セヤト思ハル爲念

北平、天津、奉天、長春へ轉電セリ

45 昭和5年10月11日 勅原外務大臣より
在中國矢野公使館書記官、在上海重光總領事、在奉天林總領事、在吉林石射總領事、在ハルビン八木總領事、在青島川越（茂）總領事、在濟南西田（駢一）總領事、在漢口坂根（準）三）總領事、在天津田尻（愛義）總領事代理、在南京上村領事、在長春田代領事各宛（電報）

鉄道運賃差別問題について中央に情報集中と
共に地方に於ける交渉も呼応方訓令

合第四八九號 本省 10月11日後8時10分發

鐵道運賃差別待遇ニ關シ膠濟鐵道方面ニ於ケル近況ハ青島發本大臣宛電報第三九四號及第三九五號並ニ南京發本大臣

46 昭和5年10月14日 在奉天林總領事より
勅原外務大臣宛（電報）
〔「在支代理公使ニ轉報アリ度シ」ト上海總領事宛（電報ニハ附記ノコト）〕

北京・吉林間直通列車運転開始に伴い海吉。

吉長線の連絡につき張學良に申入れについて
奉天 10月14日前發 本省 10月14日後着

第四八一號

貴電第一四五號ニ關シ

十三日張學良ト會見ノ際本月十日ヨリ北京吉林間直通列車ノ運轉ヲ開始セル處海吉線ニ關シテハ豫テ我方ヨリ抗議中ノモノナルニ之ヲ無視シテ他線ト聯絡シ我カ委任經理ノ吉長線ト聯絡セサルハ遺憾ニ堪ヘス就テハ至急滿鐵側ノ要求

ニ應シ聯絡ヲナス様東北交通委員會ニ命令アリタシト説ケル處學良ハ海吉長ノ聯絡ニ應セサルハ滿鐵側ニ非スヤト

反問セルヲ以テ滿鐵側カ既ニ中川代表ヲシテ七月下旬聯絡交渉開始ヲ海吉側へ申込マシメ居レリト答へタルニ學良ハ

兎ニ角當事者ニ問合セタル上再見ノ機會ニ何分ノ回答スヘシト述ヘ更ニ談話ハ延イテ滿鐵トノ關係ニ及ヒ吉敦線ノ建

設費ノ如キ日本ノ恥辱ニアラスヤト思ハルモノアリ支那側ニハ滿鐵ノ遣リ口ニ不満ナルモノ鮮カラスト附言セルヲ以テ不満ト希望ハ兩方ニアルヘク相互ニ商議ノ上不満ヲ去リ幾多懸案ヲ解決スルコソ兩國ノ利益ニシテ東洋平和ノ要諦ナリ而シテ其ノ爲滿鐵ニハ木村理事新任シ近ク來奉スヘキヲ以テ其ノ節充分ニ滿鐵關係諸案件ノ懇談ヲ遂ケラレタシト語リ置ケリ

北平、吉林、長春、上海、南京ニ轉電セリ

宛電報第七三二號ノ通ナル處本件ハ六月二十日附亞一機密合第八三一號ニテモ申進ノ通支那全般ニ亘ル問題ナルニ付貴館管轄方面支那側鐵道ノ狀況御注視ノ上差別待遇ノ実アラハ當方及在支公使ニ電報セラルルト共ニ地方的ニ解決促進ノ方法モアラハ中央ニ於ケル交渉ト呼應スル趣旨ニ於テ可然御努力相成度シ
本電宛先 上海、奉天、吉林、哈爾濱、青島、濟南、漢口各總領事 天津總領事代理、南京、長春各領事、在北平矢野書記官

〔「在支代理公使ニ轉報アリ度シ」ト上海總領事宛（電報ニハ附記ノコト）〕

47 昭和5年10月21日 在奉天林總領事より
勅原外務大臣宛（電報）

鐵道運賃差別に關し九ヶ國條約に違反せず中

央での交渉解決を待つとの王特派交渉員回答

について

機密公第七五三號

昭和五年十月二十一日

在奉天

（11月1日接受）

外務大臣男爵 勅原 喜重郎殿

支那鐵道運賃差別待遇ニ關スル件

本件ニ關シ裏ニ別紙甲公文第二四八號乙公文第二五四號兩號ノ通り王特派員宛抗議シ置キタル處今般別紙丙號ノ通り回答アリタリ右ニ依レハ當方ノ抗議ヲ交通委員會ニ轉報シ同委員會ヨリ鐵道部ニ電請シタル結果一九二二年ノ九ヶ國條約ニ支那政府カ支那全國鐵道ニ差別的待遇ヲ許サストアルハ專ラ外商外貨間ノ關係ヲ指シテ言ヘルモノニシテ華府會議第五次大會ニ於テ施代表カ支那ハ支那鐵道ノ運賃制定ノ權利ヲ有スルコトヲ聲明シ又支那ハ外國商務ノ發展ヲ計

(別紙)

決議

(一) 東支鐵道ノ對滿鐵政策ニ依リ稀有ノ損害ヲ蒙リツツアル
 力其對策
 (二) 新期事業ノ中止ニ依ル在滿邦人ノ窮乏ニ對スル救濟方法
 (三) 逐年增加スル在滿邦人ニ關スル方針
 (四) 昭和製鋼所問題
 (五) 内閣交送毎ニ滿鐵ノ事業方針變動防止方針

(一) 石炭ヲ地元住民ニ高ク輸出先ニ安ク賣ルハ如何
 (二) 東支鐵道ノ對滿鐵政策ニ依リ稀有ノ損害ヲ蒙リツツアル
 力其對策
 (三) 新期事業ノ中止ニ依ル在滿邦人ノ窮乏ニ對スル救濟方法
 (四) 逐年增加スル在滿邦人ニ關スル方針
 (五) 昭和製鋼所問題
 (六) 内閣交送毎ニ滿鐵ノ事業方針變動防止方針

ル爲外國商人及旅客ヲ歡迎シ同一待遇ヲ爲ス旨ヲ述ヘタル
 ニ見ルモ鐵道運賃ニ對スル改訂權ハ支那ニ屬シ外國人ノ干
 涉ヲ許ササルコト明瞭ナルト共ニ國內ノ商務商人及旅客等
 ノ待遇ニ付テハ九ヶ國條約第五條ノ規定ニ包括セラレサル
 コトモ亦明力ナリ曩ニ土貨ニ比シ洋貨ノ運賃高率ナリトテ
 右條約ノ規定ヲ援引シ一再北京外交團ヨリ抗議シ來タリタ
 ルニ對シ交通部ヨリ前記ノ理由ニ依リ之レヲ反駁シタル事
 情モアル處今回ノ貨物運賃分等表ニ關シテハ國貨提倡工商
 業扶植ノ爲ニ工商部制定ニ係ル標準ニ稍修正ヲ加ヘタルモ
 五條規定ノ精神ニモ違反セス本年三月日本公使館ヨリ外交
 部經由本件取扱停止方要求ニ關シ覺書ヲ受ケタルカ右内容
 ハ前回外交團ノ抗議文内容ト同一ナル處日本人ハ此ノ規定
 ヲ利用シテ運賃ノ輕減ヲ計ラムトスルモ國貨ト洋貨トヲ混
 同シテ論スルコト能ハス鐵道部ハ運賃ノ審訂監督及執行ノ
 責任ヲ有シ居レルニ付テハ屢々外交商工兩部ト辦法ヲ會商シ
 斯ノ如キ日本人ノ内政干渉ニ對シテハ斷シテ讓歩シ難ク終
 始一貫原案ヲ維持スヘキ方針ヲ以テ進ミ來レルモ兎ニ角交
 渉ノ結果ハ更ニ電達スル趣鐵道部ヨリ回答ニ接シタルカ本

同シテ論スルコト能ハス鐵道部ハ運賃ノ審訂監督及執行ノ
 責任ヲ有シ居レルニ付テハ屢々外交商工兩部ト辦法ヲ會商シ
 斯ノ如キ日本人ノ内政干渉ニ對シテハ斷シテ讓歩シ難ク終
 始一貫原案ヲ維持スヘキ方針ヲ以テ進ミ來レルモ兎ニ角交
 渉ノ結果ハ更ニ電達スル趣鐵道部ヨリ回答ニ接シタルカ本

ニ見ルモ鐵道運賃ニ對スル改訂權ハ支那ニ屬シ外國人ノ干
 涉ヲ許ササルコト明瞭ナルト共ニ國內ノ商務商人及旅客等
 ノ待遇ニ付テハ九ヶ國條約第五條ノ規定ニ包括セラレサル
 コトモ亦明力ナリ曩ニ土貨ニ比シ洋貨ノ運賃高率ナリトテ
 右條約ノ規定ヲ援引シ一再北京外交團ヨリ抗議シ來タリタ
 ルニ對シ交通部ヨリ前記ノ理由ニ依リ之レヲ反駁シタル事
 情モアル處今回ノ貨物運賃分等表ニ關シテハ國貨提倡工商
 業扶植ノ爲ニ工商部制定ニ係ル標準ニ稍修正ヲ加ヘタルモ
 五條規定ノ精神ニモ違反セス本年三月日本公使館ヨリ外交
 部經由本件取扱停止方要求ニ關シ覺書ヲ受ケタルカ右内容
 ハ前回外交團ノ抗議文内容ト同一ナル處日本人ハ此ノ規定
 ヲ利用シテ運賃ノ輕減ヲ計ラムトスルモ國貨ト洋貨トヲ混
 同シテ論スルコト能ハス鐵道部ハ運賃ノ審訂監督及執行ノ
 責任ヲ有シ居レルニ付テハ屢々外交商工兩部ト辦法ヲ會商シ
 斯ノ如キ日本人ノ内政干渉ニ對シテハ斷シテ讓歩シ難ク終
 始一貫原案ヲ維持スヘキ方針ヲ以テ進ミ來レルモ兎ニ角交
 渉ノ結果ハ更ニ電達スル趣鐵道部ヨリ回答ニ接シタルカ本

件ニ關シテハ日本公使ノ抗議ニ基キ外交工商兩部正ニ辦法
 會商中ニ付靜ニ中央ノ解決ヲ待ツヘク地方的ニ此上交渉ヲ
 ナス必要ヲ認メスト云フニ在リ依テ本官ハ重テ王特派員宛
 折返シ別紙丁號寫ノ通リ抗議シ置キタリ

本信寫送付先 在支公使、北平首席、上海、南京、天津、
 青島、長春、吉林、鄭家屯、

關機高收第二六五四七號ノ二
 昭和五年十月二十一日
 (10月27日接受)

關東廳警務局長
 拓務次官殿
 内閣書記官長殿
 外務次官殿
 在京關東長官殿

滿蒙研究會員ト仙石滿鐵總裁ノ會見狀況

帝國ノ滿蒙開發ニ關シ其最モ重大ノ使命ヲ有スルモノハ南
 滿洲鐵道會社トナス從テ滿鐵總裁ノ地位ハ頗ル重大ニシテ
 滿蒙ノ開發ハ其ノ双肩ニ懸ル仙石總裁ハ七十餘歲ノ老齡ヲ
 提ケ最後ノ奉公ニ任セントスル勇氣ハ在滿同胞ノ齊シク敬
 服スル所ニシテ非常ノ期待ヲ總裁ノ前途ニ囁シ行詰レル滿
 蒙經營ノ打開ヲ望ミ其經綸ノ實現ヲ待ツコト爰ニ一年四月
 ヲ閑セリ然ルニ未タ何等ノ成案ニ接セス何等ノ抱負ヲ聽カ
 ス曩ニ職制ヲ編シ人事ノ淘汰企業ノ縮小ヲ斷行シタルモ素
 ヨリ根本的政策ノ樹立ニアラス株主配當尚高率ヲ維持シ政
 府納付金亦依然タリ世論囂々タル昭和製鋼所ノ如キ其方針
 スラ決定セス對支政策又少シモ進捗セス吾在滿邦人力總裁
 二期待セル處ハ將ニ水泡ニ歸セントス

今ヤ吾國民ノ滿蒙ニ進出シテヨリ二十五年而モ政變每ニ其
 ノ方針變動シテ徹底セス爲ニ經濟的開發ノ根蒂未タ安定セ
 ス既得權益ハ嚴存スルモ徒ニ空文ノ上ニ眠リ邦人ノ生業ハ

急迫ヲ告ケテ現状甚々憂慮ニ堪ヘス之ヲ率ヒ之ヲ導キ依テ以テ國策ノ充實ヲ期スルハ偏ニ滿鐵總裁ノ政策ニ待タサルヘカラス茲ニ吾滿蒙研究會ハ本日第九回定時總會ヲ開催スルニ當リ全會一致ヲ以テ前文ノ如ク決議スル所以ナリ

昭和五年十月十一日

滿蒙研究會

49 昭和5年10月23日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

九カ国条約第五条の規定に差別運賃は該当せずとの中國側回答について

南京 10月23日前發
本省 10月23日後着

第七七〇號

外交部長ヨリ廿一日附重光代理公使宛公文ヲ以テ鐵道運賃差別待遇ニ關スル支那側回答ヲ送附越セル處右ハ大要華府條約第五條ノ規定ハ條約ノ精神、條約締結當時ノ事情及第二回太平洋極東委員會議事錄等ニ徵スルモ全ク門戸開

放及支那ニ於ケル各國間ノ機會均等ノ原則ヲ根據トセルモノニシテ支那鐵道ノ運賃ニ關シ差別待遇ヲナスヲ得ストハ當然外國貨物相互間ニ付云ヘルモノニシテ支那貨物ニ關スルモノニアラスト云フニアリテ大体閣下宛九月六日附機密第六二二號批信ヲ以テ附送セル鐵道部米國人顧問ノ意見書ノ「ライン」ニ從ヘルモノナリ

上海、北平、奉天、青島ニ轉電セリ

50 昭和5年10月24日 在獨國東鄉（茂德）臨時代理大使より
幣原外務大臣宛（電報）

獨國實業團による東北鐵道敷設借款説に關し

ベルリン 10月24日後發
本省 10月25日前着

第一一八號

在支代理公使發閣下宛電報第九九八號ニ關シ外務省東方局東洋主任「フォン、シェイン」ト二十三日會談ノ折夫レトナク確メタル處同主任ハ最近ニ於ケル獨逸實業團代表渡支ノコトハ何等承知セス右ハ恐ラク本年夏渡支

セル實業團ノコトヲ意味スルモノト思考スルカ實ハ獨逸側ノ滿洲投資ノ風評日本聯合通信ニ依リ傳ヘラレタル旨北京ヨリ電報アリタル故早速前記實業團書記長「ストレイベ」ニ付取調ヘタル處支那側ヨリ南滿ノ或ル鐵道線敷設ニ對スル投資ニ付申出アリタルモ何等纏ル所ナカリシトノコトナリシ故自分（「シェイン」）ハ南滿ニ於ケル鐵道ノ地位ヲ説明シスル話合ニ應スルコトハ面白カラスト注意セリト述ヘ更ニ右トハ別問題ナルカ齊齊哈爾—黑河線、呼蘭—海倫線及哈爾賓以東東支線ノ一地點ヨリ「ハバロフスク」方面ニ向フ線ノ三鐵道敷設ニ付豫テヨリ關係アル「チユーリン」洋行ヨリ獨逸ノ一商會ニ對シ右計畫ヘノ參加方ヲ求メ來レルコト最近同商會ヨリノ申出ニ依リ承知セル次第ナルカ右話合ノ成立ハ逆モ困難ナルヘシト思考スルモ此ノ種ノ投資ニ對スル日本側ノ意嚮ヲ承知シタシト考へ居リタル次第ナリト述ヘタル故本件ニ關シ東京ヨリ何等通報訓令ニ接シタルコトナキカ北滿ニ對シテモ日本ハ重大ナル利害ヲ有スルモノニシテ殊ニ鐵道ニ付テハ滿鐵ノ關係モアリ萬一獨逸ニシテ斯ル事業ニ投資スル等多大ノ援助ヲ與フルコトアラハ日獨國交上ニモ甚々面白カラサル結果ヲ來スヘキニ

51 昭和5年10月29日 吉田外務次官より
在大連木村（銳市）滿鐵理事宛（電報）

東北鐵道交渉の滿鐵側方針につき問合せ

本省 10月29日發

第一一九號

滿蒙鐵道ノ現狀ニ關シ最近當地新聞紙上ニ種々外務省及滿鐵ノ怠慢ヲ責ムル論說記事等現ハルニ至レル一方相當眞面目ナル方面ニ於テ滿鐵最高幹部ヲ難スル聲ヲ聞クコト一再ナラス引テ現内閣ノ對滿方針ニ對シ世間ノ批判ヲ生スルノ懸念アリトテ心配スル向モアリ依テ御歸任後ニ於ケル本件交渉ニ關スル御計劃ノ模様小生參考迄ニ電報又ハ書面ニテ御示メシアリ度尙林總領事ハ本月十三日學良ト會見ノ際本件ニ關シ今回貴職御着任ノコトナレハ好ク貴職ト協議ス

ルコト然ルヘキ旨ヲ提言シ居レリ既ニ御及聞ト存スルモ爲念

滿鉄側の差別運賃導入反対は内政干渉に近い

との吉長鉄路局回答について

52 昭和5年10月30日 在長春田代領事より

幣原外務大臣宛

機密公第四八五號

昭和五年十月三十日

（11月5日接受）

在長春

領事 田代 重徳〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

支那鐵道運賃差別對遇ニ關スル件

本件ニ関シテハ當方屢次ノ報告ニ依リ御承知ノ通ナル處今

般吉長鐵路局中川満鐵代表ヨリ入手セル別紙^(參照)満鐵交渉部長宛本月二十五日附書信寫ニ依レバ豫テ全代表ニ於テ本件ニ
関シ吉長鐵路局長經由東北交通委員會並ニ南京鐵道部ニ對
シ反省ヲ促シ來レル處今般吉長鐵路局ハ交通委員會ヨリ南
京政府鐵道部ノ訓令ニ基キ國有鐵路貨物等級運賃ヲ規定ス

ヘシ

本信寫送付先

臨時代理公使、北平、奉天、吉林、天津、青島、上海、南京、鄭家屯

53 昭和5年10月31日 在中國重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長開税自主権回復後の鉄道運賃差別
に反対するも膠濟鐵道でも他の中國鐵道同様
の運賃率導入を主張について

上 海 10月31日後発

本 省 10月31日後着

公第一〇三六號

往電公第一〇二八號書面發送後更ニ廿九日王部長ニ面會シ
鐵道差別運賃ニ關スル貴見ハ承知シ居ルカ前記書面ニモ認
メ置キタル通膠濟鐵路局ハ十一月一日ヨリ差別運賃實施ノ
模様ナル處孫部長トハ本件ニ付話シ置キ吳レタリヤ事ハ急
ヲ要スル次第ナリト述ヘタルニ王部長ハ現在差別運賃ヲ行
ヒ居ラサルハ膠濟鐵道以外ニハ殆ト無ク支那トシテハ右運

ルハ純然タル中國内政問題ニ属シ外人ハ何等干渉ノ余地ナ
ク猶九國條約第五條ニ外國貨物及乗客ハ一律ニ平等對遇ス
云々ト謂フハ外人ト外人トノ間ニ中國鐵路ニ在リテ輸送ス
ルヲ指シテ謂ヘルモノニシテ華府會議ノ際中國代表力極東
委員會及大會々議席上ニ於テ屢々鄭重聲明セル處ニシテ其
ノ意極メテ明瞭ナリ然ルニ吉長鐵路満鐵代表ハ前記條約ニ
藉口シ解釋ヲ附會シ本件運賃ノ勵行ヲ肯セス以テ運賃輕減
ノ目的ヲ達セント欲スルモノ右ハ内政ニ干渉スルモノニ近ク
斷シテ承認シ難キヲ以テ全代表ニ對シ即日實行方轉達スヘ
キ旨ノ指令ニ接シタル趣ニテ中川代表ハ右先方申出ニ対シ
重ネテ反駁的回答ヲ出スヘキヤ又ハ吉長鐵路契約第四条第
三項ニ依リ交通委員會又ハ南京政府鐵道部ハ満鐵會社ト直
接交渉サレ度旨回答スヘキヤニ付交渉部長ニ對シ請訓ヲ發
シタル趣ナリ

追テ交通委員會ノ指令ハ(一)部頒新訂貨物等級表條約違反
ニ非サル理由説明會達移牒(二)民國十二年十二月二十三日
外交部ヨリ首席公使和蘭歐公使送致セル照會寫及(三)華府
會議專門委員顏慶壽報告寫ヨリ成レル処(二)(三)ハ長文ニ付
不取敢(一)寫ノミ送付ス(二)(三)寫御必要ナルニ於テハ追送ス

ヘシ

賃率ハ關稅自主権ヲ得サル以前ノ立場ニテ作製シタルモノ
ナルカ同時ニ華盛頓條約ノ規定ハ支那以外ノ外國品ノ間ニ
於ケル待遇ニ關スルモノナリトノ解釋ヲ執リ居ルコトハ今
日モ變リ無シ唯右條約ノ解釋ハ兎モ角トシ自分ハ關稅自主
權恢復後ハ外國品待遇ハ關稅ニ依リ自由ニ爲シ得ル譯ナレ
ハ一旦輸入サレタル品物ニ對シ内外ノ差別ヲ附スルハ不合
理ナリト思考シ鐵道部ト協議ノ上將來全鐵道ニ對シ斯ル差
別待遇ノ撤廢方ヲ考慮中ニテ右ニ付テハ充分盡力スル積リ
ナリ乍併右協議成立スル迄ハ膠濟鐵道ヲ他ノ鐵道ト同一ニ
スル爲十一月一日ヨリ同様ノ賃率ヲ施行スルコトハ已ムヲ
得サル事情ト思フト述ヘタルヲ以テ本官ハ華盛頓條約ニ關
シテハ日本側ハ支那側ノ解釋ト異ナル意見ヲ有シ居ルカ右
ハ何レニスルモ貴下力差別待遇ヲ不可トスルノ意見ナルニ
於テハ膠濟鐵道ニ付テモ暫ク其ノ實施ヲ延期シ同時ニ他ノ
鐵道ニ付差別待遇ヲ除ク様盡力セラルコト當然ニ非スヤ
又山東方面ニ於テハ日支ノ關係ハ歴史的ニ複雜且ツ緊密ナ
ル處斯ル問題ニテ日本人側ノ惡感情ヲ招クコトハ双方ニト
リ不利益ト思フニ付特ニ御配慮ヲ得度キ次第ナリト述ヘタ
ルニ

王ハ實ハ新運賃率分類（Classification）ハ大体不都合無キ様ナレハ唯内外品ニ對スル差別待遇ノ點ノミヲ取除キ度ク思ヒ居ル處右ハ左程難シカラサルヘン然ルニ一方鐵道部ニ於テハ本件運賃率ノ實施ヲ急務トシ取急キ居リ差別待遇問題ノ爲之ヲ遲ラスコトハ困難トスル處ナレハ右ニ諒解願ヒ度シト述ヘタリ

依テ本官ハ右ハ眞ニ遺憾トスル處ナルカ一体差別待遇ノ撤廢ハ何時頃爲シ得ル見込ナリヤト質問シタルニ王ハ自分ハ

早速之ヲ取計フ意図ナリト答ヘタルニ付然ラハ外交部長力信賴セラレ差支ヘ無キ旨述ヘラレタリト政府及青島ニ報告

シ差支ヘ無キヤト述ヘタル處王ハ無論差支ヘ無ク自分ハ歸京次第鐵道部長ト相談スル積リナリト説明セリ

尙右會談ニ於テ輸入品ニ付關稅ヲ支拂ヒタル後ニ於テ差別待遇ヲ爲スノ不可ナル點ハ王モ充分諒解シ居タルモノノ如キモ更ニ支那内地ニ於ケル外國人經營ノ工場ノ製品ニ對シ

テモ支那品ト區別シ差別待遇ヲナスヘキコトヲ鐵道部ヨリ申出ツルヤモ知レサルカ之モ全ク理由無キコトナリトテ説明ヲ爲シタル處王モ首肯セリ

又膠濟鐵道等ニ本件運賃率實施セラレタル後差別待遇ノ點月中旬愈出馬ノ爲目下態度方針ニ付總裁ニ決裁ヲ得ル標準備中ナリ支那側トノ諒解ノ困難ハ覺悟ノ上ナレトモ内部ノ說得ハ意外ニ骨折レ依然奉天乗込延引セリ御諒解ヲ請フ尙永井次官ニモ御心配ノ點ニ付説明傳書シ置ケリ

55 昭和5年11月5日 在獨國東鄉臨時代理大使より
幣原外務大臣宛（電報）

東北北部の鉄道に係る獨國商會に關し獨国外務省東方局長などとの會談報告

ベルリン 11月5日後着 本省 11月6日前着

第一二二號 往電第一一八號ニ關シ

十一月三日東方局長「トラウトマン」ト會談ノ際「チユウリン」洋行申入レノ詳細ニ付問ヒ質シタル處同席ノ同局支那主任「ミヘルゼン」ヨリ内密トシテ本件關係ノ獨逸商會ハ「ホルツマン」商會ニシテ「チ」洋行ノ申込ハ北滿三鐵道（右線路ハ前顯電報所載「シェイン」ノ述ヘタル處トハ稍異リ齊齊哈爾ヨリ「ブラゴベスチソスク」哈爾賓ヨリ東

ノミヲ除カシムルコトハ從來ノ上村領事ノ報告等ヨリ見ルモ相當困難ナルヘク王ハ辭柄ヲ設ケテ既成事實ヲ作ラムトスルニ非スマトノ疑ヒ多分ニアリタルニ付此ノ點ヲ追及シ見タルカ王ハ明白ニ前記ノ通答ヘタル次第ナルヲ以テ右言質ヲ利用シ將來共之ヲ追及シテ目的達成ニ努ムルヨリ外途ナシト思考ス

北平、奉天、青島、濟南へ轉電シ南京へ暗送セリ

奉天ヨリ吉林、長春ヘ、北平ヨリ、天津へ暗送アリ度シ

54 昭和5年10月31日 在大連木村滿鐵理事より
吉田外務次官宛（電報）

東北鐵道交渉に對する滿鐵側方針につき總裁

決裁準備中の旨回答

大連 本省 10月31日着 発第^(ママ)號

廿九日附貴電ニ關シ

歸連以來小生奉天乘込ニ付各方面ト聯絡手配最中ナリ林總領事ヨリ十一月十日以後然ルヘシトノ注意モアリ兎ニ角來

北ニ向フモノ及吉林ヨリ「ハバロフスク」ニ向フモノナリト言ヘリ）敷設ニ要スル額ハ六千萬金弗ニシテ内六割ハ建設四割ハ材料供給ニ充ツヘク「ホ」商會ハ右材料供給ニ對シ獨逸政府ノ輸出保證ヲ求メタルモノナリト説明シ「ト」ハ右ハ單ニ工事請負及物資供給契約ニシテ長期ニ亘リ投資ヲ爲ス考ナク又何等政治的意義ヲ包藏スルモノニアラス現在ノ獨逸トシテハ賠償支拂ノ關係等ヨリ此ノ種ノ仕事ヲモ必要トル儀ナルモ若シ日本政府ニシテ政治上等ノ理由ヨリ北滿ニ於テモ外資ニ依ル此ノ種事業ヲ好マシカラスト思考セラルルニ於テハ其ノ意ニ副ヒタキ次第ニテ在本邦獨逸代理大使ヲシテ貴方御意向聽取方取計ヒ濟ナルモ

本官ヨリモ右様速ニ取計ハレ得レハ仕合セナリト述ヘタルニヨリ本官ハ一應ノ私見トシテ前顯往電「シェーン」ニ述ヘタル趣旨ヲ反覆スルト共ニ北滿ニ於ケル鐵道關係ノ複雜シ居ル事情並ニ本件ハ單ナル事業トスルモ多大ノ「リスク」アルヘキ事ヲ述ヘ引續キ推問ノ結果「チエ」洋行ト支那側トノ折衝ノ程度ニ付テハ未タニ不明ナルモ或ル程度ノ交渉アリタルモノト推測シ居ル旨「ホ」商會ハ場合ニ依リテハ和蘭或ハ佛國ノ資本ヲモ利用セントスル心組アリテ既ニ當

國經濟省ニ對シ本件鐵道材料供給ニ對スル保證許可方ヲ申請セルモ獨逸政府ニ於テ保證ヲ許可セサル限り同商會ハ本件契約ニ應セサルヘシ（ト）思考スル旨並ニ同省ニテハ右

許可ニ付余リ氣乗シ居ラサル事判明セリ

事態斯ノ如クニシテ此ノ儘ニ放置スルモノ契約成立ノ見込覺束ナシトモ思考セラルモ一方當國ノ一部ニハ本事業ニ付相當ノ興味ヲ有スルモノアルカ如キ印象ヲ得タルノミナラス「ホ」商會力當國土木界ニ重キヲナシ外國ニ於ケル土木事業ニモ經驗ヲ有スルニ顧ミ支那側及「チエ」洋行ノ出方如何ニ依テハ交渉ノ進捗ヲ見ストモ限ラレサルニ依リ寧口早キニ於テ獨逸政府ヲシテ右保證不許可ノ方針ニ出テシムル等交渉ヲ阻止スル事然ルヘシト存ス

尙先方ト應酬ノ都合モアルニ付本件ニ對スル御意図御電示相願度シ

56 昭和5年11月5日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

全國鐵道運賃會議で内外差別撤廃の見込みと
の陳鐵道部總務司長内話について

東北交通委員会による滿鉄の動向監視通達に
ついて
機密第四五〇號
(11月17日接受)

昭和五年十一月十日
在鐵嶺

領事館事務代理 石塚 邦器〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東北交通委員會ノ滿鐵監視方ニ關スル件

開原居住有力華商ノ語ル處ニ據レハ開原縣石家臺（當附屬地隣接地）開豐汽車公司ニ於テハ數日前東北交通委員會ヨリ大要左ノ如キ通達ニ接シタル趣ナルニ付何等御参考迄ニ

報告ス

記

具シ日露戰爭ニ於テ血肉ヲ以テ得タル路權確保ニ努ムヘシト迫リ居ル狀態ニシテ滿鐵當局ハ現ニ我各鐵道ニ係員ヲ密派シ我鐵道ノ運輸狀況並ニ運賃率等ヲ詳細調査セシメ而シテ該鐵道運賃ノ引下ヲ爲スカ或ハ運賃ニ特殊ノ會社票ヲ出スカ又ハ鈔票ヲ利用スルカ等對我鐵道競爭策ニ就キ密議ヲ重ねツツアル狀態ナリ故ニ我國有民有各鐵道當局ハ此際熱心路務ニ從事シ必勝ヲ期シテ滿鐵ニ對抗スルト共ニ一面從事員ハ路政ノ秘密ヲ嚴守シ細事ナリトモ之ヲ洩スカ如キコトアルヘカラス而シテ各路當局ハ日本人ノ乗降客ニ細密ノ注意ヲ拂ヒ特ニ滿鐵關係ノ來往者ニ對シテハ其ノ行動ヲ監視シ細大洩ナク報告スヘシ

本信寫送附先 奉天總領事

滿鐵會社ニ於テハ該鐵道ノ前途ハ苦境ニ瀕シ對滿經濟政策ノ日ニ衰退スルヲ深慮シツツアリ即我國ノ瀋海、打通ノ各鐵道ヲ始メ鐵道網ノ積極計畫ハ滿鐵ト運輸ノ競争ヲ招來スルノミナラス金價ノ昂騰ハ我ニ必勝ノ權ヲ與ヘテ貨客運輸ノ激増スルニ反シ滿鐵線ノ打撃ハ當事者ヲシテ焦慮ノ極ニ導キ一方滿洲在住日本人ハ滿鐵ニ對シ此憂慮スヘキ狀態ヲ

請セルモ獨逸政府ニ於テ保證ヲ許可セサル限リ同商會ハ本件契約ニ應セサルヘシ（ト）思考スル旨並ニ同省ニテハ右

許可ニ付余リ氣乗シ居ラサル事判明セリ

第七九七號

上海發閣下宛電報公第一〇三六號ニ關シ

五日鐵道部陳司長ハ本官ニ對シ自分ノ努力ニモ拘ラス膠濟線ニ於テ新運賃率ヲ實施スルニ至レルハ貴官ニ對シテ申譯ナキ次第ナルカ來月中旬ニハ南京ニ於テ全國鐵道運賃會議開催ノ豫定ニテ鐵道部ニ於テハ目下現行運賃率全般ニ亘ル改正運賃ヲ研究シツツアルニ付此ノ機會ニ於テ内外貨物ニ對スル差別規定ヲ撤廃スル様内部ニ於テ努力シ居リ既ニ大體成功ノ見込着キタル旨内話セルニ依リ本官ハ從來陳司長其ノ他ノ本官ニ與ヘタル言質等ヲ述ヘテ先方ノ責任ヲ充分自覺セシムルト共ニ王部長ノ重光代理公使ニ對スル言明ノ次第ヲモヨク説明シ此ノ上トモ最善ノ努力ヲ盡サレタキ旨述ヘ置キタリ爲念

上海、北平、奉天、青島、天津へ轉電セリ

57 昭和5年11月10日 在鐵嶺石塚（邦器）領事館事務代理より
幣原外務大臣宛

南京 11月5日後発
本省 11月6日前着

第六二號（極秘級）

貴電第一二二號ニ関シ

(欄外記入一) 满洲ニ於ケル鉄道問題ニ付テハ日支両鉄道共榮ノ根本義ニ立脚シテ當面ノ對抗的状勢ヲ打破シ適當ノ調整ヲ図ラムト企団シツツアル次第ニテ右対策ノ詳細ニ付テハ不日貴方ニ通報ノ手筈ナル處貴電計畫線中(一)吉林ヨリ哈府ニ向フモノハ吉海、奉海、京奉等既成線ト連絡シ(二)齊々哈爾ヨリ「ブラゴエ」ニ向フモノハ洮昂、四洮、打通、京奉等既成線ト連絡シ夫々滿鉄ノ東西ニ於テ競争線ヲ形成シ之ヲ包囲スルノ結果トナルヘク(三)哈爾賓ヨリ東北ニ向フモノ亦連絡狀況如何ニ依リテハ右等競争線ヲ更ニ有力ナラシムルモノト想像セラル次第ニテ前記善後策緒ニ就クニ先チ本件諸線ノ計画促進セラル事ハ滿鉄ノ將來ニ取り極メテ重大ナルヲ以テ此ノ機會ヲ利用シ滿州ニ於ケル鉄道問題ニ対スル我方ノ立場ヲ明ニシ置クコト可然ト思考スルニハ就テハ此際貴官ヨリ左記ノ趣旨ヲ独逸政府當局ニ御申入アリ度在京同國代表者ヨリハ未タ何等申出無キモ申出アリタル節ハ同様ノ趣旨ニテ應酬ノ所存ナリ

満洲ニ於ケル鉄道問題ニ關シ独逸政府カ帝國政府ノ意向ヲ尊重セラレムトスル好意ハ感謝ニ堪ヘス元来我對滿方針ハ
本電趣旨ハ四局二部長會議ニ於テ披露シ且拓務省へ写送付ス
ミズ(五、十二、一)

(五、十二、一)

昭和5年11月21日 吉田外務次官より
在大連木村滿鉄理事宛(電報)

張學良帰奉の機に鉄道交渉開始について

本省 11月21日発

第(マニ) 號(極秘)

二十日附貴電ニ關シ同日往電ノ通張學良ハ二十二日南京致歸奉ノ趣ナルニ就テハ當方トシテハ學良歸奉早々ノ機會ヲ捕へ鐵道交渉開談スルコト最機宜ニ適スト思考ス十九日往電ノ趣旨ニテ免モ角クモ一應此際ニ於テ開談セラル様致度右命ニ依リ申進スル次第ナリ

鉄道交渉に対する満鉄の方針につき總裁より異議あり事情上京の上説明について

60 昭和5年11月22日 木村滿鉄理事より
吉田外務次官宛(電報)

鉄道交渉に対する満鉄の方針につき總裁より

一 東北(満蒙)鉄道懸案關係

從來屢々表明セル通り何等門戸開放機會均等ノ主義ニ違反

セントスルモノニ非ス同地ノ經濟的開發ハ大ニ歡迎スル所ナルカ一方我方ニ於テ重要ナル國家の利害ニ關係アル滿鉄ヲ包囲孤立ニ陥ラシムル如キ支那側鐵道計劃ハ之ヲ默視シ得ルモノニ非ス尤モ支那側ニシテ滿鉄ノ死命ヲ制スル力如キ極端ナル方策ヲ執ラサル限り同鐵道ヲシテ支那側諸鐵道ト連絡協調シテ兩者ノ共存共榮ヲ図ラシメ又列國ト共ニ支那側鐵道計劃ノ促進ニ協力スルノ用意アルモノナリ問題ノ鐵道計劃力果シテ如何ナル意圖ニ出ルモノナリヤ之ヲ知ルニ由ナキモ少クトモ滿鉄ニ對シ前述ノ如キ至大ノ打擊ヲ与フヘキ諸線ノ延長若クハ之ヲ有力ナラシムルノ目的ニ出テ居ルカ如キ觀無クンハアラス從テ今日ノ事態ニ於テ是等諸線ノ促進ヲ見シカ我國輿論ノ沸騰ハ之ヲ豫知スルニ難カラス
關係貴電ト共ニ英米佛伊白露ヘ轉電在京各公使ニ暗送シ米ヲシテ加奈陀、紐育、桑港、シカゴヘ暗送セシメラレタシ

(欄外記入二)
満鉄支社ラシテ木村氏ニ転報セシムルコト取計済

満鉄構内 11月22日前發
本省 11月22日後着

21日附貴電拜誦谷局長宛會社ノ根本方針案ニ付仙石總裁出發前日俄ニ異議ヲ述ヘ此ノ儘小職右方針案ヲ帶シテ交渉シ得サル立場ニ在リ同僚モ今一應總裁ト諒解ヲ遂クル様勸告シ居リ旁々至急上京ヲ要スル次第ナリ右經緯ニ付テハ面談ノ外説明ノ途ナシ免ニ角上京總裁ト懇談ノ後奉天ニ向フヘシ右ノ事情御含ミノ上大臣ニ今暫ク猶豫方御懇談ヲ請

61 昭和5年11月25日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

鉄道借款・債務整理問題などに關する旨意見具申
よる調査活動には注意を要する旨意見具申

上海 11月25日後發
本省 11月25日後着

大臣發在奉天總領事宛電報第一六三號ニ關シ
満洲ニ於ケル滿鐵關係ノ鐵道借款ヲ債務整理ノ問題ト共ニ

處理スヘシトノ往電公第一〇八三號及公第一〇九二號ノ情報ニ關聯シ木村理事ヨリ當地滿鐵事務所長ニ對シ支那ノ内情ヲ充分調査方訓令越セリトテ石本事務所長ヨリ意見ヲ訊ネラレタルヲ以テ本官ハ情報蒐集ノ爲餘リニ廣ク手ヲ廻シ却テ問題ヲ惡化セシムル力如キコト無キ様注意シ置ケリ然ルニ廿四日橋三郎來訪近日南京ニ赴キ本件ニ關シ王家楨如何ナル程度迄考ヘ居ルヤ直接訊、見ルヘントノコトナリシカハ本官ハ之ニ對シテ左ノ通注意ヲ與ヘ置キタリ張學良ハ南京到着以來非常ナル歡待ヲ受ケ如何ナル會合ニモ引出サレ十四日ノ外交團歡迎會モ實ハ張ノ歡迎會ニ外交團力便乗シタル形ニシテ債務整理會議ノ午餐會ニモ外國公使ヨリ上席ニ据エラレタル狀態ナリ中國側債務整理委員會合ノ場合ニモ張ハ委員トシテ出席シタルカ其ノ際意見ヲ問ハレタルモノト見工滿洲ニ於テモ日本債務ヲ整理スル要アリト述ヘタルモノノ如シ

而シテ本件鐵道債務問題ハ曩ニ王家楨カ本官ニ依頼シタル處ニシテ又王自身カ仙石總裁ニモ話シタリトノコトナリ（往電公第九三〇號）若シ此ノ際日本側ニ於テ債務整理ト滿洲日本借款トノ關係ニ付テ支那側ニ對シ餘リニ探索ヲ試

昭和五年十一月二十九日

在吉林

總領事 石射 猪太郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
吉林城内滿鐵公所ノ商埠地へ撤退方

支那側申出ニ關スル件

本件ニ關シテハ本年七月十二日付機密公第五一四號拙信具報ノ次第アル處其後長岡副領事ヲシテ外交部特派員吉林分處施主任ニ對シ

一、右照會文中ニ城内ヲ指スニ「内地」ナル文字ヲ用イ居ルコトハ普通ノ觀念上甚^タ滑稽ナリ
(右ニ對シ施主任ハ「内地」トハ開放地以外ヲ指スト

辯明セリ)

二、城内モ亦開放地域ニ屬スルコトハ我方從來ノ主張ニ依リ問題ナク邦人ノ居住營業自由ナリ

三、平素日本側ニ多大ノ好意ヲ有スト認メラレ居ル張作相氏ヲ首腦者トスル省政府側ト滿鐵トノ交誼ハ本件支那側要求ニ依リ甚シク傷クルニ至ルヘシ

四、牽累ヲ被ルコト必然ナル胡宗瀛ノ迷惑多大ナルヘシ

ムルニ於テハ却テ支那側ニ智恵ヲ付ケルニ等シク先方ヨリ逆用セラル虞アリ依テ王家楨等ニ對シ餘リ突ツクコトヲ爲サス寧ロ他日本問題ニ關シ滿鐵ト東三省トノ間ニ直接交渉ヲ開始スル様仕向ケ成ルヘク債務整理問題ヨリ本件ヲ遠去カラシムルコト宜シカラム滿鐵方面ノ方針定マルニ於テハ本官ノ曩ニ王家楨ヨリ依頼セラレタル次第モアリ王ト面會ノ際滿鐵側ニ於テハ滿洲鐵道借款ニ關シ充分支那側ノ立場ヲ考慮スル意図ナルヲ以テ奉天ニ於テ滿鐵ト交渉スルコト然ルヘシト申シテモ差支無シト思ヒ居レリ云々

滿鐵ノ情報機關ハ新聞通信員等トモ密接ノ聯絡アリ情報ヲ餘リニ探查スルトキハ此ノ問題モ無益ニ世間ニ波瀾ヲ起スコトトナルヘク爲念右御参考迄

北平、奉天へ轉電シ上海、南京へ暗送セリ

62 昭和5年11月29日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛

吉林城内滿鐵公所商埠地撤退方申し入れに對する我が方応酬振りについて

機密公第八二三號
(12月8日接受)

(當時偶然他用ヲ以テ現住地天津ヨリ來吉シタル胡ハ當館ニ於テ自己ノ賣却シタル土地家屋ノ問題トナリ居

ルコトヲ知リ逮捕セラル虞アリトテ惶惶トシテ引揚ケタルカ其實際施履本トハ相識ノ間柄ナリト語リ居リタリ)

ノ四點ヲ舉ケ支那側カ右滿鐵公所^(撤退)申出ニ當リ其成否乃至利害得失ニ關シ充分ナル考慮ヲ遂ケ居リ飽ク迄モ右申出ヲ固持シ日本側ト争ハントスル意思ナルニ於テハ全ク別問題ナルモ然ラサル限り此際右照會文ヲ^(撤退)無用ナル交渉案件ヲ製造スルノ愚ヲ罷メテハ如何ト懇談セシメタル處施主任ハ本件カ右ノ如キ相當重大ナル影響アルモノトハ思惟シ居ラサリシヤノ面持ニテ

該地所家屋ノ問題トナリタルハ從來何等ノ稅金ヲモ納入

セサリシ爲財政廳邊ニテ目ヲ着ケ出シタルニ始マルモノト承知シ居レリ何レ篤ト相談シ置クヘシ

答ヘタル趣ニテ爾後其儘ニ打チ過キ來リタル力最近更ニ長岡副領事ヲシテ施主任ニ確カメシメタル所ニ據レハ支那側ニテハ今後モ別段當方ノ答覆ヲ督促セス放任シ置ク積リナリトノコトニテ本件ハ當分再ヒ問題トセラルコトナキ

模様ナリ

尙前顯拙信第五項ニ申述ヘアル通り本件ニ依リ滿鐵公所ノ機能發揮ニ何等障害ヲ生スルニ至ルコトナキヤニ本官ノ最憂慮スル所ナリシカ前陳ノ如キ經緯ニテ一應問題ノ表面化ヲ避ケ得タル一方公所ト支那官憲側トノ來往モ從來通りニシテ別段惡化セル模様ナシ

右報告ス

本信寫送附先 在上海臨時代理公使

南京 奉天 哈爾賓 長春

關東長官

63 昭和5年11月30日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）63 昭和5年11月30日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

北寧鐵路機關車設備短期公債條例の立法院通

過について

南京 11月30日後発
本省 11月30日後着

第八八一號

立法院ハ廿九日北寧鐵路機關車設備短期公債條例ヲ通過セ

第五七四號

64 昭和5年12月2日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

密電情報

張學良と孫科協議の上東北鐵道網に関する計画書作成との学良より張作相宛電報について

奉天 12月2日後発
本省 12月2日後着

廿一日附張作相宛張學良ノ電報ニ依レハ學良ハ二十日孔祥熙ヲ同伴孫科ヲ往訪シ東北鐵道網完成ノ爲外資ヲ用ヒ斯鐵道公債八千萬元發行方ヲ協議シタルニ孫科ハ之ニ贊成シ交通委員會ニテ具體的計畫書ヲ作成シタル上鐵道部ニ於テ審

査スルコトトナリタル趣ナリ

代理公使ヘ上海ヨリ暗送ヲ請フ

上海、北平、南京へ轉電セリ

65 昭和5年12月3日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

政治會議列席の張學良と鐵道問題など東三省における協調につき会談について

南京 12月3日後発
本省 12月3日後着

公第一一五二號

(1) 蔣介石ハ二日朝上海ヨリ歸來今日午後政治會議ヲ開キテ第

四次全體會議ノ決議ノ實行方ニ付テ決定ラナセリ張學良モ

右ニ列席ノ爲今尚引續キ滯京中ニテ（尤王家楨ノ談ニ依レ

ハ隨員等ハ廿九日引揚ノ積ニテ全部荷物ヲ發送シ困リ居ル

次第二テ三日ニハ學良モ出發ノ筈ナリト）本官前回當地滯

在中ニハ學良トハ宴席等ニテ兩三回會合ノ機アリタルモ閑

談ノ暇ナカリシニ付二日上村領事帶同副司令ヲ往訪シタリ

右會談ニ於テハ彼ト日本側トノ感情ノ融和ヲ計ル趣旨ニテ

ルカ右公債ハ總額五百萬元（内第一回發行百八十萬元ハ十五ヶ月第二回發行三百二十萬元ハ廿四ヶ月間ニ各償還ス）月利八厘ニシテ專ラ同鐵道機關車ノ購入費ニ充當シ新ニ購入スヘキ機關車ヲ擔保トスルモノナリ委細公信上海ヨリ公使ヘ略送アリタシ

北平、上海、奉天、天津へ轉電セリ

分日本ノ利益ヲ尊重スル積リナリトノ挨拶ヲ爲シ居タリ

以上ハ王家楨通譯セリ尙當日ハ學銘ニモ邂逅セリ右會談ノ終リニ於テ蔣介石來訪セル模様ナリ

奉天、吉林、間島、青島、天津、北平へ轉電シ上海、南京

ヘ暗送セリ

機密第三五一號

昭和五年十二月三日

在鐵嶺

領事館事務代理 石塚 邦器

在奉天

總領事 林 久治郎 殿

滿鐵附屬地境界問題二關スル件

66 昭和5年12月3日 在鐵嶺石塚領事館事務代理より

幣原外務大臣宛

本件ニ關シ十一月十日附合機密領第二四八號貴信ヲ以テ御

照會ノ次第敬承、委細別紙ノ通回答申進ス

本信寫送附先 外務大臣

機密第五二一號 昭和五年十二月三日

(12月8日接受)

在鐵嶺

領事館事務代理 石塚 邦器 「印」

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

昭和五年十二月三日附 奉天總領事宛機密

第三五一號寫送付

件名

一、滿鐵附屬地境界問題ニ關スル件

(別紙)

滿鐵附屬地境界問題

一附屬地境界ニ關スル係爭ノ經緯又ハ紛議ヲ生スヘキ理由
鐵道關係ノ土地ハ元來舊露國政府ヨリ滿鐵會社力繼承シ
タルモノナルコトハ言ヲ俟タサル次第ナル處之ニ關シ支
那側ヲシテ首肯セシムルニ足ル書類又ハ證憑往々ニシテ
缺如スルモノアリ又滿鐵力境界標石トシテ建設シタル者
モ舊露國ヨリ繼承當時ニ設立シタルモノニアラス大正五

六年頃ノ實測ニ基キタルモノニテ支那側ニ於テハ之ヲ承
認セス且滿鐵ハ多年自己所屬ノ土地ノ管理ヲ等閑ニ附シ
支那官憲ノ課稅、農民ノ耕作等ニ對シテモ之ヲ阻止セス
シテ放任シ置キタル關係上目下係爭地トナレル土地ハ支
那官憲ノ行政下ニ在リ又耕地家屋等モ支那人間ニ相互賣
買セラレ現占有者ハ前占有者ヨリノ賣買契約書ニ據リテ
其私有權ヲ主張スル等ノ狀態ヲ馴致シ中國側ハ是ノ因襲
的占有ノ事實ニ基キテ滿鐵側ノ主張ヲ認メサル情勢ニ在
リ加フルニ目下利權回收ニ汲タル中國側ノ態度ヨリ察
スルモ本件解決ハ益々其困難ノ度ヲ加ヘツツアリ要之紛
議ヲ生スヘキ理由ノ第一因ハ滿鐵側ノ土地管理怠慢ニ起
因シ第二因トシテ該土地管理怠慢ニ乘シ中國農民力多年
ノ占有ニヨリ中國官憲ノ援助ヲ得テ滿鐵ノ管理權ヲ承認
セサルニ在リ

二係争中ノ境界ノ現状

(イ)後八里庄（附屬地南邊）問題

大正十四年六月當地滿鐵地方事務所ハ附屬地南邊八里
庄地方ニ從來恰モ境界ノ如ク認メラレタル舊排水溝ヲ
越エテ境界石（本境界石ハ中國側ノ抗議スル所ニ依レ

ハ他ノ境界石ノ如ク一見古カラスト言フモ滿鐵側ハ右
ハ大正五六年頃附屬地周圍ノ他ノ境界石ト同時ニ測量
ノ結果建設シタルモノナリト謂フ）ヲ標準トスル境界
線上ヨリ一米内側ニ新排水溝ヲ築造セリ是力爲舊溝
(舊溝ハ境界線ヨリ五米乃至二米半内側ニ在リ)外側
ニ於テ耕作ニ從事セル中國農民ノ耕作地ヲ侵害スルコ
トトナリ日支間ニ交渉事件ヲ惹起シタルカ滿鐵側ハ新
溝ハ境界線内側ニ築造シタルモノナレハ非ハ反テ從來
附屬地ヲ無斷使用セル中國農民側ニ在リト主張シ工事
ヲ續行完成シタリ然レトモ滿鐵側ニテハ主張ハ主張ト
シ從前通り中國農民ニ新溝内ニアル耕地ヲ無償ニテ使
用セシムルコトニ讓歩シ以テ現在ニ及ベリ

(ロ)北五條通（東邊境界）問題

前記(イ)ト同年附屬地東端ニ在ル境界標石ヲ基準トシテ
新ニ排水溝工事ニ着手シタルカ此地ニモ亦境界石標ヨ
リ内側ニ小溝アリ一見境界線ヲ形成スル如ク見受ラレ
小溝ノ外側ニハ十數個ノ支那民家アリ、從テ新溝ノ開
堀^(堀)ニ當リ前記同様中國側ノ抗議ニ遭ヒ同工事ヲ中止シ
今日ニ至レルカ滿鐵側ハ將來舊小溝ヲ廢シ境界線ニヨ

リ排水溝及道路ヲ築造スル豫定ナレハ本計畫遂行ニ當

リテハ相當紛糾ヲ免レサルヘシ

(ハ)馬蜂溝沿岸用地問題

附屬地西邊ヨリ更ニ遼河ニ達スル地域ハ舊露西亞帝政時代東支鐵道力遼河ノ水運ニ依ル出入貨物ヲ鐵嶺ニ吸收スル爲メ短距離鐵道支線ヲ敷設スル目的ヲ以テ光緒二十八年十月中國人石立基ヨリ買收ン滿鐵ニ於テ之ヲ繼承シタルモノトス、然ルニ其後鐵道ノ發達ニ連レ遼河ノ水運ハ其價值ヲ滅失シ問題ノ地點タル馬蜂溝ハ一小村落ト化シタルヲ以テ滿鐵ハ同地ヲ邦人竹中某ニ貸下ケ竹中ハ更ニ之ヲ中國農民ニ轉租シ來リタルカ其後遼河ノ水流ハ西方ニ遷移シタル結果滿鐵カ竹中ニ貸付ケタル地域以上ニ數萬坪ノ浮剩地ヲ生スルニ至リ中國農民ハ此ノ浮剩地ノ所有權ノ歸屬不明ナルニ乘シ同地ニ耕作ヲ爲シ來レリ、元來竹中ハ新臺子ニ居住シ現地ニハ一同モ足ヲ踏入ルルコトナク單ニ滿鐵ト支那人ノ間ニ介在シ地代ト小作料ノ差額ヲ着服シタルニ過キス滿鐵亦自己ノ所有地力如何ニ處分セラレツツアルヤラ顧念セス

四境界問題ニ對スル我方ノ對策

埋造セルモノナレハ之ヲ正當ナルモノトシテ認ムルヲ得ス北五條通り境界問題ニ關シテハ同地點ハ露國ニ讓渡セシ土地ニ非スシテ現ニ民地トシテ中國側ノ公款處ニ登錄セラレアリ且地稅ヲモ徵收シ居レルヲ以テ滿鐵側ノ要求ニ應シ難ク東北端ノ標石ハ爾來排水溝西側ニ在リシモノヲ滿鐵ニテ妄ニ現在地ニ移設セルモノナリト主張スマ峰溝沿岸用地問題ニ關シテハ滿鐵側ハ該浮剩地ハ添付地トシテ當然附屬地ニ編入セラルヘキモノト主張スルニ對シ中國側ハ該用地ハ馬峰溝舊河流迄ハ鐵道用地トシテ認ムルモ河流西遷後ニ生シタル土地ハ當然中國ノ國土タルヘシト主張ス

當面ノ對策トシテハ（第一）馬峰溝沿岸用地ハ遼陽工兵隊移駐說ト關聯シテ極力之ヲ我方ニ有利ナル様解決シタキ所存ナル處此點ニ關シ前述ノ如ク東支鐵道ヨリノ引繼書類ニハ限界ニ關シ聊カ不備ナル點アリ（第二）馬峰溝街道鐵道用地ノ住民立退方ニ關シテハ極力滿鐵側ヲ支持スヘク（第三）後八里庄問題ニ於ケル耕作地ノ取上（第四）北五條通問題ニ於ケル中國人民家ノ取拂ニ關シテハ

(二)馬蜂溝街道土地問題

本件ニ關シテハ本年十月十五日附機密第二七〇號「鐵道附屬地境界問題ニ關スル件」（大臣宛機密第三八七號）拙信ヲ以テ申進メ置キタル處鐵嶺驛北方鐵嶺西關ヨリ馬蜂溝ニ至ル滿鐵用地内ニ大正十二年頃ヨリ支那人力無斷ニテ家屋ヲ建設シ商賣ヲ營ミ居レリ當時滿鐵側ニテモ該土地カ差當リ必要ナカリシ爲之ヲ默過シ居リタル處其後鐵道工事ノ關係上同地ヲ土取場トシテ使用スル必要ヲ生シタル爲同地居住者ニ立退ヲ要求セリ是カ爲メ日支間ニ種々交渉ヲ生シタルカ何等徹底的解決ヲ見ス結局滿鐵側ニテハ同地居住者ヨリ貸付料金ヲ徵收シ向フ一ヶ年間（昭和六年舊曆八月十五日限り）ノ猶豫ヲ與フルコトトシ居住者ヨリ右ニ關スル證書ヲ取付ケタルカ時恰モ中國側縣長ノ更迭アリ旁々本件ハ今ノ處滿鐵側ノ希望通リニ進行シ居ルモ圓滿解決ニ至ル迄ニハ相當ノ波瀾ヲ免レサルヘシト思料セラル

三係争中ノ境界ニ關スル民國側ノ主張

前記各項境界問題中附屬地南邊後八里庄ニ關シテハ中國側ハ該標石力他ノ標石ヨリ新シキモノトシ滿鐵カ勝手ニ

滿鐵ニ於テ多少ノ涙金ヲ釀出シ以テ土民ヲ慰撫スルカ解決ヲ促進スルノ一策ナリト信ス

之ヲ要スルニ中國官民間ニ國權擁護、利權回収ノ氣運横溢スル現狀ニ在リテ滿洲ニ於ケル中國出先官憲ハ一方奉天中央政府ノ鼻息ヲ伺フニ汲々タルト他方外交協會ノ糾彈ヲ恐レ若シ一步ヲ讓ラハ彼等ノ死活ニ直面スルヲ以テ境界問題ニ關スル交渉事件ノ如キ我方ノ主張ニ對シ殊更ニ反噬的態度ニ出ツル狀態ナルカ故ニ之ヲ一地方的ニ解決セムトスルハ蓋シ百年ノ河清ヲ俟ツニ等シク、今當館ノ事例ニ徵スルモ從來領事ヲ更フル毎ニ交渉ヲ新ニシタルカ係争ハ依然トシテ解決ヲ見ス、仍テ小官トシテハ沿線各地ノ境界問題ヲ一括シテ之ヲ奉天政府對貴總領事滿鐵本_{〔半分アキ〕}社間ノ商議ニ移シ各他ニ於ケル係争地ノ輕重性ヲ考量シ大所高所ヨリ俯瞰シテ一地方ニ於ケル讓歩ハ他地方ニ於テ之ヲ補填シ以テ一刀兩斷的ニ解決スルヲ得策ナリト思考ス

追テ本件附屬地圖面ハ滿鐵ヨリ入手次第送付スヘシ



67 昭和5年12月3日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛

中国側鉄道の対満鉄対抗策による長春駅営業

減収状況につき報告

機密公第五六一號

昭和五年十二月三日

(12月9日接受)

在長春

領事 田代 重徳〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

滿鐵長春驛營業狀態ニ關スル件

近來銀價暴落ニ依リ中國鐵道利用者增加ノ機會ニ中國側鐵道力満鐵線ニ對抗スヘク凡有手段ヲ盡シ貨客吸收ニ努メツツアル次第ハ當館屢次ノ報告ニ依リ御承知ノ通ナル處最近滿鐵並行線タル吉海、瀋海兩鐵路ハ満鐵線ニ比シ運賃割安ナルニ加ヘ更ニ特別割引ヲナシ吉林方面ノ木材其他貨客ノ吸收ヲ計リツツアリタルカ特產出廻期ニ入ルヤ特產物ニ對シ約二割ノ秘密割引ヲ行ヒ満鐵カ吉林附近並ニ吉海瀋海線ノ東部方面及満鐵背後地一帶ニ於テ馬車貨並ニ運賃ノ特別割引ヲ爲シツツアルヲ知ルヤ中國側ハ之ニ對抗シ百ボンド

公第一一九〇號（極秘）

68 昭和5年12月8日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）上海 12月8日後発
本省 12月8日後着

四洮線經營などに關し宋財政部長と会談について

五日南京ニ於テ面會ノ際宋子文ハ本官ニ對シ債務整理問題ト關聯シ満洲ノ鐵道債務ノ件殊ニ四洮線カ何故ニdayセサルヤヲ尋ネタルニ付本官ハ中國側満洲當局ハ建設費多過キルトカ利息高シトカヲ頻リニ訴フルモ問題ノ要點ハ之ニ非シテ同鐵道經營振ノ如何ニ懸ル次第ナリト思考セラル尙満鐵モ充分奉天當局ト協力スル意図ナリト想像スルニ付本件ニ付テハ奉天又ハ大連ニ於テ話ヲ進ムレハ或ハ好結果ヲ齎スヲ得ヘシト認メラル旨答へ置ケリ
北平、奉天へ轉電シ上海、南京へ暗送セリ

69 昭和5年12月10日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）打通線に対する抗議は東北鉄道の全般的調整
交渉に悪影響を与える旨意見具申奉天 12月10日後発
本省 12月10日後着

元來四洮、打通兩線ノ聯絡ニ關シテハ御來示ノ通昭和二年貴電第一七二號ニ關シ

十二月北京協定ニ依リ設計出來セルモ満鐵ニ於テ工事ニ對スル承諾ヲ與ヘサル爲打通側ニ於テ勝手ニ聯絡工事ヲ爲シ我方ハ之ヲ默認シ其ノ後該聯絡設備ハ漸次變更改善セラレ遂ニ今回ノ新設備工事トナレル次第ナリ從テ我方從來ノ打通線ニ對スル抗議ハ固ヨリ撤回セル次第ニアラサルモ支那側ヨリ見テ其ノ國有鐵道ノ聯絡完備ヲ計ルハ自然ノ數ニシテ昭和二年末既ニ聯絡ヲ實現シ其ノ後時日ノ經過ニ從ヒ我方默認ノ下ニ漸次其ノ設備ヲ改善シ今日トナリシモノニシテ現計畫カ北京協定ニ依ル計畫ニ比シ我方ニ更ニ不利ナルハ満鐵ニ於テ北京協定實現ニ同意ヲ與ヘサリシ結果ニシテ其ノ今日アルハ既ニ早クヨリ豫見セラレタル處ナリサレハ四洮線ニ於ケル満鐵代表等ハ本社ニ向ツテ之ヲ新工事費支辨トセス普通經營常費ヨリ支出スルコトトシテ表面満鐵ノ同意ヲ要セシテ北京協定ニ依ル計畫實現ノ得策ナルヲ進言シ將來ノ不利ヲ避ケントシタルモ不幸ニシテ顧ミサリシナリ

一 東北（満蒙）鉄道懸案関係

ナル新聯絡設備ヲ阻止スル唯一ノ併モ容易ナル方法ハ前述ノ四洮線ニ於ケル滿鐵代表ノ進言ノ通北京協定計畫ヲ實現セシムルコトナリト思考ス

⁽²⁾ 本件ハ素ヨリ我抗議ヲ無視シテ敷設セル打通線ニ關スルヲ以テ主義上之ニ抗議シ得ルハ勿論ナルモ事實ハ聯絡實現以來既ニ滿三年ヲ越エタル比較的重要ナラサル事項ト看做シ得ヘキモノニシテ満鐵ノ取扱方如何ニ依リテハ何等ノ問題トモナラス又今後トテモ問題トセスシテ濟マス方將來ノ大

局上有利ナルヤニ思考セラル特ニ亞一機密合第一四九三號御訓令ノ通單ナル抗議政策ハ何等事態ノ好轉ヲ齎ス所以ニアラス將又支那側ノ反滿鐵熱ヲ出來得ル限り除去スル必要

アルニ顧ミ此ノ際本件ニ對シ抗議スルハ我方トシテハ果シテ得策ナリヤ疑ナキ能ハス殊ニ目下滿蒙鐵道問題ニ關シ我

方ヨリ近ク何等力積極的交渉ヲ爲スヘシト旺ニ宣傳セラレ支那側ニモ相當反響ヲ與ヘ居ルヘシト想像セラル折柄本

件抗議ヲ提出スルハ徒ニ反感ヲ招クニ終リ近ク開始セラルヘキ滿蒙鐵道ノ全般的調整交渉ニモ惡影響ナキヲ保シ難シト考ヘラル

本件聯絡ニ關スル四洮打通間從來ノ接觸ニ關シテハ本省ニ

對シ滿鐵ヨリ詳細ナル報告ナキヤモ計ラレサルヲ以テ此ニ簡單ニ事實ヲ具シ冒瀆ヲ顧ミス卑見ヲ開陳シ御詮議ヲ仰ク尙近ク張學良歸來ノ曉ニハ彼ト會見ノ機ニ於テ日支共存共榮ノ根本義ヲ篤ト説明シ鐵道競争ノ無益ナルヲ覺ラシメ今後ノ交渉ニ便ナル下地ヲ作ルニ極力努力ノ所存ナリ御含迄支、北平、南京へ轉電セリ

70 昭和5年12月10日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

四洮鐵道より打通線連絡のための臨時弁法提示について

奉天 12月10日後発 本省 12月10日後着

第五九一號

往電第五九〇號ニ關シ

本件協議ノ爲十日滿鐵石川交涉部次長及鈴木四洮鐵路工務所長來訪セル處工務所長ノ談ニ依レハ四洮側ニ於テハ貴電第一七二號御來示ノ打通側作製ノ新聯絡計畫力四洮ニ不利ナルニ鑑ミ別ニ臨時辦法ヲ作製シ北寧鐵路局ト協議ノ爲數

日前係員ヲ天津ニ派遣セル趣ノ處右辦法ハ北平協定迄ハ行カサルモ打通側ノ計畫ニ比較スレハ滿鐵ニトリ有利ナル趣ナルニ付テハ往電第五九〇號稟申ノ事情ニモ鑑ミ此ノ際滿鐵ヨリ四洮側ニ對シ事實上北平協定ノ實現ヲ見ル様然ルヘク仕向クルヲ可トスヘク最惡ノ場合ニ於テモ前記新辦法位ニテ一應穩便ニ折合ヒ置ク方得策ナルヘク必要ニ應シ本官ヨリモ支那側ニ對シ右程度ニテ談合ヲ試ムルコトト致度シ支、北平、南京へ轉電セリ

幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使（宛）（電報）
在奉天林總領事宛

満鉄による鉄道問題交渉に対する我が方方針
について

別電 十二月十二日發幣原外務大臣より在中国重

右我が方方針

本省 12月12日發

滿洲ニ於ケル鐵道問題打開策ニ關スル我方大體方針ニ關シ

第(一) 號（極秘）

第(二) 號（極秘）

中競争線ニ關スル抗議撤回ノ如キハ當然政府ノ爲スヘキ事柄ニシテ滿鐵トシテハ今後政府ノ方針ヲ體シ局面打開ニ努力スル中相當満足シ得ヘキ結果ヲ得タル場合競争線ノ抗議^(撤)撤回方政府ニ進言シ得ルノ立場ニ在ルニ過キサルト同時ニ政府トシテハ滿鐵ノ本件交渉ニ付陰ニ陽ニ極力之ヲ支持スヘキハ勿論必要ニ應シ何時ニテモ右滿鐵ノ交渉ニ干涉シ又ハ交渉ノ一部若ハ全部ヲ政府ノ手ニ引取ルノ已ムヲ得サル場合アルヘキ次第ナリ故ニ滿鐵側ハ我在滿關係領事館ヲ通シ其ノ交渉ノ經過ヲ絶ヘス政府ニ申報スヘキハ勿論我力在滿關係領事館竝ニ在支公使ト恒ニ密接ナル連絡ヲ保持スヘキモノトス

二、本件方針中記載ノ諸事項即チ支那側ノ受クヘキ利益（借款條件ノ緩和、抗議^(撤)撤回、新線ノ建設支持其ノ他滿鐵ノ提供シ得ヘキ種々ノ便益）ト我方ノ受クヘキ對償（致命的競争線ノ建設差控、聯絡協定ノ確立、懸案鐵道ノ敷設促進）トハ彼我共存共榮ノ根本義ニ立却シ表裏離ルヘカラサル關係ニアリテ右我方ノ受クヘキ對償中懸案鐵道ノ建設ハ差當リ之ヲ迫ルヲ爲サストスル

ス

編注一 共に電報番号不明
編注二 在奉天林總領事より
昭和5年12月12日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛

吉海・瀋海鐵道の運賃改定などにより滿鉄に与える打撃甚大なる状況について
(12月17日接受)

機密公第八九二號 昭和五年十二月十二日 在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
支那鐵道ノ滿鐵線トノ競争ニ關スル件

瀋海吉海及北寧三鐵道ノ列車直通運行ハ本年十一月ヨリ實施セラレタルハ既報ノ通りナル處右ハ單ニ客車ノ運行ニシテ滿鐵ニ對シテハ格別ノ影響ナカルヘシト思料セラルルモ吉海瀋海兩鐵道ハ客年來貨物ノ連絡輸送ヲ開始シ銀建貨銀ノ有利ナルト相俟テ從來滿鐵本線開原、鐵嶺、四平街方面ニ馬車輸送ニヨリ出廻リ居リタル東山地方ノ特產物ヲ吸集

モ當面ノ急務タル競争線及聯絡協定ニ對スル我力要求ニシテ先方ノ容ル所トナラサル限り前記我方ノ與フヘキ便益ハ當然問題トナラサル次第ナリ
固ヨリ交渉ノ懸引殊ニ交渉ノ^(要次)圍氣ヲ良好ニ導カム力爲先ツ以テ借款條件等ノ緩和ヨリ開談スルコトハ何等差支ナキ儀ナルモ結局ニ於テハ前記我方要求ノ容諾ヲ待ツテ右便益ノ提供ヲ確認スヘキモノトス換言スレハ問題ヲ一ツ一ツ決定スルニアラスシテ全部ニ亘リ談合ノ結果ヲ検討シ滿洲ニ於ケル鐵道問題ノ局面打開ヲ爲スニ足ルモノアリト認メタル場合ニハ一括シテ取極ノ他ノ確認手段ニ出ツヘク又若シ不幸ニシテ先方ノ態度我希望ニ添ハサルモノアルモ直ニ本件根本方針ヲ抛ツコトナク假令交渉ノ一部又ハ全部ヲ政府ノ手ニ引取ルノ已ムヲ得サル場合アリトスルモ本方針ニ據リ根強ク交渉ヲ繼續シ必要ニ應シ本件交渉ノ經過ヲ列強ニ内報スルト共ニ場合ニ因リテハ之ヲ公表シ支那側ノ反省ヲ促スト同時ニ我立場保全ノ爲緩急ニ應シ適當ノ自衛措置ヲ講スルモノトス

シ其ノ戻リ荷トシテ輸移入貨物モ從ツテ增加シツアリ然ルニ兩鐵道ノ貨銀協定ヲ見ス吉海線ハ吉林大洋、瀋海線ハ現大洋ニテ各々汽車貨銀ヲ區分收納シ居リ吉海線ノ如キハ其ノ通過地及背後地ノ不利ナル爲メ同線ノ收入ニハ格別有利ノ影響ナカリシ趣ナルカ右兩鐵道ハ東北交通委員會ノ指令ニ基ツキ本年九月一日ヨリ吉林、奉天間直通運賃ノ改定ヲ行ヒ等シク運賃ヲ現大洋ニテ收納スルニ至レリ
右運賃ハ別表^(者替)ノ通り從前ニ比シ著シキ増率トナリ居リ殊ニ吉海鐵道ハ現大洋建トナセル爲メ約倍額ノ收入增加ヲ來ス譯合ニシテ同線ノ經濟ニ好影響ヲ與フルハ勿論貨物吸集上ヨリ看ルニ吉林ヲ起點トシ奉天迄ノ特產物一頓當リ貨銀ハ吉海線現大洋五元十二仙、瀋海線現大洋七元二仙計十二元十四仙ニシテ之ヲ金ニ換算シ約六圓十五錢ナル處吉林ヲ起點トシ吉長及滿鐵ヲ經由シテ奉天迄ノ特產運賃ハ金十圓四十錢トナリ吉林當地間ノ運賃ハ支那側鐵道ヲ利用スル方非常ニ有利ナレハ貨物ハ兩鐵道ヲ利用シ滿鐵ニ與フル影響大ナルモノアルヘク殊ニ該兩鐵道ハ十一月二十七日ヨリ吉林奉天間ノ特產輸送ニ限リ別表ヨリ更ニ一割五分ノ割引ヲ行ヒ尙沿線主要驛ニ於テモ輸送業者ヲ利用シ秘密割戻シヲ

實行シ居レリトノ聞込モアリ且兩鐵道ハ北寧線ト相通シテ

責任輸送ヲ開始スル意向ヲ有シ目下ソノ實施方法等考究シ

居ル趣キニシテソノ實現ハ設備其ノ他ノ關係ニ依リ早急ニ

ハ行ハルコトナカルヘキモ愈々右實現ヲ見ルニ至ラハ奉天

以南ハ北寧線ヲ利用シテ營口秦皇島方面ニ仕向ケラルモノ

ノ一層增加シ滿鐵ニ與フル打擊ハ甚大ナルヘシ

滿洲西部四鐵道ハ本年九月ヨリ貨物ノ責任輸送ヲ試辦シ居

ル處設備其他不充分ニシテ貨物ノ缺損甚タシク其補償金額

ハ巨額ニ達シ試辦成績トシテハ未タ充分ノ效果ヲ擧ケ居ラ

サルモ商人ノ右責任輸送ヲ利用シテ四洮鐵道沿線ノ特產物

ヲ吸集スルモノ漸次增加シ居ル趣ニシテ此方面ニ於ケル支

那鐵道ノ滿鐵ニ與フル打擊モ些少ナラサルヘシ

右報告ス

本信寫送付先 中華民國代理公使、北平首席、吉林、

長春、

73 昭和5年12月16日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

東北各鐵道代表の全國鐵道運賃會議への出席

方鐵道部より申越しに關する密電情報

奉天 12月16日後發

本省 12月16日後着

第五九七號

密電情報ニ依レハ鐵道部ハ九日附電報ヲ以テ東北政務委員會ニ對シ明年一月十五日南京ニ於テ全國鐵道運賃會議ヲ開クヘキニ付東北各鐵道ヨリ代表者ヲ出席セシメラレ度ク且所轄商會ニ對シ本年末迄ニ農產工業貨物出產及消費狀況、

水陸運輸狀況、鐵道運賃規定ニ關スル意見等詳細取調ヘ鐵道部ニ報告方示達アリ度キ旨申越セリト云フ

支、北平、南京、天津、濟南、青島、漢口へ轉電シ、哈爾賓、齊々哈爾、吉林、長春へ暗送セリ

74 昭和5年12月16日 中谷閔東府警務局長より
永井（松三）外務次官他宛

南京政府による鐵道建設計画の大綱について
(12月22日接受)

關機高收第一八一二號ノ二
昭和五年十二月十六日

關東廳警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿
内務省警保局長殿
管下各警察署長殿

最近支那本部鐵道新建設計畫並ニ資金

（滿鐵情報）

南京政府ハ建設事業ノ大宗ヲ鐵道ニオキ、銳意鐵道部ヲシテ其既成線ノ整理ト、新線建設ニ努メシメテ居ルコト一般周知ノ如クナルモ其具体的整理方策ト新建設ニ對スル實力ニ關スル資料少シ

技師マンテル（元イリノイセントラル副社長）、橋梁技術ノ權威ワツデル博士ヲシテ支那既存鐵道ノ症狀ヲ診察サセ

其忌憚ナキ診斷ニ聽ケルコトハ頗ル推賞ニ值スルトコロナリキ
特ニマンテル氏ハ全線ヲ約一ヶ年ニ亘テ視察シ各鐵道別經營方法ニ對スル精細ナ批判ト改善方策トヲ大冊ナ報告書トシテ鐵道部長孫科ニ提出シテ一昨年末歸米セリ、爾來鐵道

部ハ夫ニ據テ種々ノ改善策ヲ建テ整理建設ニ努力ヲ向ケントシタルモ奈何セム昨年モ亦例年ノ如ク内亂ニ終始シタルタメ豫定計畫ノ緒ニ就キシモノ極メテ小範圍ニ過キサリシニ今ヤ戰亂一段落ヲ見タレハ南京政府ノ基礎更ニ固キヲ加ヘタルヲ以テ豫定計畫ノ進展速度ヲ加フルコト明ナリ加之滿洲政權ノ南京合作熱ハ人々ノ豫想以上ニ濃厚ニシテ特ニ鐵道當局ハ着々トシテ滿洲ト支那本部トノ統一化ニ努メ、吉林北平直通、奉天南京直通交通實現セラレ更ニ進ンテ種々ノ合作々業ニ進出セントスル傾向顯著ナルモノアリ、嘗テハ國有鐵道中斷者トシテ中央政權ニトリテノ一大障害タリシ滿洲政權ハ今ヤ全ク隔世ノ感アル現狀ナリ

今次戰亂ノ結束並ニ今後ノ建設計畫ノ目論見會議タリシ四中全會ニ提出セル鐵道部ノ提案ハ最近ノ支那鐵道ノ整理建設方向ヲ窺知スル一資料ナルヲ以テ其抄譯ヲ提供スル本抄譯理解ノ便ニ供スル爲、南京政府鐵道部成立以來ノ新線計畫ノ大體ヲ述ヘンニ鐵道建設ノ大綱ハ孫文ノ實業計畫ニ基キ之ヲ民國十八年二月ノ中央政治會議ニ於テ第一期鐵道建設具体案修正通過セリ、其第一組ニ含マルモノハ(1)

一 東北（滿蒙）鐵道懸案關係
南京政府ハ既設線整理組織化基本計畫準備トシテ米國専問
技師マンテル（元イリノイセントラル副社長）、橋梁技術ノ權威ワツデル博士ヲシテ支那既存鐵道ノ症狀ヲ診察サセ
其忌憚ナキ診斷ニ聽ケルコトハ頗ル推賞ニ值スルトコロナリキ
特ニマンテル氏ハ全線ヲ約一ヶ年ニ亘テ視察シ各鐵道別經營方法ニ對スル精細ナ批判ト改善方策トヲ大冊ナ報告書トシテ鐵道部長孫科ニ提出シテ一昨年末歸米セリ、爾來鐵道

粵漢線未成部分（株州—韶關間二七〇哩、敷設豫算六五、
基キ之ヲ民國十八年二月ノ中央政治會議ニ於テ第一期鐵道建設具体案修正通過セリ、其第一組ニ含マルモノハ(1)

一 東北（満蒙）鉄道懸案関係

○○○、○○○元) (2) 龍海線未成分（瀋陽—蘭州間六五七哩敷設豫算八七、六五〇、○○○元) (3) 滄石線（一三八哩、豫算一一、九二八、八三〇元) ノ三線ナリキ、同年三月開カレタ國民黨第三次全國代表大會並ニ第二次中央全体會議（六月）ニ於テハ、滄石線ノ代リニ新龍綏線（包頭寧夏線ノ大延長）ヲ以テセリ

之ヲ建設資金ノ方面ヨリ見ルニ支那目下利用可能資金ハ専ラ團匪賠款拂戻資金ニヨルモノナリ、孫科案ニヨレハ「文化基金投資築路辦法」「庚款築路公債計畫」及「關稅築路公債計畫」ノ三方法アリ、文化基金投資築路トハ露、伊、英三國ノ庚子賠款ニ當ル文化事業資金ヲ鐵道部ニ管理セシメ其利子年四分ヲ以テ文化教育事業費ヲ支出セントスルノ案トス（二中全會承認）民國十九年以後二十年（同三十八年迄ノ分）間總計二億六千七百十四萬二千八百十二元、伊太利分ノ内實業基（水力電氣事業ニ振當ツ）二千四百八萬元ヲ差引クトキハ二億四千三百六萬二千八百十二元トナル其ノ三分ノ二即一億六千二百餘萬元ヲ以テ前記三線建設ニ充當スルコトカ三全大會及二中全會ノ決議ニヨリ決定セラレタリ、孫科案ノ第二「庚款築路公債計畫」ハ之ノ基金ヲ

擔保トシテ建設公債ヲ發行スルモノニシテ其最初發行豫定額一億三千五百萬元トセラル
三全大會、二中全會ニ於テ孫科ノ第一組案カラ除カレタル滄石線ハ、浙江省内ノ杭江線、浙皖線等ト同性質ノ故ヲ以テ地方政府又ハ地方資金ヲ以テ完成スルコト不可能ニ非ストノ見解ヨリ之ヲ除キ國家資金ニヨルヲ要スルモノハ長距離、國家的重要性ヲモツ線トノ原則ニ從ヘル結果トス故ニ滿洲ニ於ケル敷設線ニ文化基金ノ進出ハ既定案ニ存在セサルノミナラス本部ニ於ケルヨリ重要線（南京政府ニトリ）ニ集中スルヲ當然トシ特ニ英國分ハ沿革的ニモ、南京政府、英國官憲ノ心理上ヨリスルモ粵漢線未成部分ニ利用セラルコトハ殆ト疑ナキニ近カラム

孫科ノ四中全會ヘノ提案ハ次ノ三案ナリ

- 一、國民鐵道所要購買材料ニ對スル課稅ヲ三ヶ年間免スルノ案
二、伊太利庚子賠款三分ノ二ヲ龍海線完成ニ補充シ殘金ヲ以テ鐵橋梁修理ニ充當スルノ案
三、露國庚子賠款ノ三分ノ二ヲ龍海線完成ニ充當スルノ案

75 昭和5年12月17日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
張學良が瀋陽に未帰來のため鉄道交渉開始で
きずとの報告について

奉天 12月17日後発
本省 12月17日後着

第五九八號

貴電第一七七號ニ關シ

張學良未タ歸奉セス高紀毅初メ北寧線ノ幹部モ亦天津ニ赴キ不在ニテ目下ノ處本件交渉上適當ノ對手方ナキ實情ナルニ依リ學良等歸奉次第速ニ措置スヘキニ付右御含置相成度代理公使、北平、南京へ轉電セリ

鉄道交渉を重大視する臧式毅の口吻について

76 昭和5年12月21日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天 12月21日後発

本省 12月21日後着

貴電第一七七號ニ關シ
張學良未タ歸奉セス高紀毅初メ北寧線ノ幹部モ亦天津ニ赴キ不在ニテ目下ノ處本件交渉上適當ノ對手方ナキ實情ナルニ依リ學良等歸奉次第速ニ措置スヘキニ付右御含置相成度代理公使、北平、南京へ轉電セリ

鉄道交渉を重大視する臧式毅の口吻について

上海へ公使ヨリ轉報アリタシ

北平、代理公使、南京へ轉電セリ

第六〇九號

77 昭和5年12月21日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

鉄道交渉開始にあたり軍部の硬化は注意を要する旨意見具申

奉天 12月21日後発

本省 12月21日後着

第六一〇號（極秘）
十九日東京發聯合ハ滿蒙鐵道問題ニ關聯シ我軍部ノ態度硬化ヲ傳ヘ居ル處支那側ニ於テハ既ニ今夏來我軍部ノ對東三省態度硬化シツツアリト疑ヒ居ル様子アリ又當館ノ得タル情報中ニモ若手將校間ノ對東三省觀カ著シク硬化シツツアルヤヲ想像セラルモノアリ滿蒙ノ交渉開始ヲ目前ニ控ヘ乍ラ此ノ種ノ通信ノ盛ニ傳ヘラルハ支那側ヲシテ我方力脅威的態度ニ出ツルノ感ヲ抱カシメ平和的交渉ニ影響ヲ及ホス惧ナントセス他方若手軍人間ニ釀シツツアルヤニ想像セラル硬化的^{暴氣}圍氣ハ皇姑屯事件ノ先例モアリ相當注意ヲ要スルヤニ思考セラル

78 昭和5年12月23日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
通遼洮南間鉄道設計画阻止のための我が方具体的の方策につき請訓

奉天 12月23日後発

本省 12月23日後着

第六一三號（極秘）
滿蒙ニ於ケル支那側鐵道計畫ニ對スル我方ノ方針並對策ニ關シテハ累次ノ御訓令ノ次第有之處支那側ニ於テ早晚通遼洮南間ノ鐵道建設ヲ企圖スヘキハ打通洮昂ノ關係其ノ他諸般ノ事情ニ徴シ自然ノ趨勢ト認メ得ヘク機密公第八八五號所報支那側ノ鐵道計畫中ニ於テモ同線ヲ以テ第一ニ著手スヘキ三線ノ一二數ヘ居ル實情ナリ同線ノ敷設力滿鐵ニ對シ致命的影響ヲ與フルヤ否ヤハ暫ク別問題トスルモ鄭家屯經由ニ比シ遙カニ甚大ナル打擊ヲ與フヘキハ言ヲ俟タサル處ニシテ帝國政府ニ於テ同線ノ敷設ニ對シテハ打通海吉ノ場合等トハ異リ之力建設ヲ阻止スルニ付凡ユル手段ヲ執ラレントセラルモ右ノ事情ニ出ツルモノト拜察ス

本官トシテハ今後滿洲側ニ於ケル交渉ノ模様並支那側計畫ノ進捗等事態ノ展開如何ニ應シ支那側ニ對シ談合ヲ開始スルノ必要アリト思考シ居ル處支那側最近ノ風潮並遺リ口ニ徵スレハ單ナル交渉ノミヲ以テ本件延長線ノ建設ヲ阻止シ得サルヘキコト殆ト疑フ容レサル處ニシテ當地ニ於ケル交渉ニ當リテモ我方所期ノ目的ヲ達セんカ爲メニハ機宜ニ應シ緩嚴兩様ノ手心ヲ加へ支那側ヲ誘導スルコト肝要ナリト思考セラル就テハ當方交渉上ニ於ケル駆引等ノ都合モ有之前記延長線等ヲ阻止スル力爲ニ用ヒラレントスル「凡有手段」ニ就キ如何ナル具體的考案ヲ有シ居ラル次第ナリヤ豫メ本官含ミ迄ニ御垂示ヲ得ハ幸甚ナリ

公使、北平へ轉電セリ

79 昭和5年12月24日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

鉄道交渉などに關する張作相との会談について

奉天 12月24日後発

本省 12月25日前着

廿四日作相ニ面談ノ節談日支國交ノ改善ニ及ヒタルヲ以テ本官ハ最近兩國ノ新聞ニ日支關係ノ將來ニ關シ頗ル好マンカラサル記事ヲ掲クモノ多キ處之等新聞報道ノ如何ニ拘ラス我政府ニ於テハ飽ク迄日支親善ニ努力スル根本方針ヲ改メ斯傳ヘラル所ノ滿鐵交渉ト言フカ如キモ何等積極的ノ要求ヲ爲サントスル腹ナク唯貴我親善ヲ促進スル必要上多年來ノ懸案ヲ出來ル丈ヶ早ク解決スルノ一事ハ本官當地着任以來常ニ政府ニモ建議シ滿鐵當局ニモ懇惫シ來レル處ニシテ鐵道ニ關シテハ支那側ヨリ謂ヘハ借款鐵道ノ整理末濟ノモノ或ハ利子引下ケ等ノ問題アリ我方ヨリ謂ヘハ打通吉海線等力條約ニ依ル我抗議ヲ無視シテ敷設セラレタル等ノ言分アリ其ノ間ニ未タ圓滿ナル協定ヲ遂ケ居ラサルヲ以テ是等ノ問題ハ一括シテ出來得ル丈ヶ早ク整理セサルヘカラスト思考シ居レリト語レル處作相ハ汪榮寶ノ報告ニ依レハ張學良ト蔣介石ト會見シ排日ニ關スル相談ヲ爲セリ等ノ誤報日本新聞ニ傳ハレリトノコトナルカ支那側ニ於テ右ノ如キ相談ヲスル理ナキハ勿論ナリ唯鐵道交渉ニ關シテハ新聞ノ報道モ全然種ノ無キモノニハ非サルヘキモ支那側財政ノ現狀ニテハ到底借款ナシニ積極的ニ鐵道敷設ヲ爲シ得サ

一 東北（満蒙）鉄道懸案関係

ル状態ニ在リト述ヘタルニ依リ本官ハ更ニ滿鐵ノ交渉ニ對スル態度ハ全然當地方ニ於ケル兩國間ノ誤解ノ種一掃ト親善促進ヲ目的トスルモノニ外ナラサルコトヲ懇説シ置キタ

ル由ナル處近來我機密ノ支那側ニ漏ルル例鮮ナカラサルヤノ疑アリ御参考迄

ルカ彼ハ昨今ノ鐵道交渉ニ關スル新聞報道ニ餘程關心ヲ有スル如キ様子見ヘタリ

公使ヨリ上海へ轉電アリタシ
支、北平、南京、吉林へ轉電セリ

81 昭和5年12月26日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

全國鐵道運賃會議は明年三月一日召集について

南京 南京

本省 12月26日後着 発

80 昭和5年12月24日 在大連木村滿鐵理事より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良が東北問題に関する外務省協定案入手

との情報について

大連 12月24日後発

本省 12月24日後着

亞細亞局長ヘ

小職ノ利用セル聯絡者ノ内報ニ依レハ張學良ハ其ノ南下前月一日ニ召集スルコトトナレル趣ナリ

満蒙問題ニ關スル外務省協定案（多分三月總裁ト御協議ノモノ）ヲ密ニ入手シ百部ヲ内密ニ印刷南京ニ携行シ協議セ

哲と会談について

82 昭和5年12月27日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

鉄道問題に関する蔣・張協議説などにつき劉

北平、代理公使、奉天、青島、濟南へ轉電セリ

第九四六號
往電第八八五號ニ關シ

廿六日鐵道部陳司長ノ語ル所ニ依レハ全國鐵道會議ハ愈三月一日ニ召集スルコトトナレル趣ナリ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

北平、代理公使、奉天、青島、濟南へ轉電セリ

83 昭和5年12月27日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛

北寧鐵路による通遼行貨物運賃割引き廣告に

本信寫送付先 在華公使、北平首席、天津總領事

記

第六二三號
奉天 12月27日後発
本省 12月27日後着

公第九二九號

（昭和6年1月7日接受）

昭和五年十二月二十七日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

北寧鐵路ノ通遼行貨物運賃割引ニ關スル件

本件ニ關シ北寧鐵路當局ハ十二月二十四日附ヲ以テ左記ノ通り廣告ヲナシ居レリ右何等御參考迄報告ス

ル狀況ニテ鐵道網ノ完成ノ如キ思ヒモ及ハサル所ナリト述ヘ尙法權問題ニ關聯シ廳テ滿鐵附屬地、鐵道用地並ニ關東州等モ問題トナルヘキモ只今ハ到底其ノ時期ニ非スト述ヘ居タリ

代理公使、北平、南京ニ轉電セリ

83 昭和5年12月27日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛

北寧鐵路による通遼行貨物運賃割引き廣告に

ついて